



Count on it.

Form No. 3420-235 Rev B

オペレーターズマニュアル

Polar Trac® キャブ

Groundsmaster® 7200 シリーズ芝刈り機用

モデル番号30474—シリアル番号 316000001 以上

モデル番号30675—シリアル番号 316000001 以上



G004960



この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細についてはこの冊子の末尾にあるDOI適合宣誓書をご覧ください。

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

はじめに

このキットは回転刃を使用するロータリー式乗用芝刈り機を除雪車両に変更コンバートするための製品であり、変更後の除雪車両はプロのオペレータによって運転操作されるものとして製造されています。

このキットはキャブモデル 30474と共に使用します。ただし、若干の改造を行うことにより 30371 にも使用することができます。詳細については、総代理店にご相談ください。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

弊社のウェブサイト www.Toro.com で安全講習や運転講習の狩猟、アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

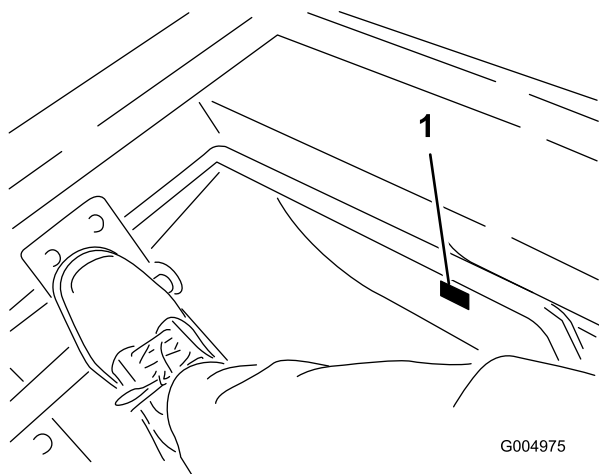


図 1

1. 銘板取り付け位置

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号 (図 2) を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



図 2

g000502

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

目次

安全について	4
安全ラベルと指示ラベル	4
組み立て	7
1 マシンの準備を行う	9
2 防熱シールドを取り付ける	9
3 ヒーターホースを組み立てる	10
4 バルクヘッドブラケットを取り付け る	12
5 ヒーターホースを配設する	14
6 超音波センサーを取り付ける	18
7 ウォッシャー液ボトルを取り付け る	18
8 ワイヤハーネスを取り付ける	21
9 スキッドプレートを取り付けるクボタモデルの み	25
10 ROPSを取り外す	25
11 夏用フレームを取り外す	25
12 キャブを取り付ける	29
13 冬用フレームを取り付ける	31
14 組み立てを完了する	38
製品の概要	39
各部の名称と操作	39
室内温度コントロールパネル	40
照明コントロールパネル	40
後窓用ラッチ	41
ペダルの操作	41
運転操作	41
安全を第一に	41
アタッチメントの使い方	42
除雪機用ワイヤを配設する	42
冬用フレームを取り外す	42
夏用フレームを取り付ける	47
保守	51
推奨される定期整備作業	51
潤滑	51
グリスアップと注油	51
電気系統の整備	51
ヒューズの点検	51
走行系統の整備	52
タイヤ空気圧を点検する	52
キャブの保守	52
Cabキャブの清掃	52
エアフィルタの清掃	53
保管	54
マシンの保管	54

安全について

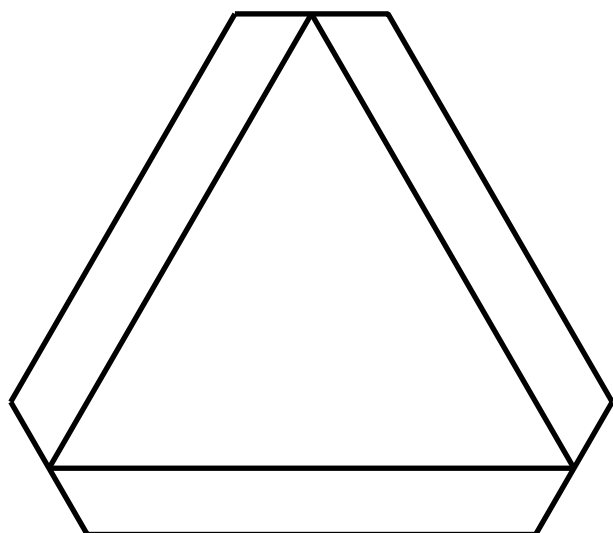
不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、人身事故につながります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください。これは「注意」、「警告」、「危険」など、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生することがあります。

安全ラベルと指示ラベル



危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。

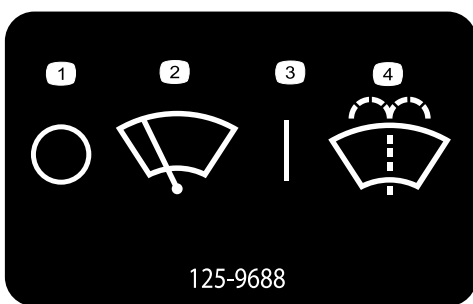
このキットに入っている機器には必要に応じて以下のような指示ステッカーが貼付してありますので、取り付け作業の参考としてください。



120-0250

decal120-0250

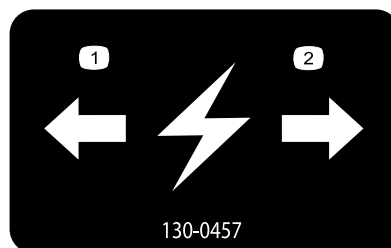
1. 低速走行車両標識



125-9688

decal125-9688

- | | |
|------------|----------------|
| 1. ワイパーOFF | 3. ワイパーON |
| 2. ワイパー | 4. ウィンドウオッシャー液 |



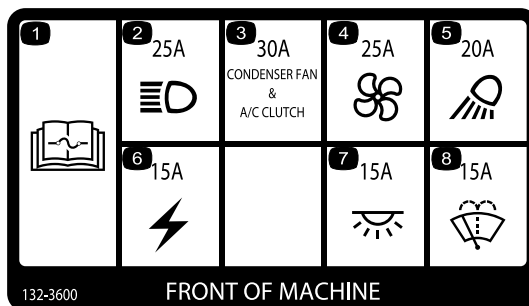
130-0457

decal130-0457

130-0457

1. 左

2. 右



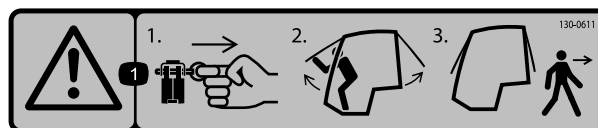
132-3600

FRONT OF MACHINE

132-3600

decal132-3600

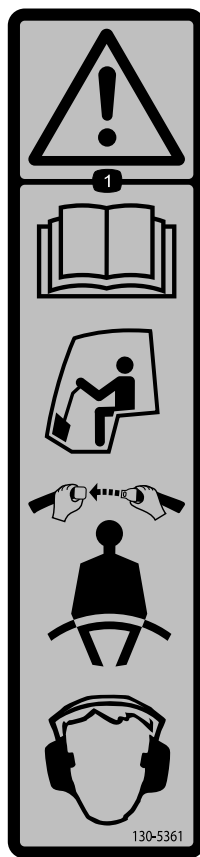
- | | |
|---------------------------------------|---------------|
| 1. ヒューズに関する詳しい情報は オペレーターズマニュアルを参照のこと。 | 5. 作業用ライト—20A |
| 2. ヘッドライト—25 A | 6. 補助電源—15 A |
| 3. 凝縮器ファンとエアコンク
ラッチ—30A | 7. 室内照明—15 A |
| 4. ファン—25A | 8. ワイパー—15A |



130-0611

130-0611

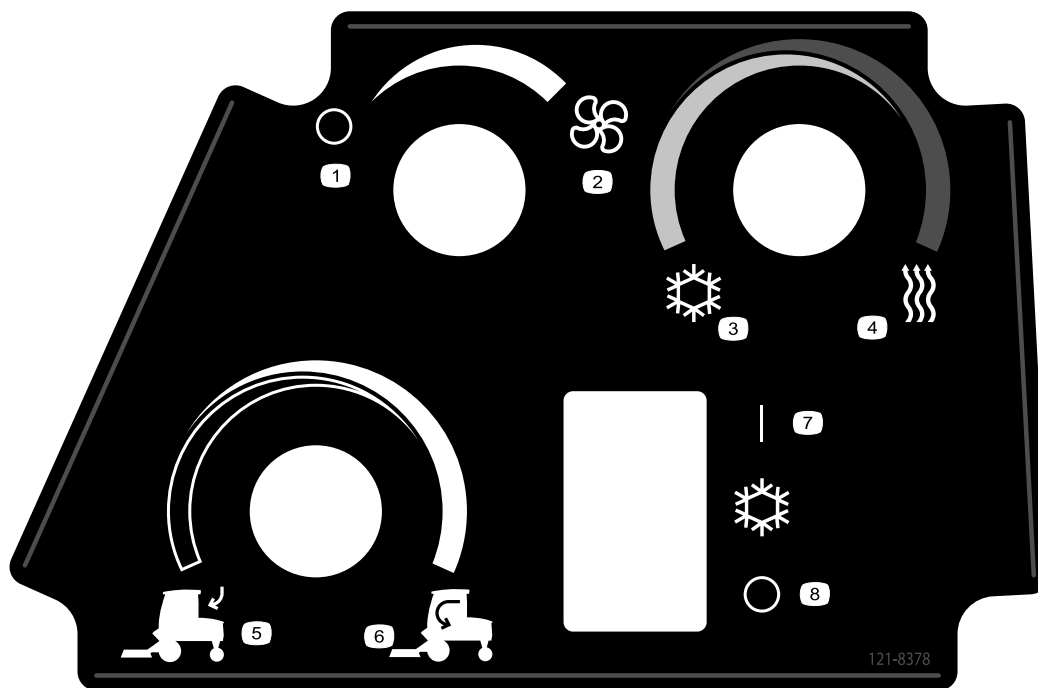
1. 警告 1)ピンを抜き、2)ドアを押し上げて、3)車両の外へ出る



decal130-5361

130-5361

1. 警告: オペレーターズマニュアルを読むこと; 必ず運転席に着席して運転すること; シートベルトを着用すること; 聴覚保護具を着用すること。
-

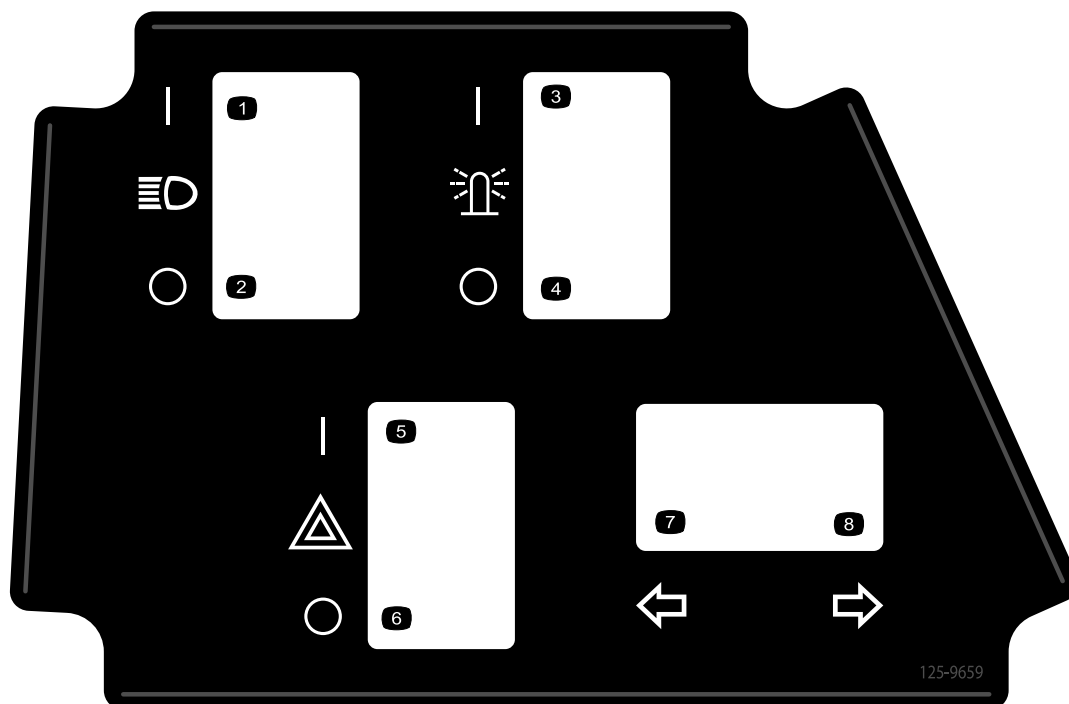


121-8378

decal121-8378

121-8378

- | | |
|-------------|------------|
| 1. ファンOFF | 5. 外気 |
| 2. ファンON 最大 | 6. 室内空気 |
| 3. 冷気 | 7. エアコンOFF |
| 4. 暖気 | 8. エアコンON |



125-9659

decal125-9659

125-9659

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. ヘッドライト: ON | 5. ハザードライト: ON |
| 2. ヘッドライト: OFF | 6. ハザードライト: OFF |
| 3. キャブライト: ON | 7. 方向指示器左 |
| 4. キャブライト: OFF | 8. 方向指示器右 |

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	—	キットを取り付ける前にマシンの準備を行います。
2	リアパネルシールド 運転席下のシールド	1 1	防熱シールドを取り付けます。
3	ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブ ホースクランプ 1/2" - 1 1/4" ホースクランプ 3/4" - 1 1/2" 字フィッティング メスのダストフィッティング オスのダストフィッティング	1 4 1 1 1 1	ヒーターホースを組み立てます。
4	ハトメ バルクヘッド用ブラケット ボルト 5/16" x 5/8" R クランプ キャリッジボルト 1/4" x 3/4" フランジナット 1/4"	1 1 2 2 2 2	バルクヘッドブラケットを取り付ける
5	ホースクランプ 1/2" - 1 1/4" ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブ 温度センサーヤンマーエンジンのみ アダプタヤンマーエンジンのみ)	1 1 1 1	ヒーターホースを配設します。
6	必要なパーツはありません。	—	温度センサーを取り付ける。
7	ウォッシャー液ボトル ブラケット R クランプ キャリッジボルト 5/16" x 1" ボルト 5/16" x 3/4" フランジナット (5/16") キャリッジボルト 1/4" x 3/4" ナット (1/4"	1 1 1 3 2 5 1 1	ウォッシャー液ボトルを取り付けます。
8	ワイヤハーネス リレー ヒューズ 60 A ヒューズ 10 A ケーブルタイ ワイヤハーネスヒューズキット P/N 92-2641 別途購入のこと キースタートハーネス P/N 107-0672 別途 購入のこと	1 1 1 2 3 1 1	ワイヤハーネスを取り付けます。

手順	内容	数量	用途
9	スキッドプレート	1	スキッドプレートを取り付けます。
	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $1\frac{1}{4}$ "	2	
	ボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"	2	
	フランジナット $\frac{3}{8}$ "	4	
10	必要なパーツはありません。	—	ROPSを取り外します。
11	ローラアセンブリ	2	夏用フレームを取り外します。
	左ブラケット	1	
	右ブラケット	1	
	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $2\frac{1}{4}$ "	2	
	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $\frac{5}{8}$ "	2	
	フランジナット $\frac{3}{8}$ "	4	
	クレビスピン	2	
	タッピングねじ $\frac{1}{4}$ "	2	
	ホースプラグ	2	
12	キャブ	1	キャブを取り付けます。
	バルブシール	2	
	後部ウレタンシール	1	
	右後ウレタンシール	1	
	左後ウレタンシール	1	
	右中ウレタンシール	1	
	左中ウレタンシール	1	
	右タンク用ウレタンシール	1	
	横前用ウレタンシール	2	
	前用ウレタンシール	1	
	左横用ウレタンシール	1	
	右横用ウレタンシール	1	
	ゴム製アイソレータ	4	
	ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ "	4	
	ワッシャ $\frac{1}{2}$ "	4	
	ワッシャ大	4	
	ナット($\frac{1}{2}$ "	4	
	ボルト $\frac{3}{4}$ " x $3\frac{1}{2}$ "	2	
	ロックナット $\frac{3}{4}$ "	2	
13	冬用フレーム	1	冬用フレームを取り付けます。
	カップラリンク	2	
	ボルト $\frac{3}{4}$ " x 4"	2	
	ワッシャ $\frac{3}{4}$ "	2	
	供給側ホースのカバー	1	
	戻り側ホースのカバー	1	
14	必要なパーツはありません。	—	組み立てを完了します。

1

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 平らな場所に駐車し、刈り込みデッキを一番低い刈高にセットし、エンジンを停止させ、キーを抜き取る。
2. バッテリーのマイナス (-) 端子に接続されているケーブルを外す。
3. エンジン冷却液の温度が下がるのを待って冷却液を抜き取る サービスマニュアルを参照。
4. 機体からフードを外して脇に置く サービスマニュアルを参照。

2

防熱シールドを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	リアパネルシールド
1	運転席下のシールド

エンジンリアパネルシールドを取り付ける

1. 運転席を一番前の位置に移動させて後部パネルへのアクセスを確保する。
2. スエルラッチ3個を外してリアパネルを外す 図 3。

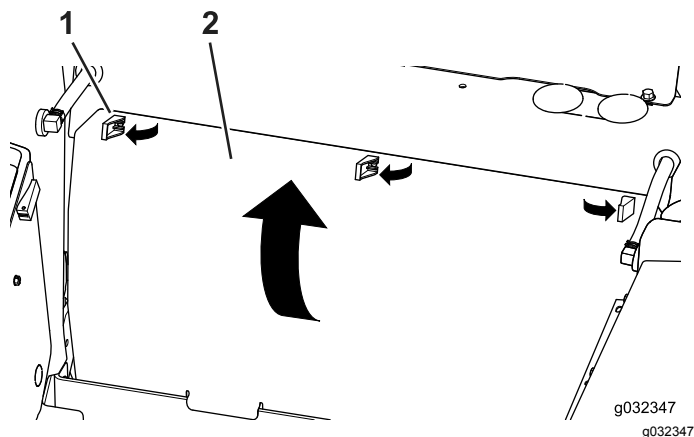


図 3

1. スエルラッチ
2. バックパネル

3. プレートの裏側のシールドを貼り付ける部分をきれいにする。
4. 防熱シールドの裏紙をはがしてリアパネルのエンジン側の面に貼り付ける 図 4。

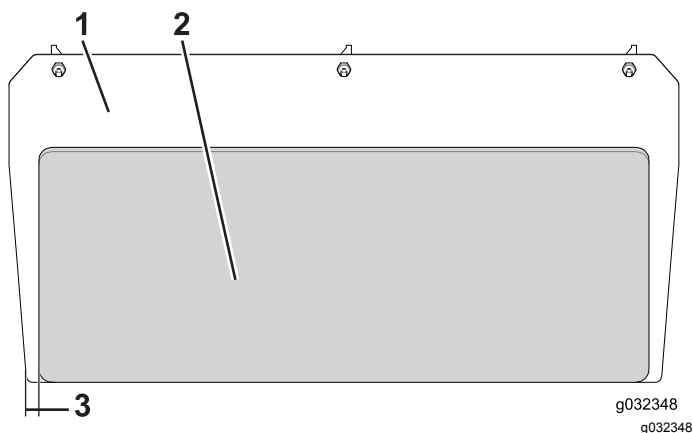


図 4

1. 後パネル
2. リアパネルシールド
3. 29 mm

注 リアパネルシールドは、プレートの幅方向の中央に張り付け、左右にそれぞれ 29 mm の余白を残してください 図 4。

5. パネルを脇に置く。

運転デッキ用シールドを取り付ける

1. 座席のラッチを外して座席を前に倒す。
2. 運転デッキの底部についているワイヤハーネスからシートスイッチを外す 図 5。

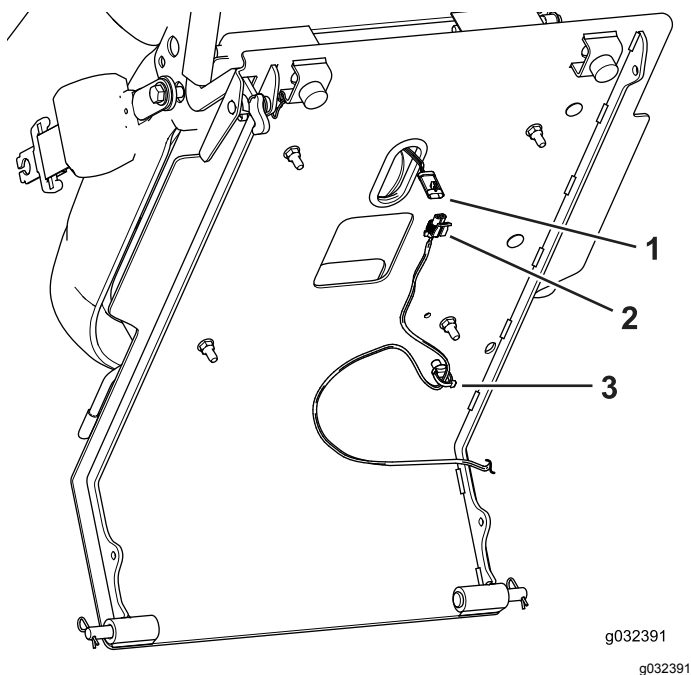


図 5

1. 運転席用コネクタ
2. ワイヤハーネス
3. ワイヤクリップ

3. 運転デッキの底部についているワイヤクリップを外す 図 5。
4. 運転デッキ裏側の、シールドを貼り付ける部分をきれいにする。
5. 防熱シールドの裏紙をはがして、運転デッキの裏面にシールドを張り付ける 図 6。

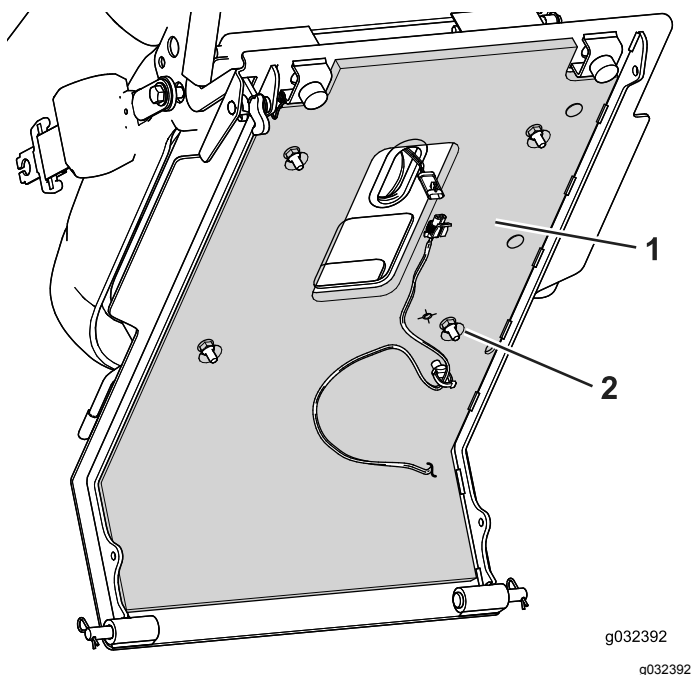


図 6

1. 防熱シールド
2. 切込み

注 シールドについているボルト用の穴をデッキの穴に合わせてシールドを貼り付けてください。

6. 運転デッキの底部にワイヤクリップを取り付ける 図 7。

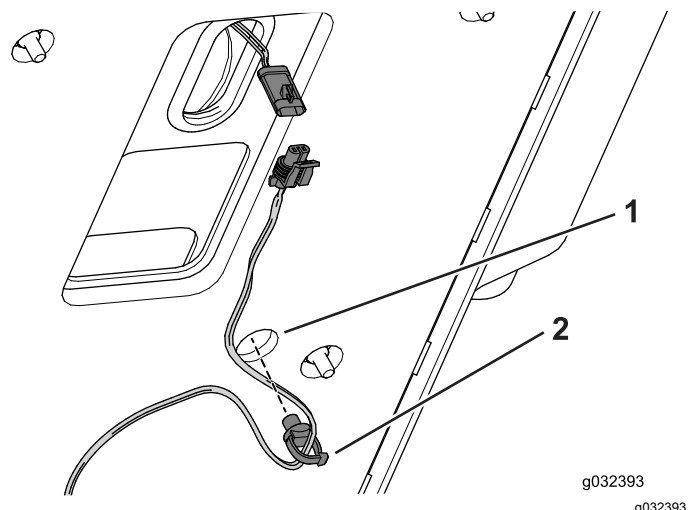


図 7

1. ワイヤクリップ用の穴
2. ワイヤクリップ

7. ワイヤハーネスにシートスイッチを接続する 図 7。

3

ヒーターホースを組み立てる

この作業に必要なパーツ

1	ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブ
4	ホースクランプ 1/2" - 1 1/4"
1	ホースクランプ 3/4" - 1 1/2"
1	字フィッティング
1	メスのダストフィッティング
1	オスのダストフィッティング

給液ホースを組み立てる

注 ヤンマーエンジン搭載のマシンでは 86.3 cm のホースを使用、クボタエンジン搭載のマシンでは 57.1 cm のホースを使用します。

1. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブにシーラントを巻き付ける最初のねじ山には巻かないこと。

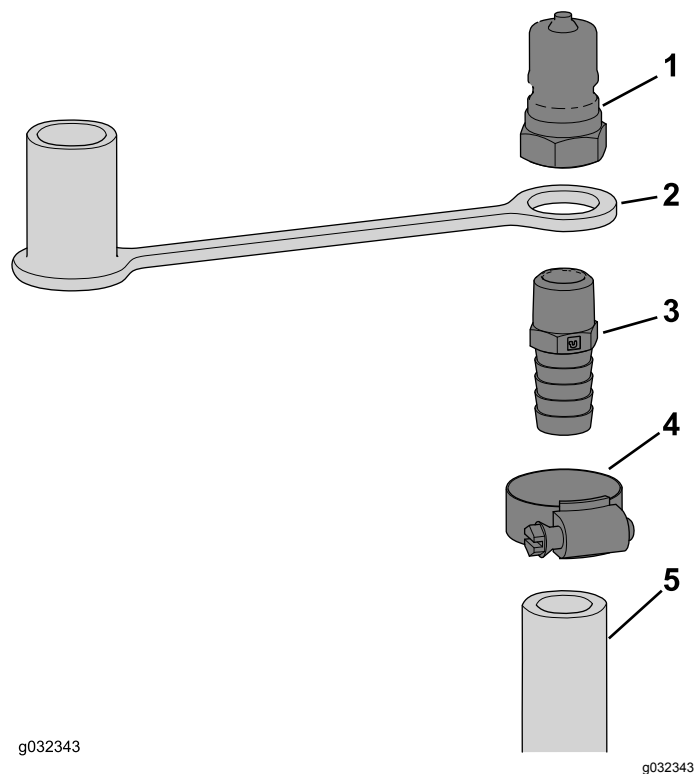


図 8

1. カップラオス
2. オスのダストプラグ
3. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バープ
4. ホースクランプ 1/2" - 1 1/4"
5. 給液ホース

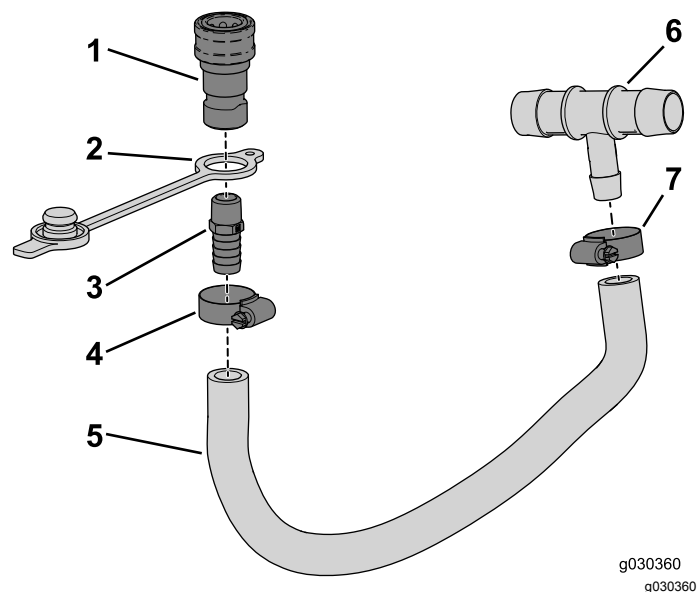


図 9

1. メスのカップラ
2. メスのダストプラグ
3. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バープ
4. ホースクランプ 1/2" - 1 1/4"
5. 戻り側ホース
6. 字フィッティング
7. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バープ

戻りホースを組み立てる

注 ヤンマーエンジン搭載のマシンでは 86.3 cm のホースを使用、クボタエンジン搭載のマシンでは 132cm のホースを使用します。

1. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バープにシーラントを巻き付ける最初のねじ山には巻かないこと。

ラジエターホースへ接続する ヤンマーエンジン搭載機のみ

1. ラジエターホースを探し出す 図 10。

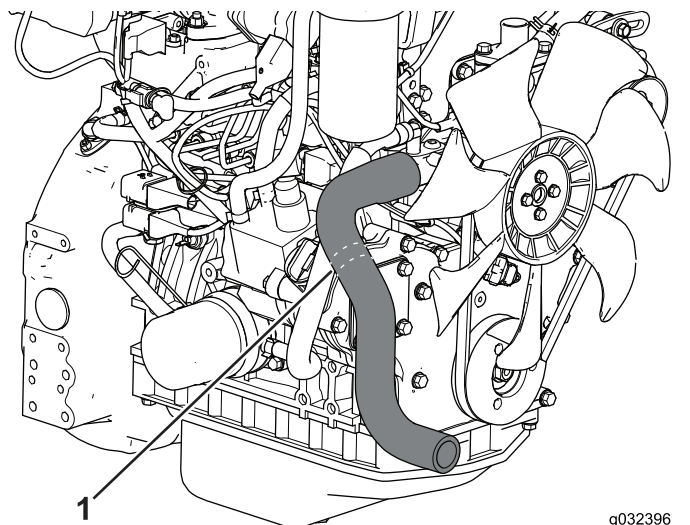


図 10

g032396
g032396

1. ここを切断

2. 切断線に沿ってラジエターホースを切断する 図 10。
3. 図 11のように、切り口をT字フィッティングのバーブ側をホースに接続し、クランプ $\frac{3}{4}$ " - $1\frac{1}{2}$ "で固定する。

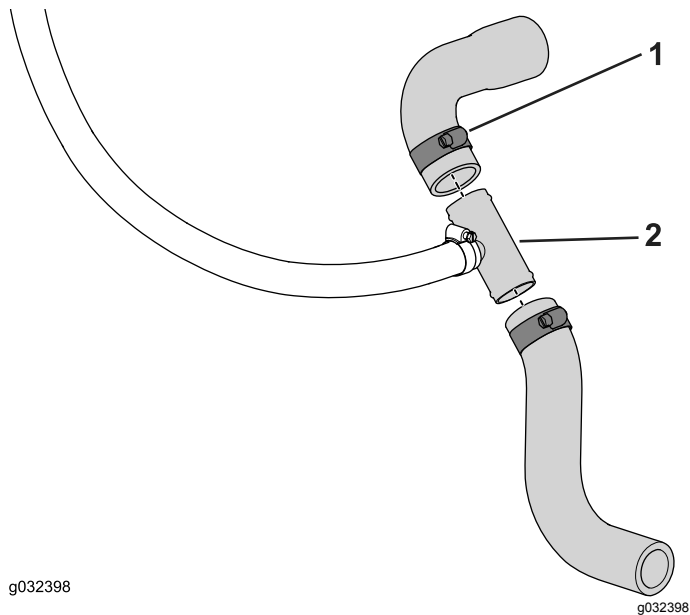


図 11

1. ホースクランプ $\frac{3}{4}$ " - $1\frac{1}{2}$ "
2. 字フィッティング

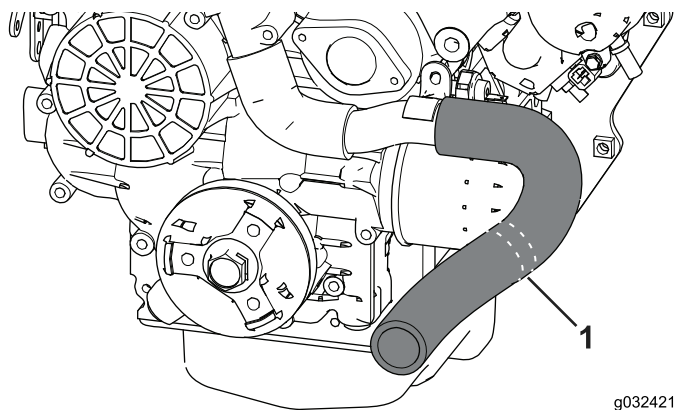


図 12

g032421
g032421

1. ここを切断
2. 切断線に沿ってラジエターホースを切断する 図 12。
3. 図 13のように、切り口をT字フィッティングのバーブ側をホースに接続し、クランプ $\frac{3}{4}$ " - $1\frac{1}{2}$ "で固定する。

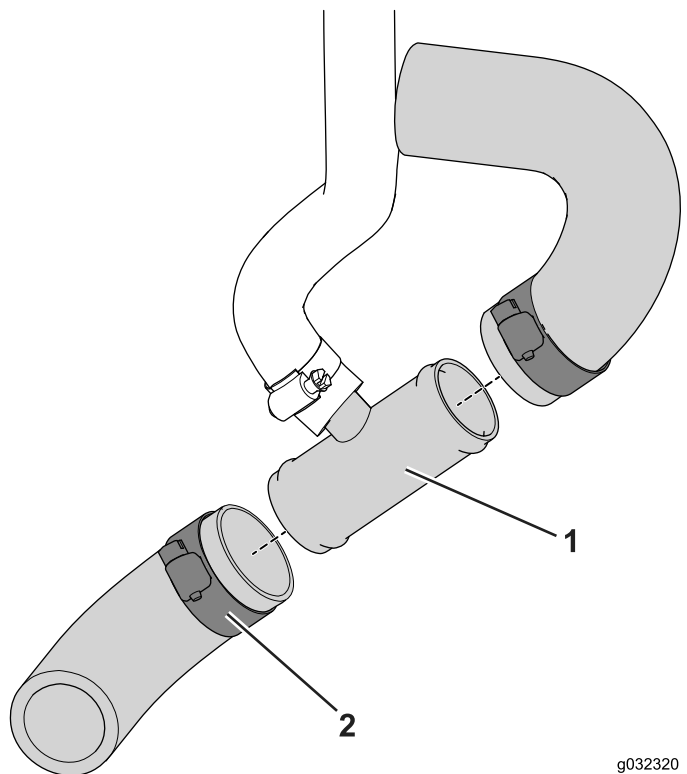


図 13

g032320
g032420

1. 字フィッティング
2. ホースクランプ $\frac{3}{4}$ " - $1\frac{1}{2}$ "

ラジエターホースへ接続する クボタエンジン搭載機のみ

1. ラジエターホースを外す 図 12。

4

バルクヘッドブラケットを取り付ける

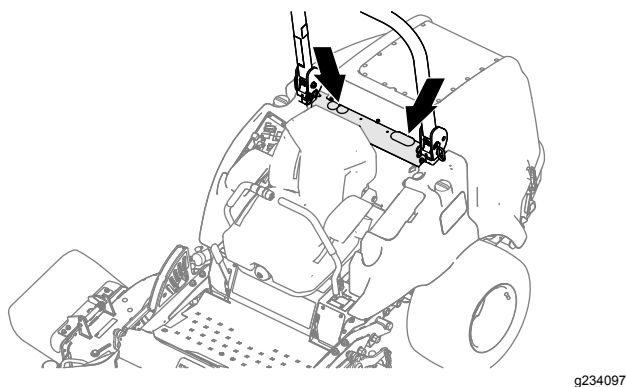
この作業に必要なパーツ

1	ハトメ
1	バルクヘッド用ブラケット
2	ボルト5/16" x 5/8"
2	R クランプ
2	キャリッジボルト1/4" x 3/4"
2	フランジナット1/4"

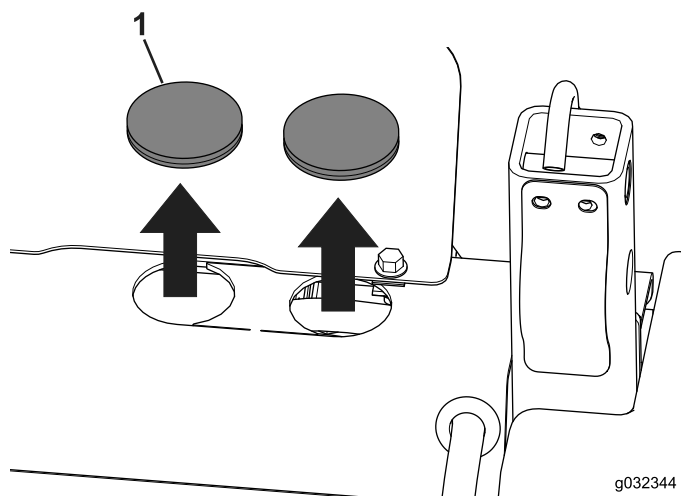
ハトメを取り付ける

注 ハトメが付いていない場合はこの作業を行ってください。

1. サポートチューブについているキャップを外す 図 9。



g234097

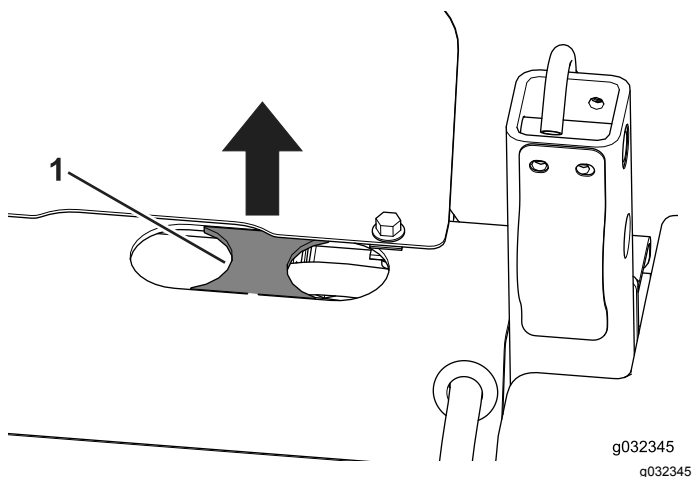


g032344
g032344

図 14

1. キャップ

2. ふたつの穴の間に打ち抜き部がある場合にはこれを打ち抜く 図 15。



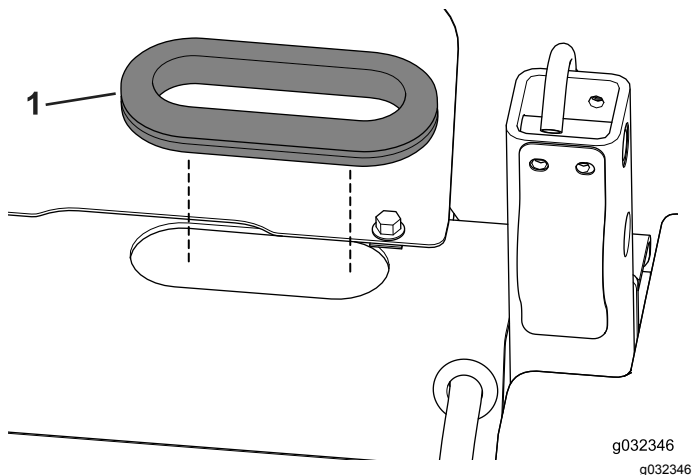
g032345
g032345

図 15

1. 打ち抜き部

注 必要に応じ、金ノコなどで2つの穴の間の部分上記の打ち抜き部に相当する部分を除去してください。

3. できた開口部にハトメを取り付ける 図 16。



g032346
g032346

図 16

1. ハトメ

ホースブラケットを取り付ける

1. ボルト5/16" x 5/8" 2本を使って、ブラケットをフレームに固定する 図 17。

5

ヒーターホースを配設する

この作業に必要なパーツ

1	ホースクランプ 1/2" - 1 1/4"
1	ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブ
1	温度センサー ヤンマーエンジンのみ
1	アダプタ ヤンマーエンジンのみ

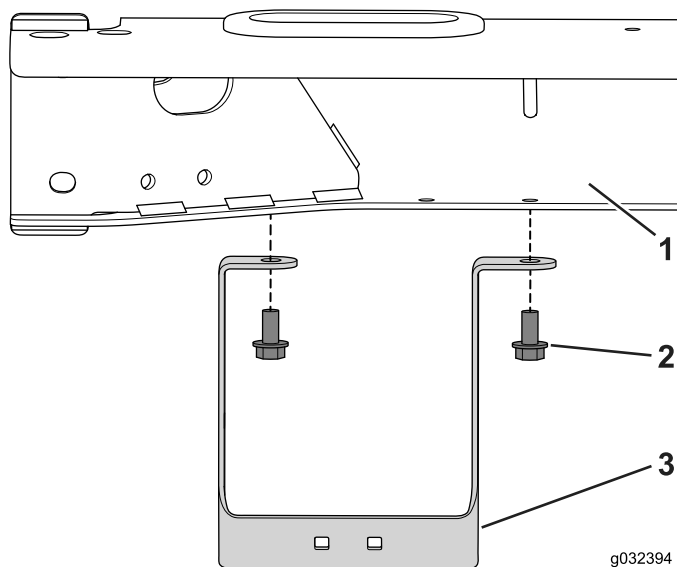


図 17

g032394
g032394

1. フレーム
2. ボルト 5/16" x 5/8"
3. ホースブラケット

2. ボルトを 19.78-25.42 N·m 2.0-2.6 kg·m = 175-225 in·lb にトルク締めする。
3. 各ホースに1個ずつRクランプを通す 図 18。

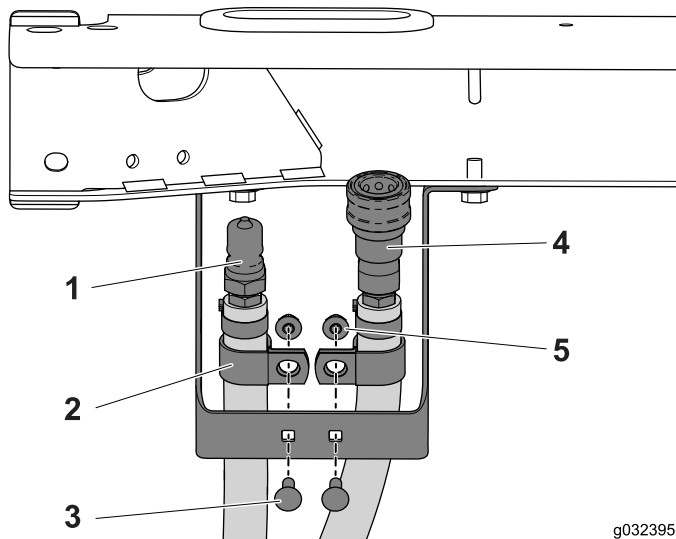


図 18

g032395
g032395

1. 給液ホース
2. R クランプ
3. キャリッジボルト 1/4" x 3/4"
4. 戻り側ホース
5. フランジナット (1/4")

4. キャリッジボルト 1/4" x 3/4" 2本とフランジナットを使って、Rクランプとホースアセンブリをブラケットマウントに固定する 図 18。
5. ボルトを 10.17-12.43 N·m 1.0-1.3 kg·m = 90-110 in·lb にトルク締めする。

給液ホースを配設する

クボタエンジン搭載機のみ

1. 給液ホースを 図 19 のように配置する。

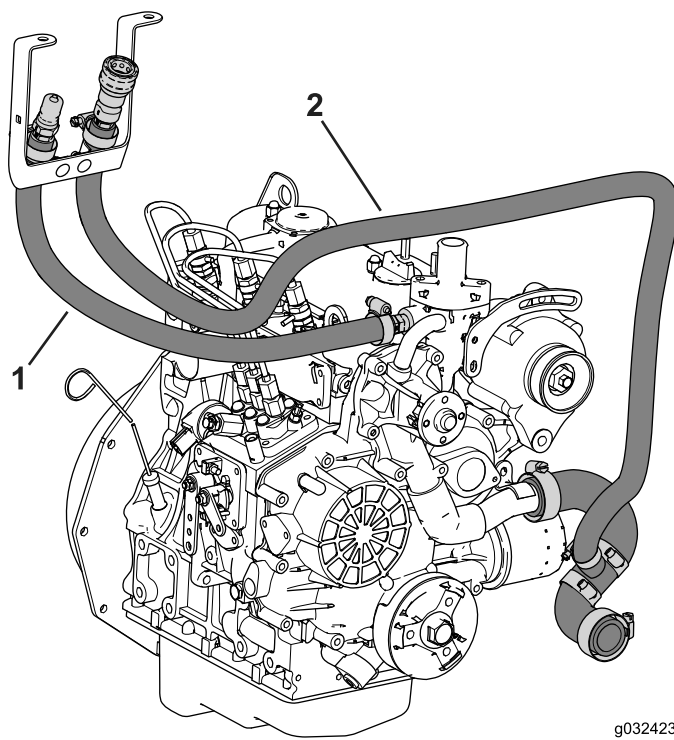


図 19

g032423
g032423

1. 給液ホース
2. 戻り側ホース

2. 温度センサーの配線を外してセンサーを取り外す 図 20。

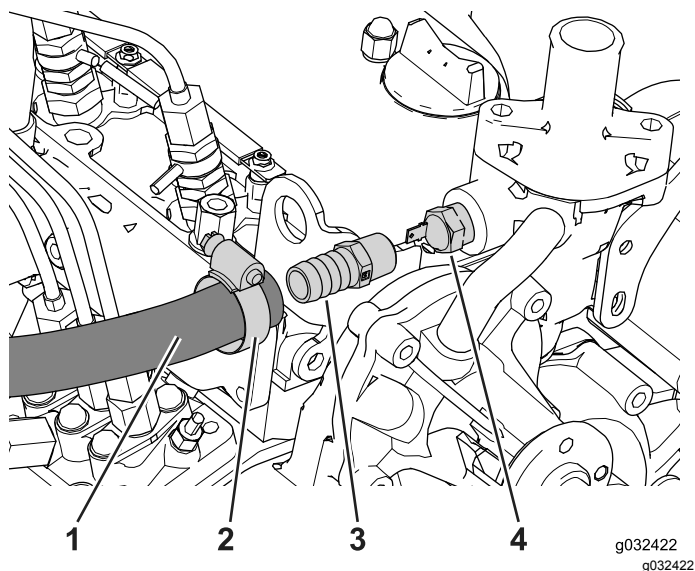


図 20

1. 給液ホース
2. ホースクランプ 1/2" - 1 1/4"
3. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブ
4. 温度センサー

3. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 バーブにシーラントを巻き付ける最初のねじ山には巻かないこと。
4. ストレートフィッティングをポートに指締める。
5. そこからストレートフィッティングを 2-3 回転増し締める。
6. ホースの端部にホースクランプを嵌める 図 20。
7. 図 20 のように、ストレートフィッティングにホースに接続し、クランプ 1/2" - 1 1/4" で固定する。

戻りホースを配設する

クボタエンジン搭載機のみ

給液ホースを 図 21 のように戻りホースを配置する。

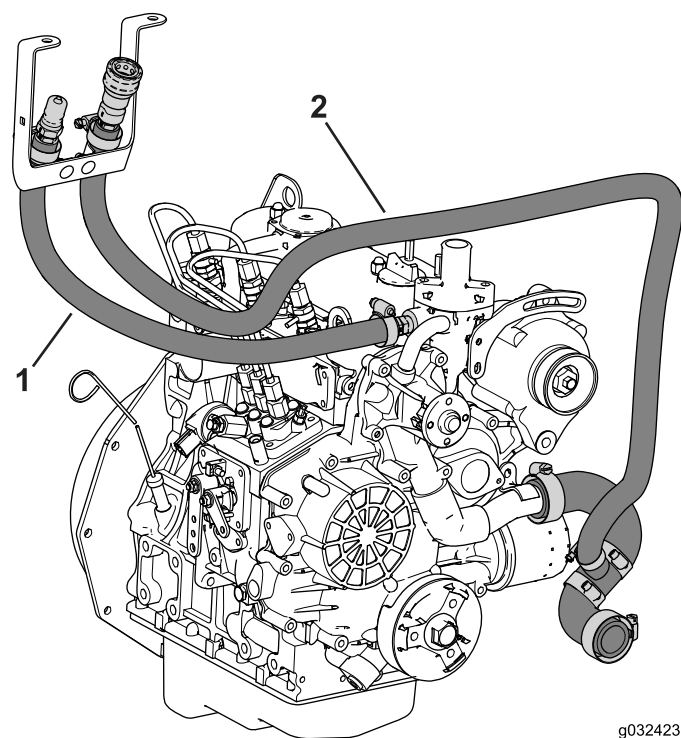


図 21

1. 給液ホース
2. 戻り側ホース

温度センサーを移動する

ヤンマーエンジン搭載機のみ

1. 冷却液温度センサーからソケット端子を外す 図 22。

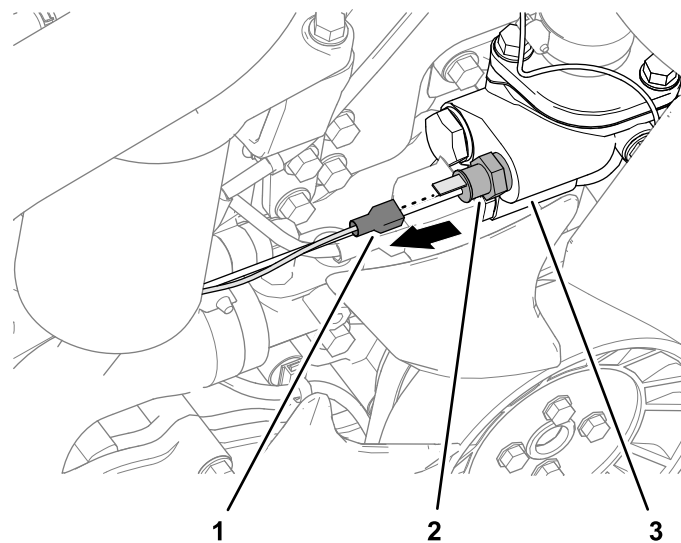


図 22

1. ソケット端子冷却液温度センサー
2. 温度センサー
3. ウォーターポンプハウジング

2. ウォーターポンプ後部から温度センサーとガスケットを外す 図 23。

注 外した温度センサーは、ステップ 5 で取り付けます。

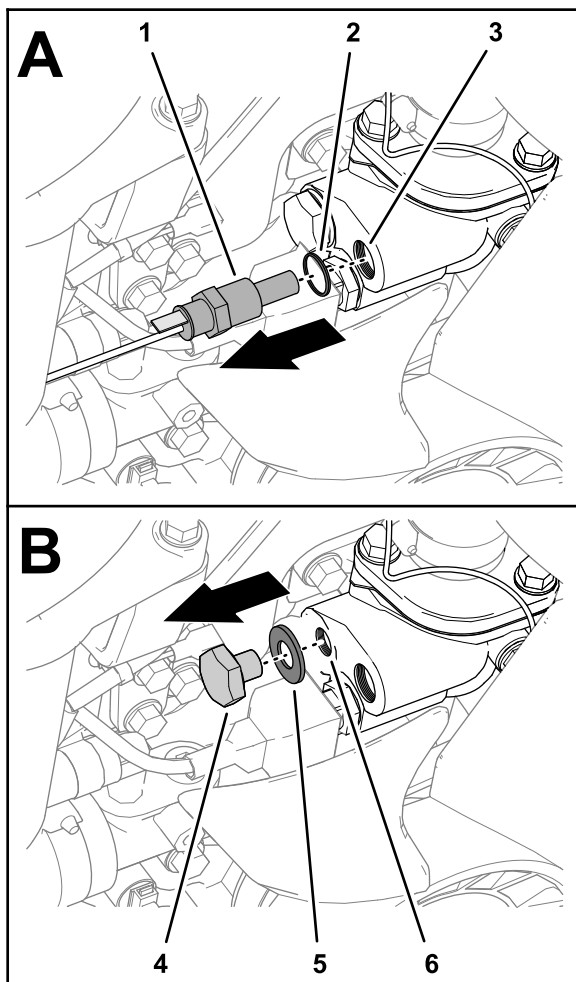


図 23

g233715

1. 温度センサー旧
 2. ガスケット温度センサー
 3. 後ポートウォーターポンプハウジング
 4. 前ポートウォーターポンプハウジング
 5. ガスケットプラグ
 6. プラグ
-
3. ウォーターポンプの前ポートからプラグとガスケットを外す 図 23。
注 外したプラグとガスケットは不要です。
 4. ウォーターポンプの前ポートにリデューサとガスケットプラグを取り付ける 図 24。

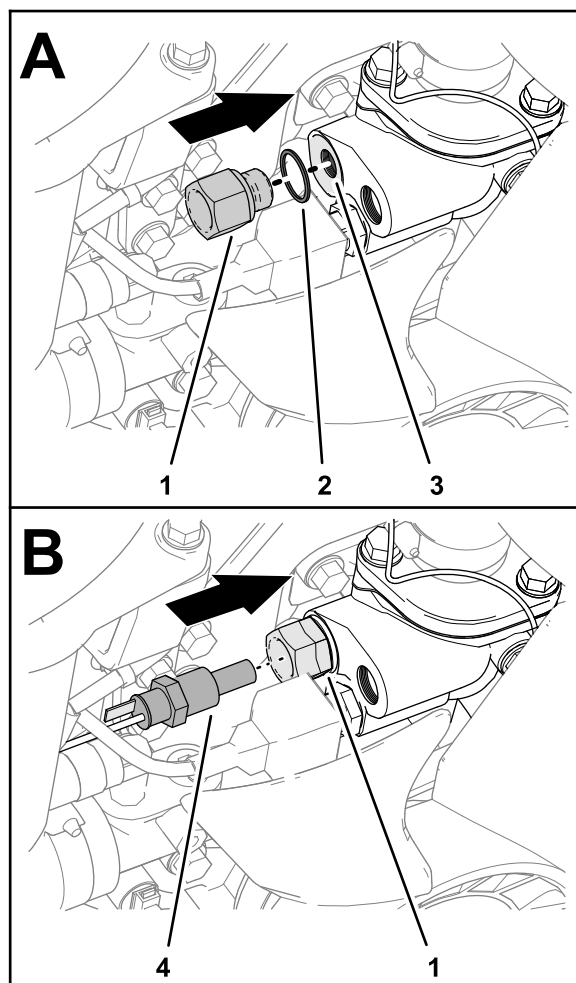


図 24

g233712

1. リデューサ縮径フィッティ
 2. リング
 3. 前ポートウォーターポンプハウジング
 4. 温度センサー
-
5. ステップ 2 で外した温度センサーとバーブ付きストレートフィッティングのねじ山部分に PTFE テープを巻く。
 6. 新しい温度センサーを、リデューサに取り付ける 図 24。
 7. ウォーターポンプハウジングの後ポートにバーブ付きフィッティングを指締めで取り付け 図 25、そこから 2-3 回転増し締めする。

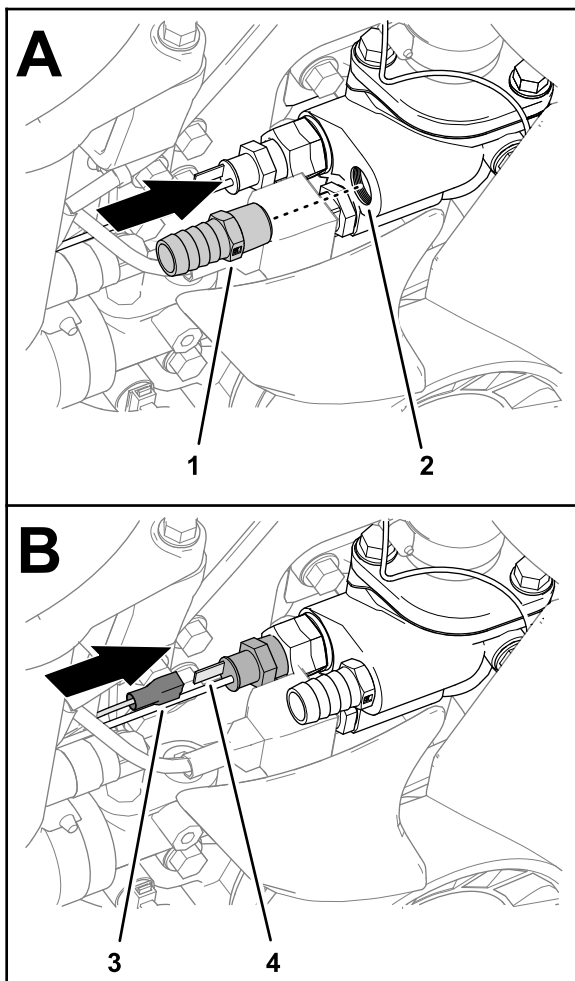


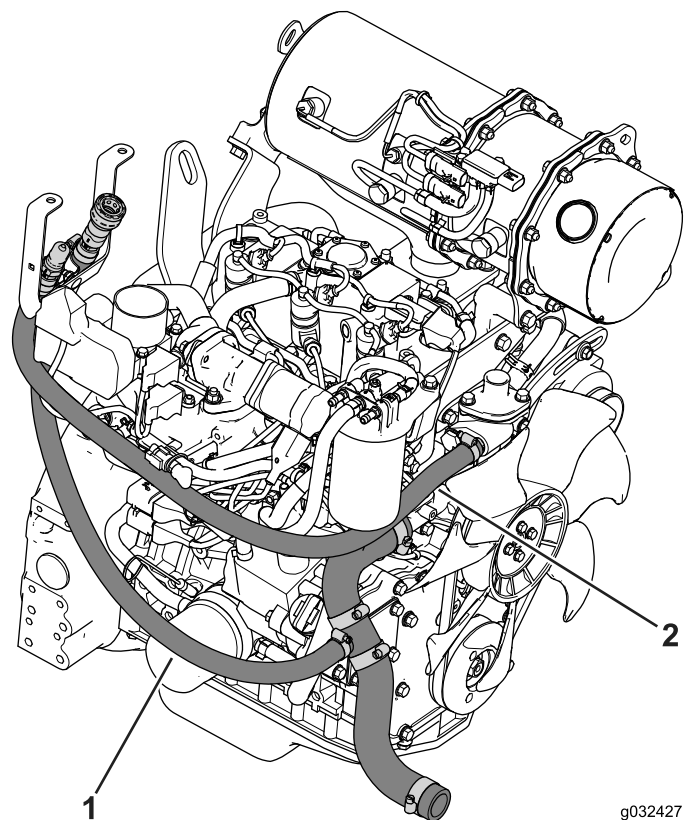
図 25

g233713

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| 1. ストレートフィッティング 3/8 NPT x 0.625 パーブ | 3. ソケット端子冷却液温度センサー |
| 2. 後ポートウォーターポンプハウジング | 4. ブレード端子温度センサーハウジング |

給液ホースを配設する ヤンマーエンジン搭載機のみ

1. 給液ホースを図 26 のように配置する。

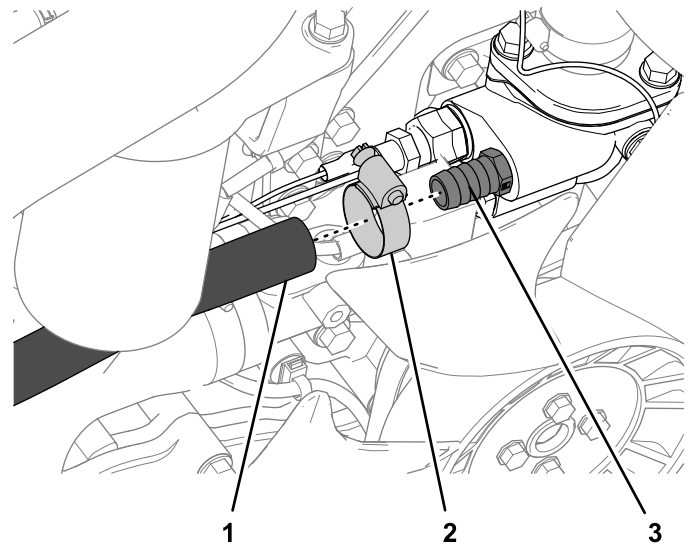


g032427
g032427

図 26

1. 戻り側ホース
2. 給液ホース

2. ホースの端部にホースクランプを嵌める 図 27。



g233714

図 27

1. 給液ホース
2. ホースクランプ
3. パーブフィッティング

3. 図 27 のように、ストレートフィッティングにホースに接続し、クランプ 1/2" - 1 1/4" で固定する。

戻りホースを配設する

ヤンマーエンジン搭載機のみ

給液ホースを図 28 のように配置する。

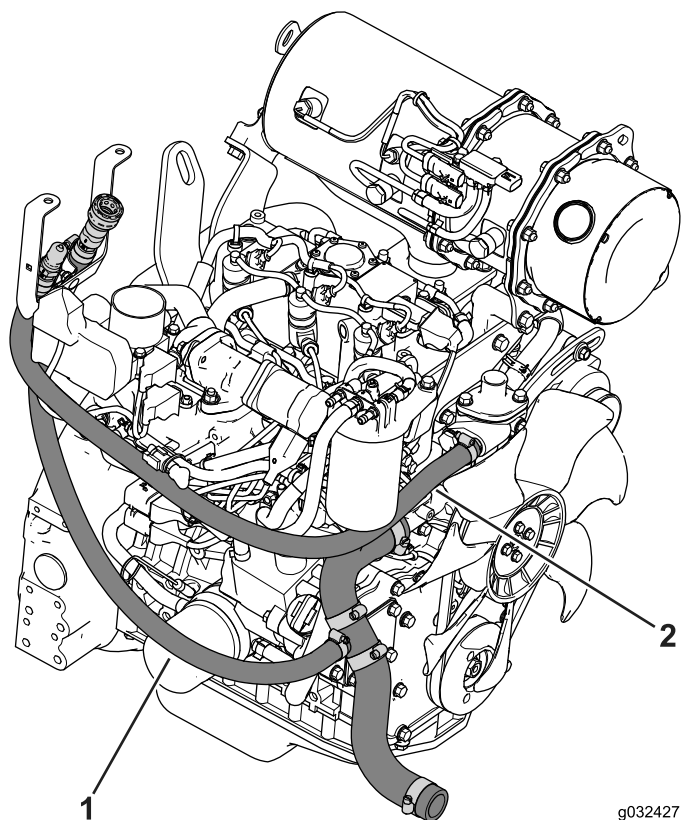


図 28

1. 戻り側ホース

2. 給液ホース

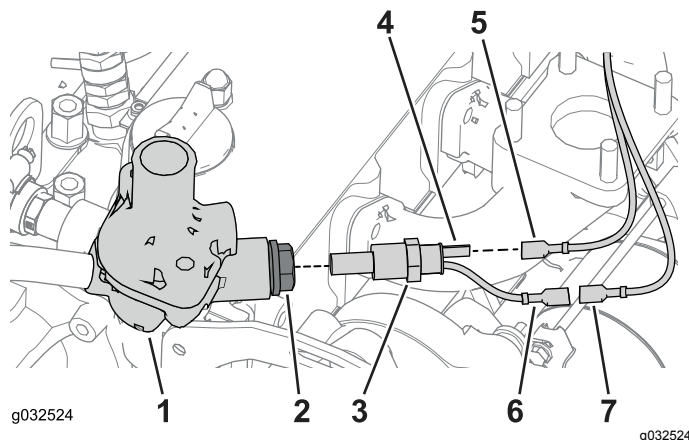


図 29

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. サーマスタットハウジング | 5. 黄線 |
| 2. エンジンポートプラグ | 6. エンジンウォームコネクタ |
| 3. デュアル温度センサー | 7. 橙線 |
| 4. エンジンホットコネクタ | |

- 温度センサーにシーラントを巻き付ける最初のねじ山には巻かないこと。
- 温度センサーをポートに指締めする。
- そこからさらに 2-3 回転増し締めする。
- ステップ2 給液ホースを配設する (ページ 14) で外した黄色いコードを、温度センサーのエンジンホットコネクタに接続する図 29。
- 黄色コードに縛り付けてある橙オレンジ線を黄色線から外し、エンジンウォームコネクタに接続する図 29。
- ハーネス同士はケーブルタイを使って束ねる。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

6

超音波センサーを取り付ける

クボタエンジン搭載機のみ

必要なパーツはありません。

手順

- エンジンブロックについているサーモスタットハウジングを探し出し、エンジンポートプラグを外す図 29。

7

ウォッシャー液ボトルを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ウォッシャー液ボトル
1	ブラケット
1	R クランプ
3	キャリッジボルト5/16" x 1"
2	ボルト5/16" x 3/4"
5	フランジナット (5/16")
1	キャリッジボルト1/4" x 3/4"
1	ナット(1/4"

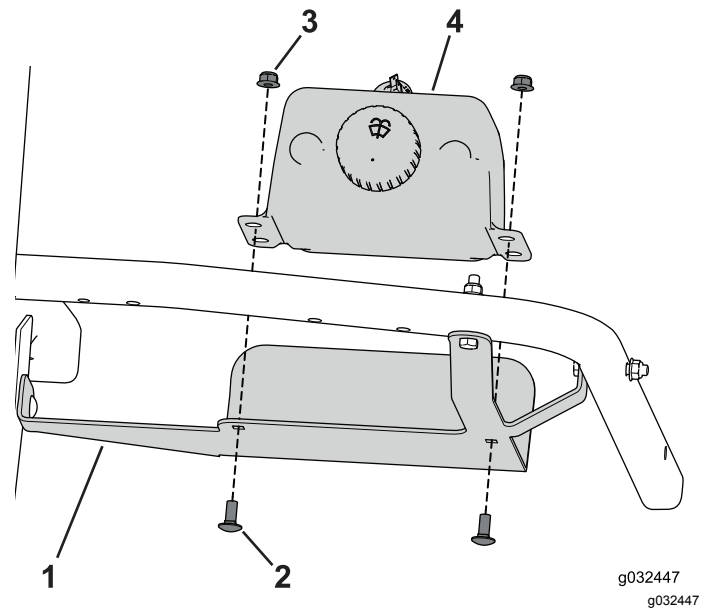


図 31

1. ブラケット
2. キャリッジボルト5/16" x 3/4"
3. フランジナット5/16"
4. ウォッシャー液ボトル

ウォッシャー液ボトルを取り付ける

クボタエンジン搭載機のみ

1. キャリッジボルト5/16" x 1"3本とフランジナット3個を使って、ブラケットをフレームに固定する図 30。

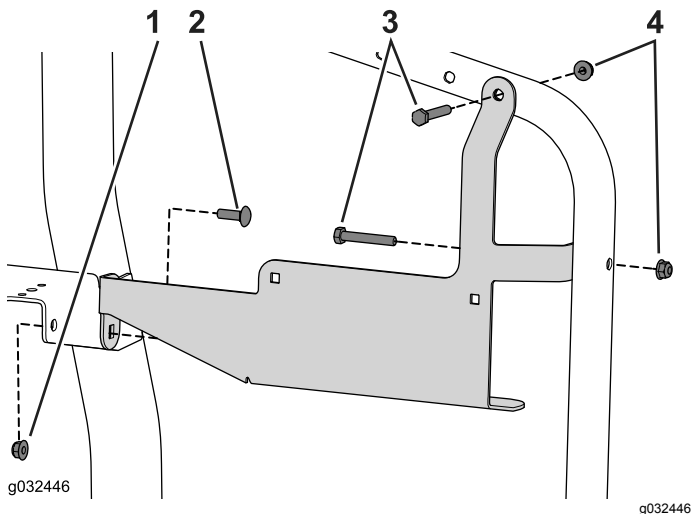


図 30

1. フランジナット5/16"
2. キャリッジボルト(5/16" x 1")
3. ボルト5/16" x 3/4"
4. フランジナット5/16"

2. ボルトを 19.78-25.42 N·m2.0-2.6 kg.m = 175-225 in-lbにトルク締めする。

3. キャリッジボルト5/16" x 3/4"2本とフランジナットを使って、ウォッシャー液ボトルをブラケット固定する図 31。

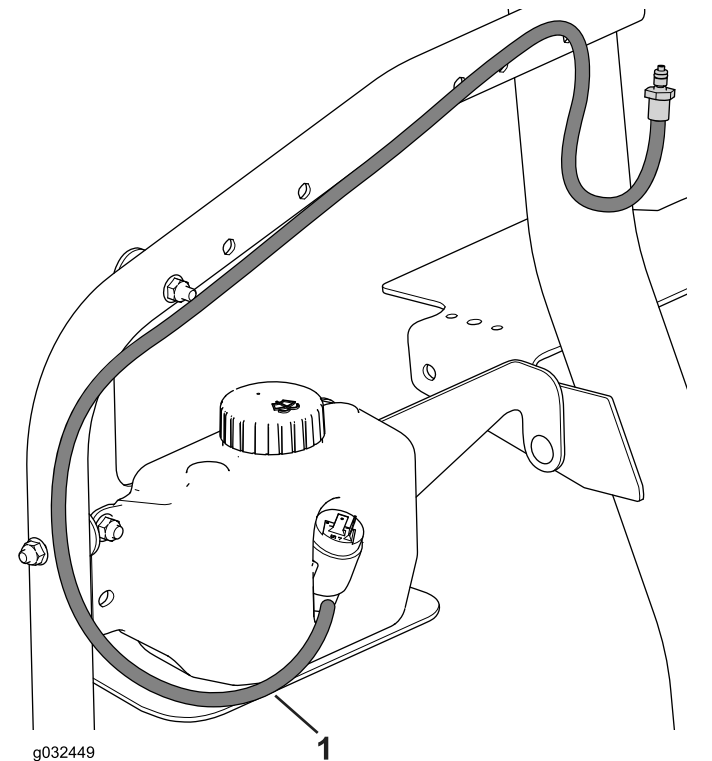


図 32

1. ウォッシャー液チューブ

注 可動部や高温部分にはホースを固定しないでください。

ウォッシャー液ボトルを取り付ける

ヤンマーエンジン搭載機のみ

1. キャリッジボルト5/16" x 2"、5/16" x 1"3本とフランジナット3個を使って、ブラケットをフレームに固定する [図 33](#)。

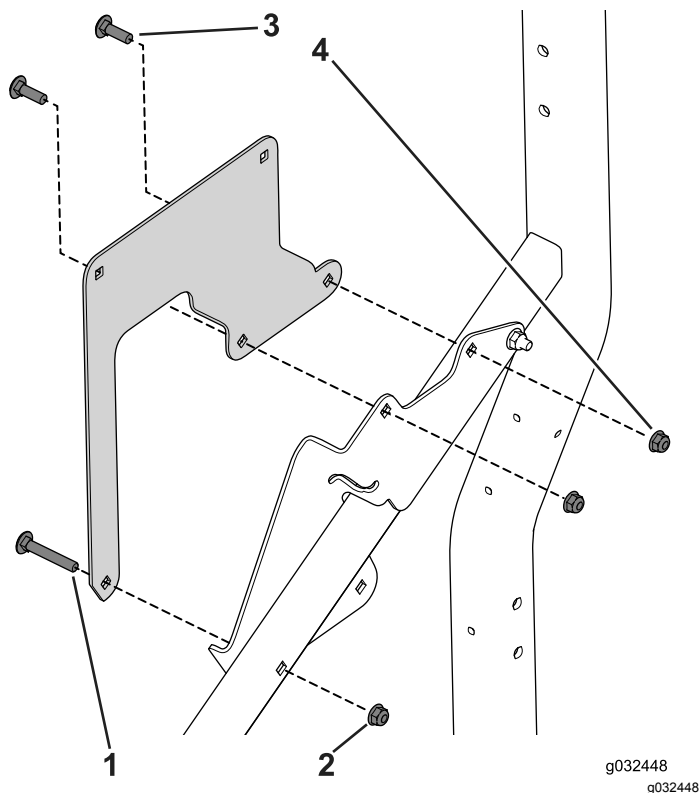


図 33

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. ボルト5/16" x 2" | 3. ボルト5/16" x 1" |
| 2. フランジナット5/16" | 4. フランジナット5/16" |

2. ボルトを 19.78-25.42 N·m 2.0-2.6 kg.m = 175-225 in-lb にトルク締めする。
3. キャリッジボルト5/16" x 3/4" 2本とフランジナットを使って、ウォッシャー液ボトルをブラケット固定する [図 34](#)。

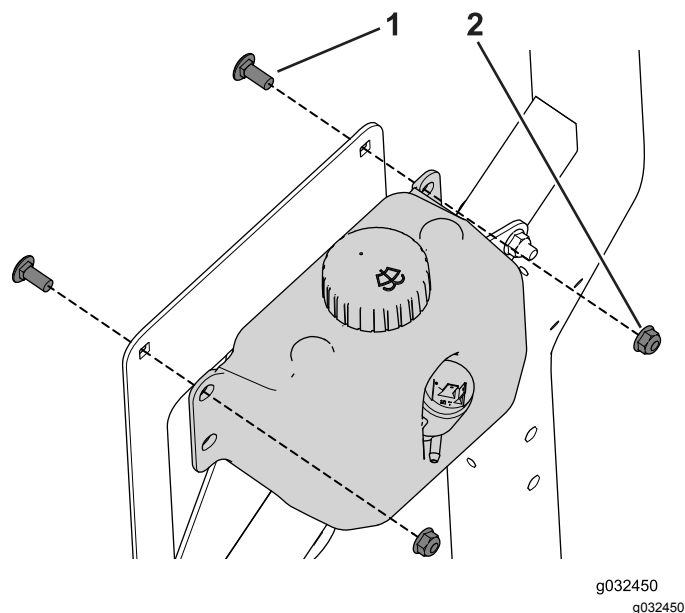


図 34

1. キャリッジボルト5/16" x 3/4" 2. フランジナット5/16"

4. ボルトを 19.78-25.42 N·m 2.0-2.6 kg.m = 175-225 in-lb にトルク締めする。
5. ウォッシャー液ボトルにチューブを接続してケーブルタイでフレームに固定する [図 35](#)。

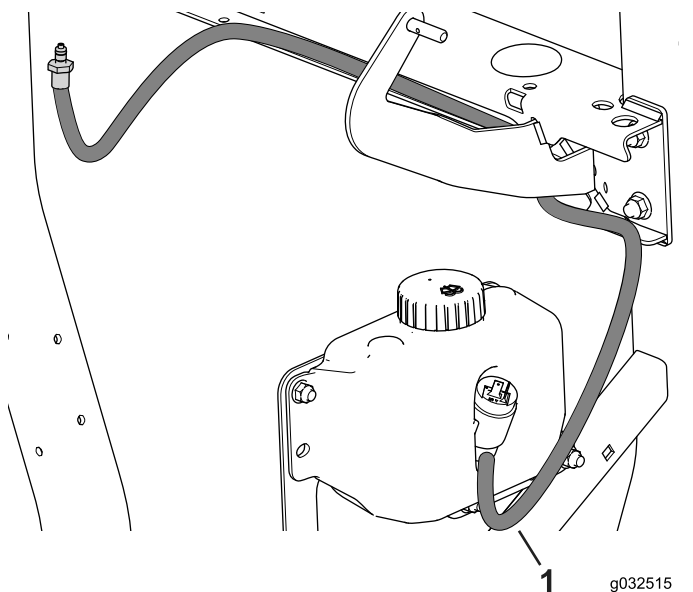


図 35

1. ウォッシャー液チューブ

注 可動部や高温部分にはホースを固定しないでください。

ウォッシャー用ホースを固定する

1. ホースコネクタにRクランプを通す 図 36。

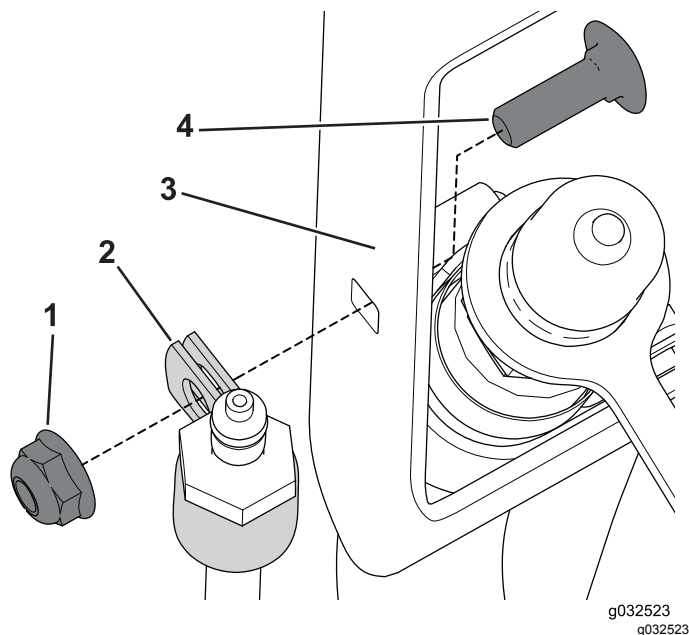


図 36

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. ナット(1/4" | 3. ホースブラケット |
| 2. R クランプ | 4. キャリッジボルト1/4" x 3/4" |

2. キャリッジボルト1/4" x 3/4"とナットを使って、Rクランプをホースブラケットに固定する 図 36。
3. ボルトを 10.17-12.43 N・m 1.0-1.3 kg・m = 90-110 in-lbにトルク締めする。

8

ワイヤハーネスを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ワイヤハーネス
1	リレー
1	ヒューズ60 A
2	ヒューズ10 A
3	ケーブルタイ
1	ワイヤハーネスヒューズキットP/N 92-2641 別途購入のこと
1	キースタートハーネスP/N 107-0672 別途購入のこと

ワイヤハーネスに所要部品を接続する

1. ワイヤハーネスに以下の部品を接続する 図 37。

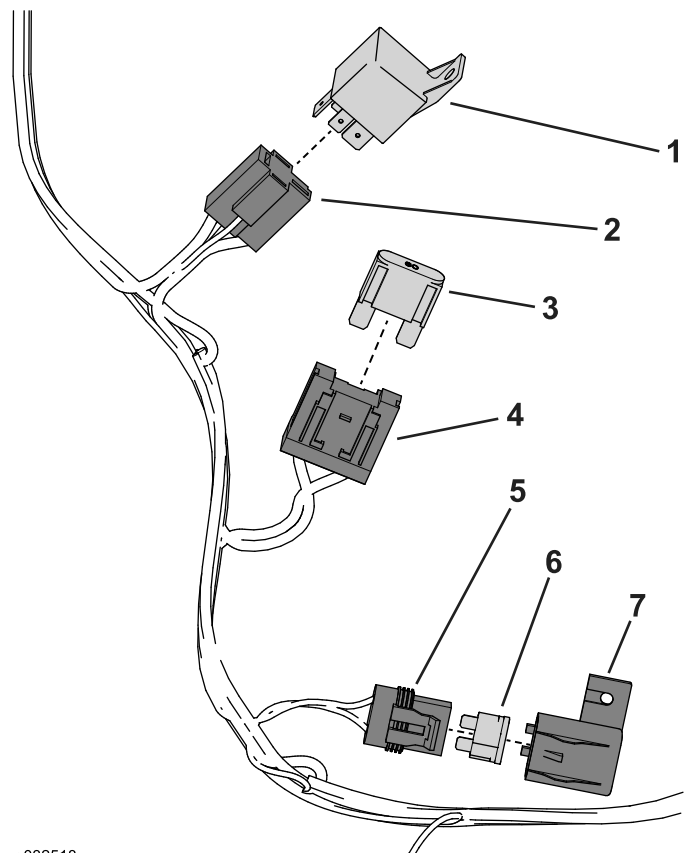


図 37

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. リレー | 5. ヒューズアセンブリ |
| 2. リレー用コネクタ | 6. ヒューズ10 A |
| 3. ヒューズ60 A | 7. ヒューズアセンブリのキャップ |
| 4. ヒューズホルダー | |

2. リレーコネクタにリレーを取り付ける 図 37。
3. ヒューズホルダーにヒューズ60Aを取り付ける 図 37。
4. ヒューズアセンブリにヒューズ10Aを取り付けてヒューズアセンブリキャップで固定する 図 37。

ワイヤハーネスを配設する

クボタエンジン搭載機のみ

1. キャブ用コネクタ3個をハトメに通す 図 38。

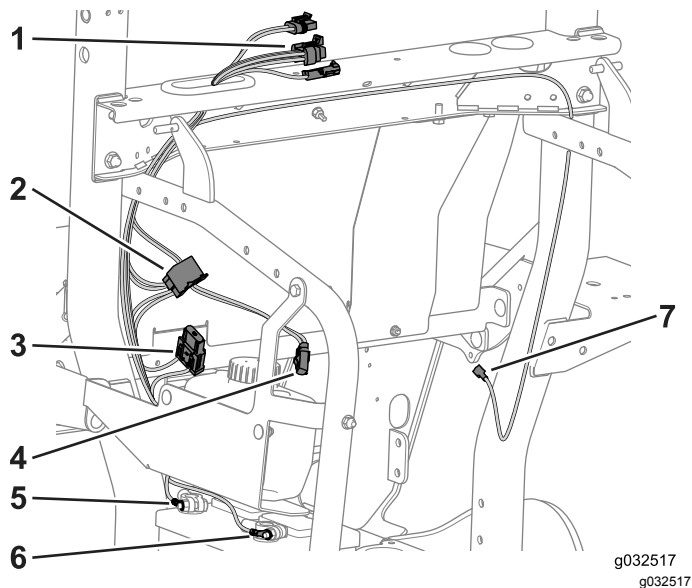


図 38

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. キャブ用コネクタ | 5. プラス側コネクタ赤 |
| 2. リレーアセンブリ | 6. マイナス側コネクタ黒 |
| 3. ヒューズアセンブリ60A | 7. 補助電源ワイヤ |
| 4. ウォッシャー液ボトルのコネクタ | |

2. フレームサポートに沿って補助電源ワイヤを配設し、さらに ROPS チューブに沿って下へ、オペレータコントロールの方へ導く図 38。

3. ケーブルタイを使用して、ワイヤハーネスをフレームに固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

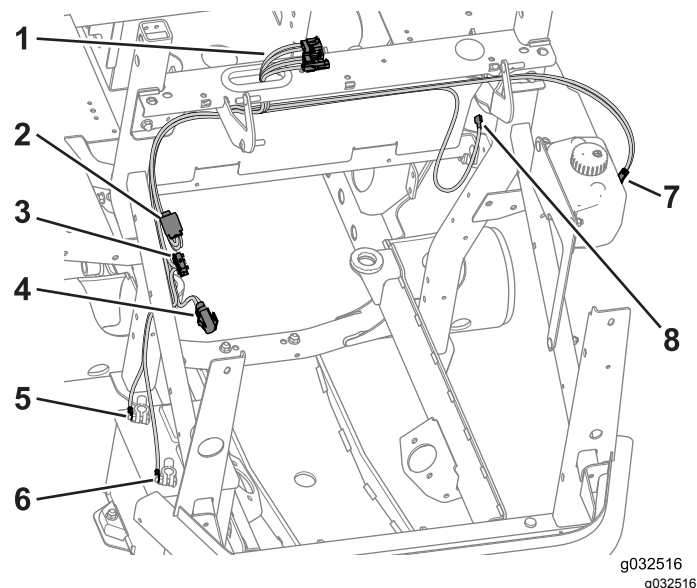


図 39

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. キャブ用コネクタ | 5. プラス側コネクタ赤 |
| 2. リレーアセンブリ | 6. マイナス側コネクタ黒 |
| 3. ヒューズアセンブリ60A | 7. ウォッシャー液ボトルのコネクタ |
| 4. ヒューズホルダー | 8. 補助電源ワイヤ |

2. フレームサポートに沿って補助電源ワイヤを配設し、さらに ROPS チューブに沿って下へ、オペレータコントロールの方へ導く図 39。

3. フレームサポートに沿ってウォッシャー用ワイヤを配設し、さらに ROPS チューブに沿って下へ、ウォッシャー液ボトルへ導く図 39。

4. ケーブルタイを使用して、ワイヤハーネスをフレームに固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

ワイヤハーネスを配設する

ヤンマーエンジン搭載機のみ

1. キャブ用コネクタ3個をハトメに通す図 39。

補助電源ワイヤを接続する マシンのヒューズブロック

注 マシンのヒューズブロックに空きがない場合は、補助電源ワイヤを接続する 追加のワイヤハーネスヒューズブロック (ページ 23) へ飛んでください。

1. スエルラッチを外してオペレータコントロールパネルを外す図 40。

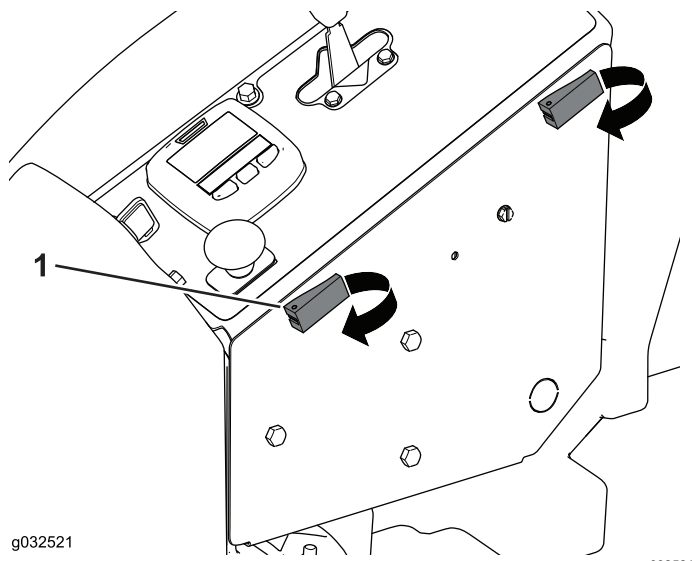


図 40

1. スエルラッチ

2. ワイヤハーネスキットの補助電源ワイヤ緑色の絶縁被覆をオペレータコントロール部に導く図 41。

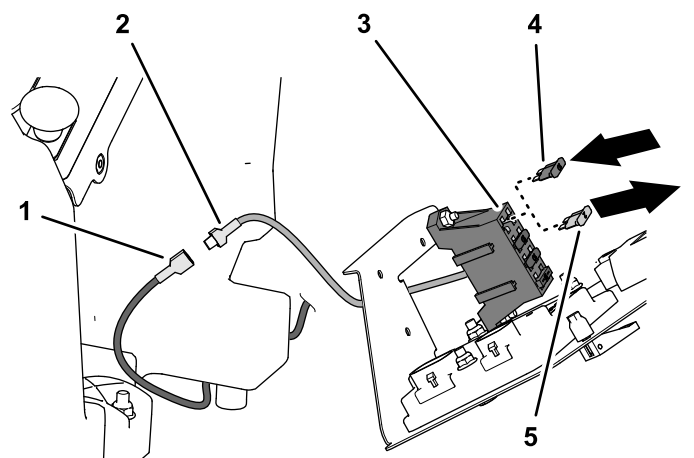


図 41

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1. 絶縁されたブレードコネクタ
補助電源ワイヤ緑 | 4. ヒューズ 10 A |
| 2. 絶縁されたソケットコネクタ
ヒューズブロックワイヤ桃 | 5. ヒューズ 2 A 付いていない
場合もある |
| 3. ヒューズブロック | |

3. ヒューズブロックで図 41、以下のワイヤペアを接続する

構成機器	ワイヤの色	コネクタの種類
キットのワイヤハーネス 補助電源ワイヤ	緑	絶縁ブレードコネクタ
ヒューズブロック マシンのワイヤハーネスオプションのリレー	桃	絶縁ソケットコネクタ

注

補助電源ワイヤが別の回路に使用されている場合には、もう一本のワイヤハーネスヒューズブロックとキースタートハーネスを取り付けるステップ 1-3 を参照。

- ヒューズブロックにヒューズ 10 A を取り付ける図 41。
- ワイヤをケーブルタイで固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

補助電源ワイヤを接続する 追加のワイヤハーネスヒューズブロック

注 この作業は、マシンのヒューズブロックに空きがない場合のものです。

- 追加のワイヤハーネスヒューズブロック P/N 92-2641 を、既存のヒューズブロックに組み付ける図 42。

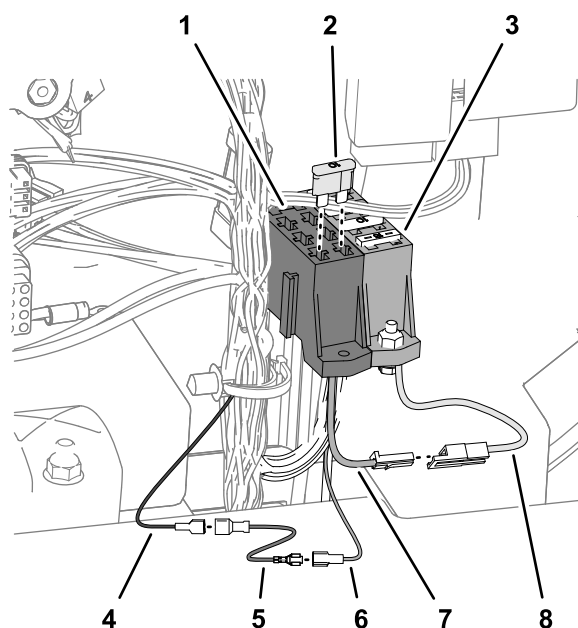


図 42

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. ワイヤハーネスヒューズブロック P/N 92-2641 | 5. 青ワイヤー 18 ゲージキースタートハーネス P/N 107-0672 |
| 2. ヒューズ 10A | 6. 赤ワイヤー 12 ゲージワイヤハーネスヒューズブロック P/N 92-2641 |
| 3. 車両用ヒューズブロック | 7. 赤ワイヤー 10 ゲージワイヤハーネスヒューズブロック P/N 92-2641 |
| 4. 緑ワイヤー 18 ゲージポータトラックキットのハーネス | 8. 桃ワイヤマシンのヒューズブロック |

- 追加のワイヤハーネスヒューズブロック P/N 92-2641 を、既存のヒューズブロック図 42 に組み付ける

構成機器	ワイヤの色	コネクタの種類
ワイヤハーネス ヒューズブロックP/N 92-2641	赤 (10 ゲージ)	ブレードコネクタ
ヒューズブロック マ シンのワイヤハー ネス	赤10 ゲージ — オ プションのヒューズ ブロック	ソケットコネクタ

3. キースタートハーネスP/N 107-0672を、ハーネスヒューズブロックP/N 92-2641のワイヤ 図 42 に以下のように組み付ける

構成機器	ワイヤの色	コネクタの種類
キースタートハーネスP/N 107-0672	青 (18 ゲージ)	非絶縁ソケットコネクタ
ワイヤハーネス ヒューズブロックP/N 92-2641	赤 (12 ゲージ)	絶縁ブレードコネクタ

4. キースタートハーネスP/N 107-0672を、ポラートラックキットハーネスの補助電源ワイヤ 図 42 に以下のように組み付ける

構成機器	ワイヤの色	コネクタの種類
キースタートハーネスP/N 107-0672	青 (18 ゲージ)	絶縁ソケットコネクタ
ポラートラックキットのハーネス	緑18 ゲージ — キャブ電源	非絶縁ブレードコネクタ

5. ヒューズブロックにヒューズ 10 A を取り付ける 図 42。
6. ワイヤをケーブルタイで固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

ウォッシャー液ボトルを接続する

1. ウォッシャー液ボトルにプラグを接続する 図 43。

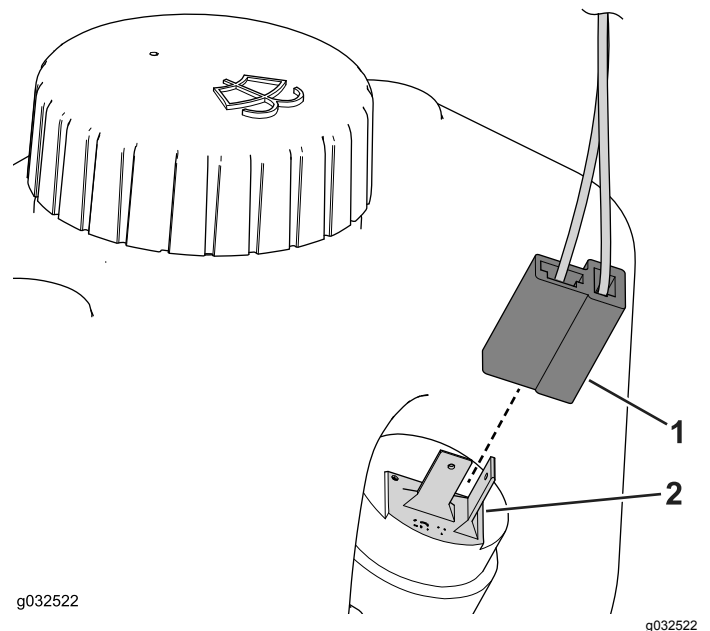


図 43

1. ウォッシャー用コネクタ 2. ウォッシャー液ボトルの接続部

2. ケーブルタイを使用して、ワイヤハーネスをフレームに固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

バッテリーを接続する

1. 赤線と黒線いずれも10ゲージを、フレーム左側のROPSチューブに沿ってバッテリーへ導く 図 38。
2. バッテリーから、まずマイナス側のクランプをゆるめて外し、次にプラス側のクランプを同様に外す 図 44。

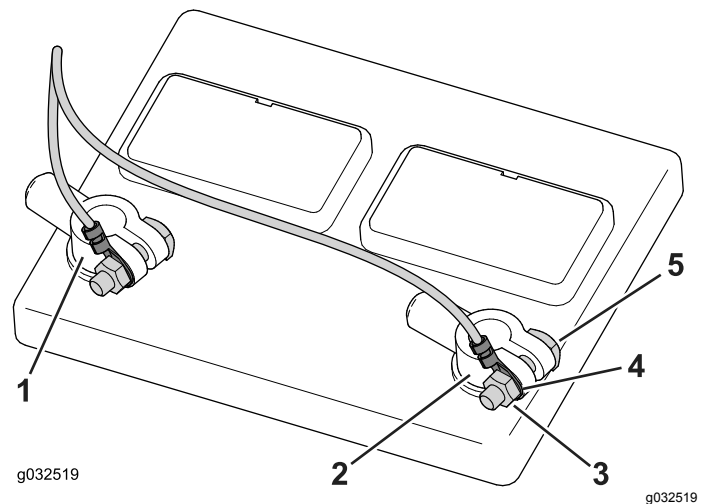


図 44

1. プラス側のクランプ 4. リング端子
2. マイナス側のクランプ 5. ボルト
3. ナット

3. 端子ボルトからナットを外す 図 44。
4. マイナス端子にマイナスコネクタ黒線を取り付け、ナットで仮止めする 図 44。
5. プラス端子にプラスコネクタ赤線を取り付け、ナットで仮止めする 図 44。
6. バッテリーのプラス端子にプラスクランプを取り付け、その後にマイナス端子にマイナスクランプを取り付ける 図 44。
7. ケーブルタイを使用して、ワイヤハーネスをフレームに固定する。

注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

9

スキッドプレートを取り付ける クボタモデルのみ

この作業に必要なパーツ

1	スキッドプレート
2	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $1\frac{1}{4}$ "
2	ボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"
4	フランジナット $\frac{3}{8}$ "

手順

ボルト $\frac{3}{8}$ " x $1\frac{1}{4}$ "、 $\frac{3}{8}$ " x 1"とナットを使って、スキッドプレートをフレームに固定する 図 45。

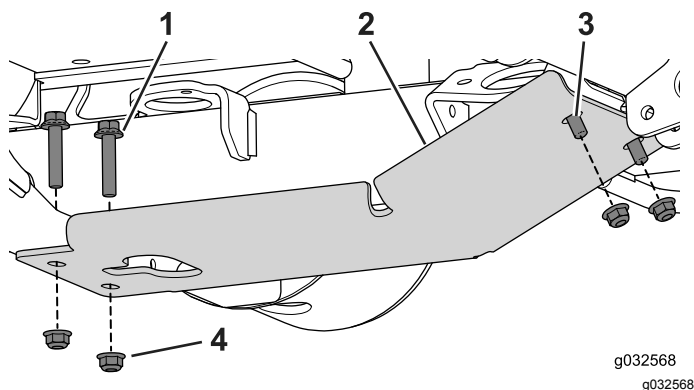


図 45

1. ボルト $\frac{3}{8}$ " x $1\frac{1}{4}$ "
2. スキッドプレート
3. ボルト $\frac{3}{8}$ " x 1"
4. フランジナット $\frac{3}{8}$ "

10

ROPSを取り外す

必要なパーツはありません。

手順

注 誰かに手伝ってもらって、ROPSを機体から取り外す。

1. 一人がROPSを支える。
2. ヘアピンとピボットロックピンをROPSから外してヘアピンを脇に置く 図 46。

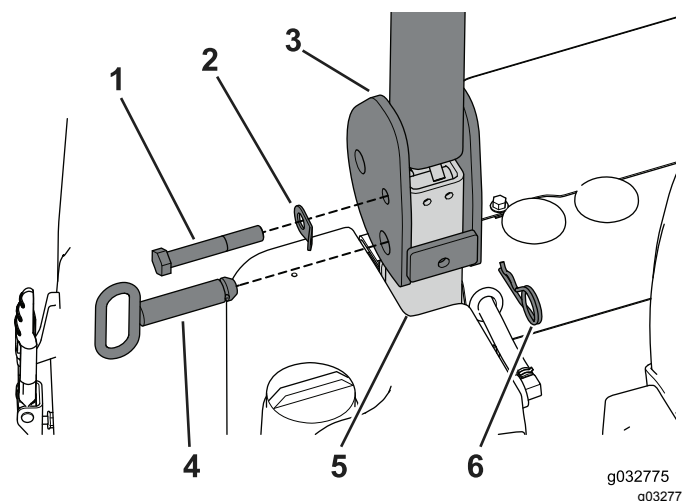


図 46

1. ピボットボルト
2. ランヤードのワッシャ
3. ROPS バー
4. ピボットロックピン
5. 下部ROPS ピン
6. ヘアピン

3. ピボットボルトとランヤードのワッシャを外す。
4. 機体からROPSを取り外す。
5. ROPSを保管する。

注 ROPSを外したときの金具類は、来春の再取り付けに便利のように、すべてROPSに取り付けて保管してください。

11

夏用フレームを取り外す

この作業に必要なパーツ

2	ローラアセンブリ
1	左ブラケット
1	右ブラケット
2	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $2\frac{1}{4}$ "
2	ボルト $\frac{3}{8}$ " x $\frac{5}{8}$ "
4	フランジナット $\frac{3}{8}$ "
2	クレビスピン
2	タッピングねじ $\frac{1}{4}$ "
2	ホースプラグ

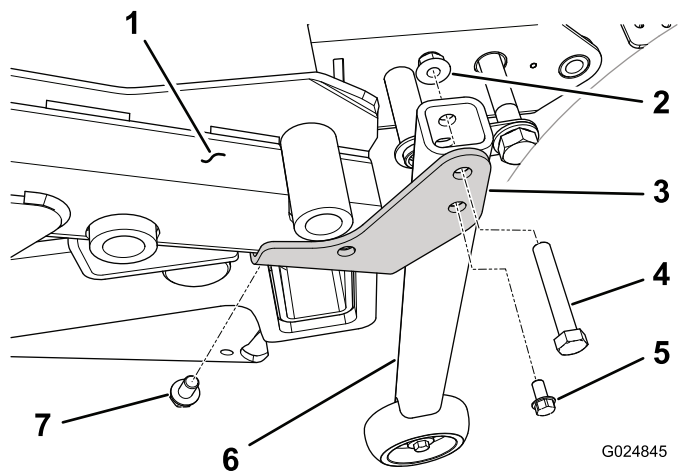


図 48

1. デッキフレーム
2. フランジナット
3. コンバージョンブラケット
4. ねじ
5. タップねじ
6. ローラアセンブリ
7. タップねじ

コンバージョン用ローラを取り付ける

1. フロアジャッキを使って後輪を床から浮かせ、ジャッキスタンドで支える。
2. シリアル番号が 312999999 よりも若いマシンでは、デッキフレームの後コーナーそれぞれに垂直チューブサポートアセンブリを取り付けるクレビスピンとタッピングねじ $\frac{1}{4}$ " を使用する 図 47。

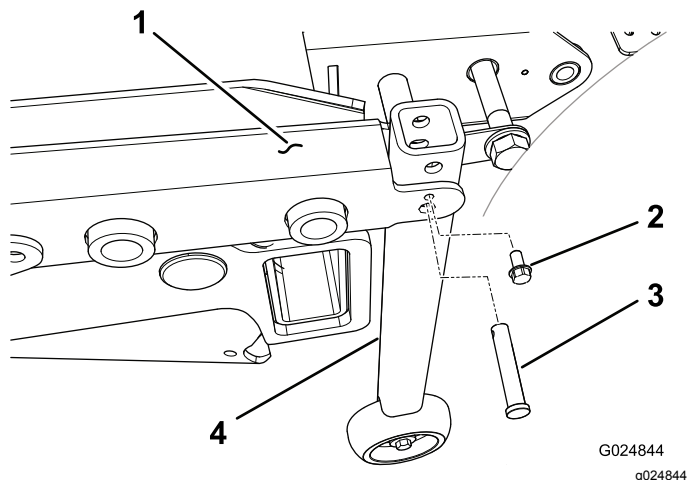


図 47

1. デッキフレーム
2. タッピングねじ $\frac{1}{4}$ "
3. クレビスピン
4. ローラアセンブリ

3. シリアル番号が 313000001 よりも大きいトラクションユニットでは、コンバージョンブラケット左右の区別ありをデッキの左右の後コーナーに取り付けるタッピングねじ $\frac{3}{8}$ " x $\frac{5}{8}$ " を使用する 図 48。

注 ブラケットが後フレームの端を向くように取り付けてください。

運転台を外す。

1. 運転台を上げてラッチ位置にセットする 図 49。

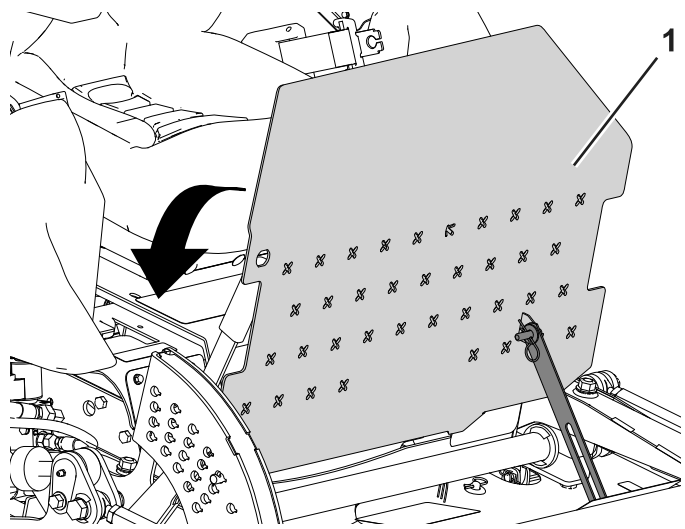


図 49

1. 運転台
2. ピボットピンとワッシャを固定しているヘアピンを外してピボットアームとピボットブラケットを分離する 図 50。

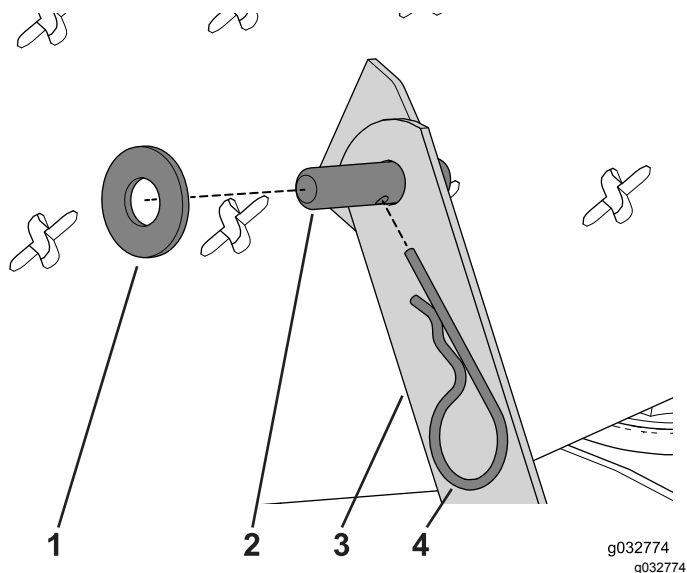


図 50

- | | |
|-----------|----------|
| 1. ワッシャ | 3. 昇降アーム |
| 2. ピボットピン | 4. ヘアピン |

注 ROPSを外したときの金具類は、来春の再取り付けに便利のように、すべてROPSに取り付けて保管してください。

3. 運転台をピボットブラケットに繋いでいるピボットピン2本から、ヘアピンを外す 図 51。

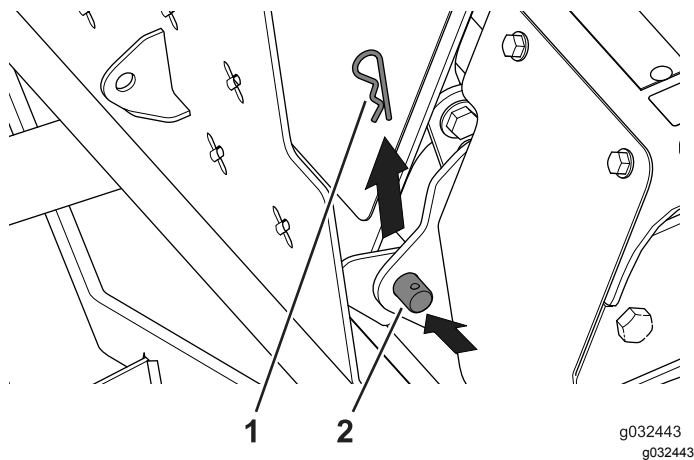


図 51

- | | |
|---------|-----------|
| 1. ヘアピン | 2. ピボットピン |
|---------|-----------|

4. 誰かに手伝ってもらって、ピボットピンと運転台を機体から取り外す 図 51。

注 外した運転台は来春まで格納保管してください。

5. 先ほど外した各ピボットピンを、運転台およびピボットブラケットに通して、ヘアピンで固定する。

PTOの接続を外す

1. PTO 駆動シャフトのボルトとナットをゆるめる。

2. 駆動シャフトをギアボックスのシャフトに固定しているロールピンを外して駆動シャフトを抜き出す 図 52。

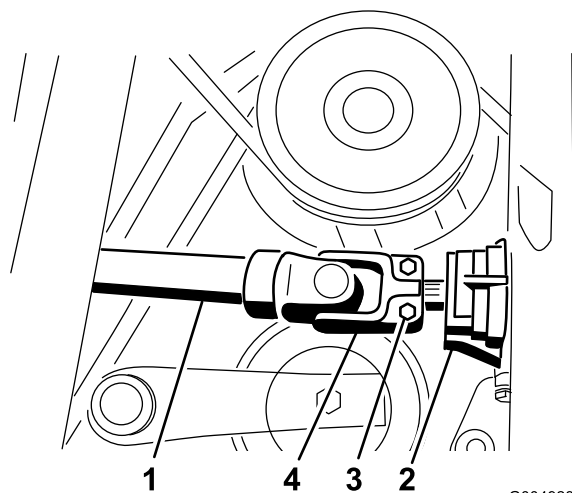


図 52

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 駆動シャフト | 3. ボルト |
| 2. ギアボックス | 4. エンドヨーク |

注 ROPSを外したときの金具類は、来春の再取り付けに便利のように、すべてROPSに取り付けて保管してください。

夏用フレームを取り外す

1. 夏用フレームを機体に固定しているボルトとナットにアクセスできるようにカバープレート2枚を外す 図 53。

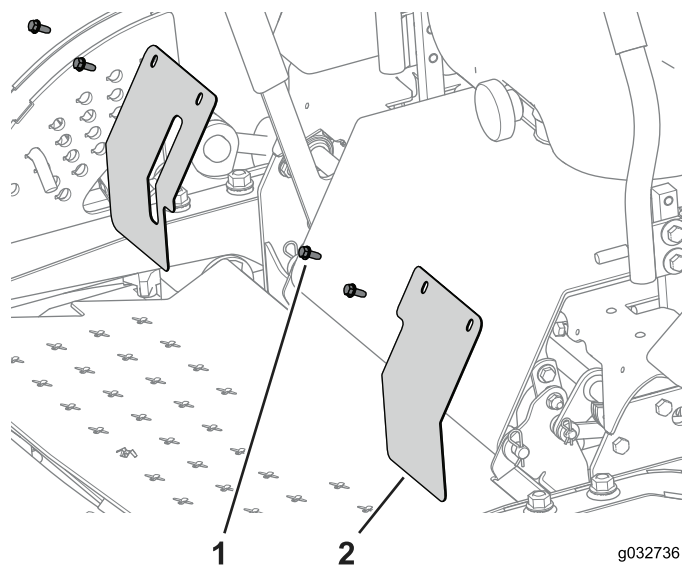


図 53

- | | |
|--------|------------|
| 1. ボルト | 2. カバープレート |
|--------|------------|

2. ジャッキスタンド2台でフレームを支えて機体後部を浮かす 図 54。

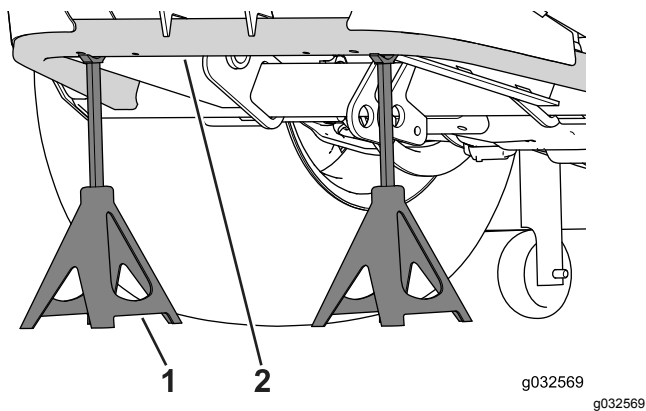


図 54

図はクボタエンジン搭載モデルのフレーム

1. ジャッキスタンド 2. フレーム

3. バルブ下に適当な液体回収容器を置き、制御バルブから油圧ホースを外す 図 55。

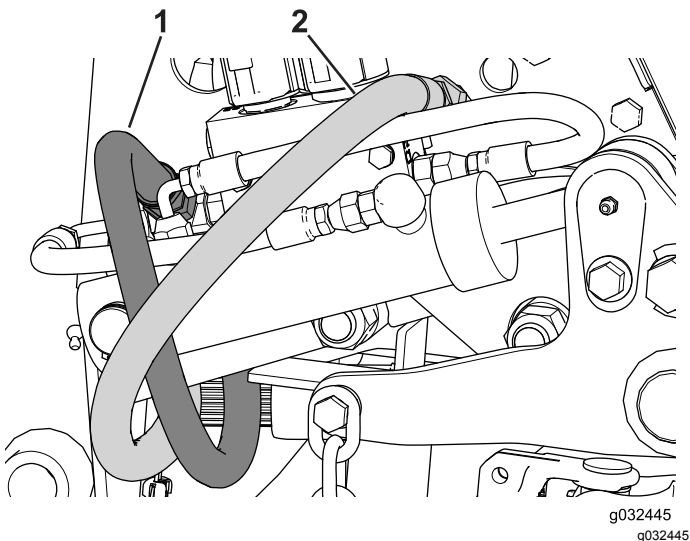


図 55

1. 戻り側油圧ホース 2. 供給側油圧ホース

4. 制御バルブに接続されているコネクタ2個を外す。これらは来春に再使用するので、コードをまとめてコントロールボックス内部に保管する。

5. 制御バルブのフィッティングに、冬用キットに入っているキャップを取り付け、ホースの端部にはプラグを取り付ける。

注 こぼれた油圧オイルはふき取ってください。

6. リテーナリング、ピボットピンを固定しているボルト、ピボットピンを外してシリンダをずらす。

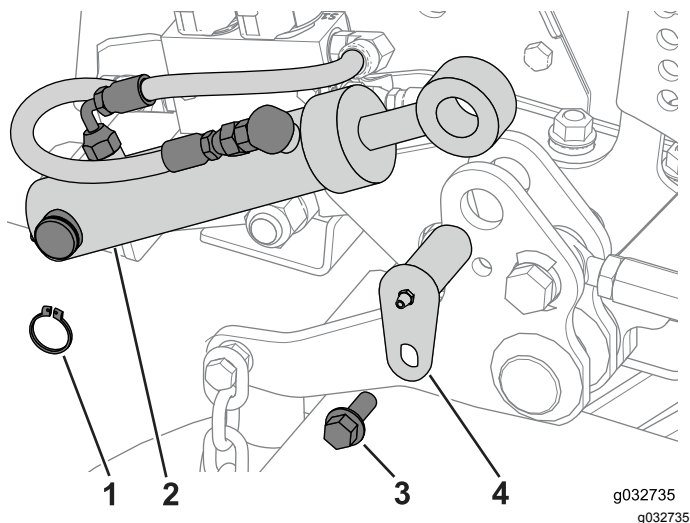


図 56

1. リテーナリング 3. ボルト
2. 昇降シリンダ 4. ピボットピン

7. 夏用フレームを機体フレームに固定しているロックナットとボルトを外す 図 57と図 58。

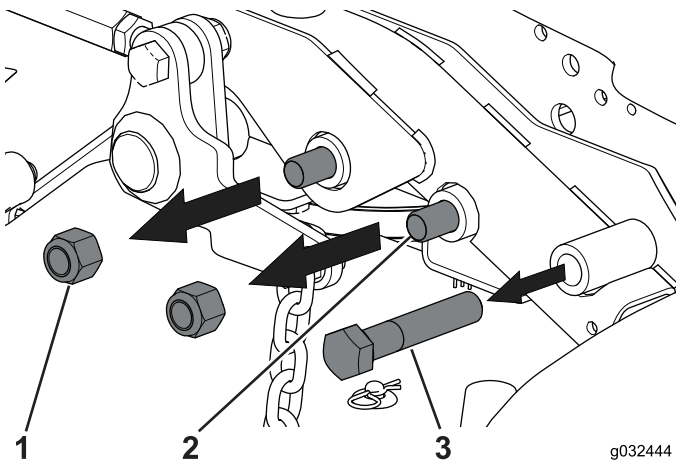


図 57

1. ロックナット 3. ボルト
2. ボルト

12

キャブを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	キャブ
2	バルブシール
1	後部ウレタンシール
1	右後ウレタンシール
1	左後ウレタンシール
1	右中ウレタンシール
1	左中ウレタンシール
1	右タンク用ウレタンシール
2	横前用ウレタンシール
1	前用ウレタンシール
1	左横用ウレタンシール
1	右横用ウレタンシール
4	ゴム製アイソレータ
4	ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ "
4	ワッシャ $\frac{1}{2}$ "
4	ワッシャ大
4	ナット($\frac{1}{2}$ "
2	ボルト $\frac{3}{4}$ " x $3\frac{1}{2}$ "
2	ロックナット $\frac{3}{4}$ "

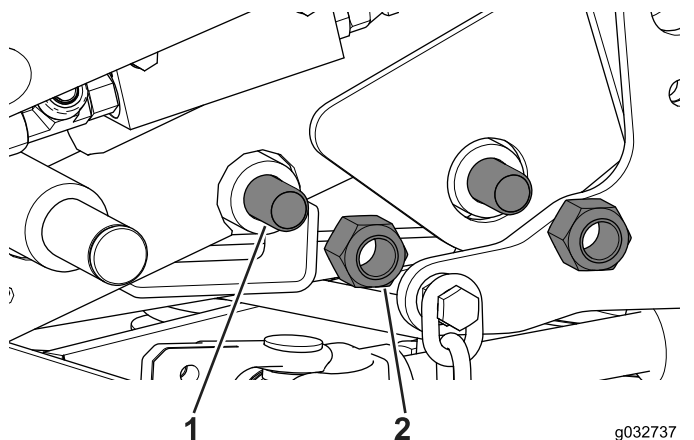


図 58

1. ボルト

2. ロックナット

8. 夏用フレームを前方に押し出して外し、来春まで格納保管する図 59。

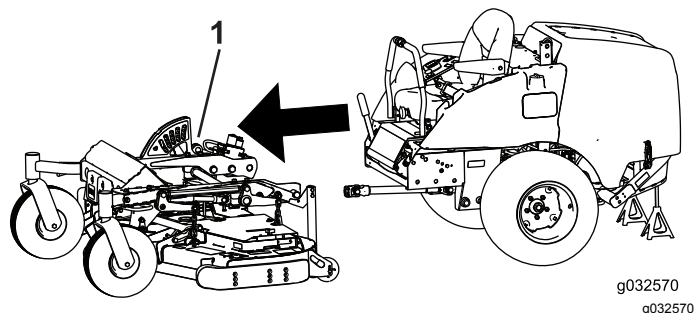


図 59

1. 夏用フレーム

注 ROPSを外したときの金具類は、来春の再取り付けに便利のように、すべてROPSに取り付けて保管してください。

安全ステッカーを貼り付ける

以下の作業は、地域の法律等で義務付けられている場合に行います。

後窓に安全デカルを図 60に示すように貼り付ける。

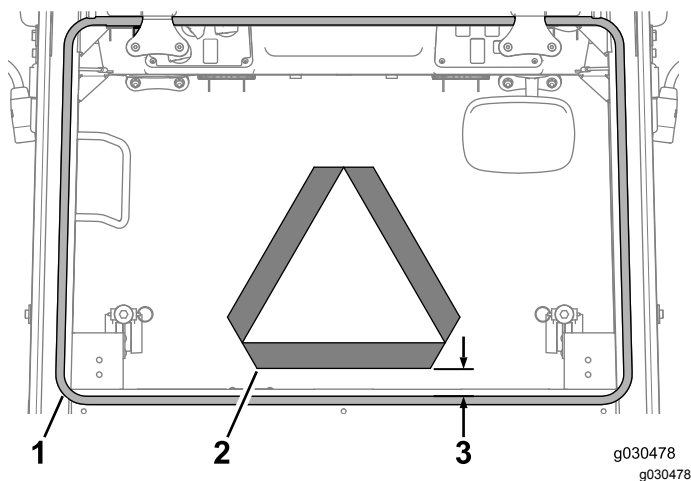


図 60

1. 窓用シール
2. 安全ステッカー
3. 25 mm

キャブ用シールを取り付ける

注 シールを貼り付ける場所を十分にきれいにしてから貼り付けてください。

1. 図 61 に示すように、キャブの後部に後部用ウレタンを、タブに合わせて貼り付ける。

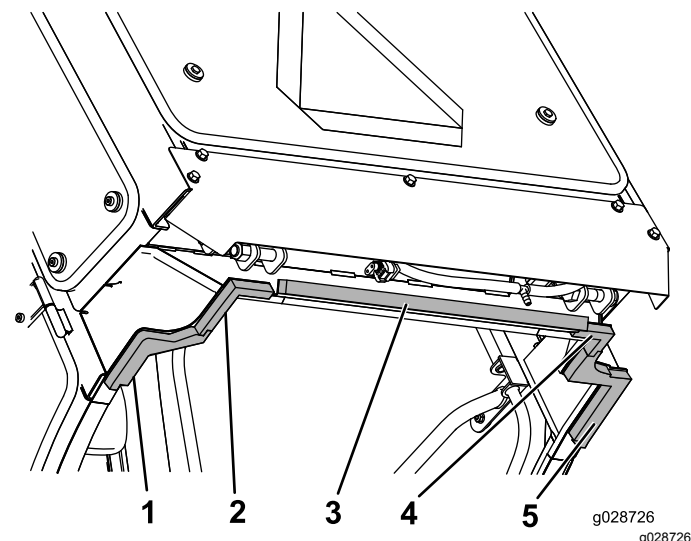


図 61

1. 左中ウレタンシール
2. 左後ウレタンシール
3. 後部ウレタンシール
4. 右後ウレタンシール
5. 右中ウレタンシール

2. 左後用と、右後用のウレタンシールを、キャブフレームの後部下側エッジ部の内側コーナーに取り付ける 図 61。

注 ウレタンの前側の脚部の内側のエッジが、キャブフレームのサイドシールパネルの内側のエッジからおよそ 3 mm 離れていれば適正です。

3. 左中と右中のウレタンシールの一番内側のエッジを、左後と右後のウレタンシールに合わせてタブをインタロックする 図 61。

注 ウレタンシールの前側の脚部の内側のエッジが、キャブフレームのサイドシールパネルの内側のエッジからおよそ 3 mm 離れていれば適正です。

4. 左タンク用と右タンク用のウレタンシールの一番内側のエッジを、左中と右中のウレタンシールに合わせてタブをインタロックする 図 62。

注 ウレタンシールの前側の脚部の内側のエッジが、キャブフレームのサイドシールパネルの内側のエッジからおよそ 3 mm 離れていれば適正です。

5. 左横用と右横用のウレタンシールの前側のエッジを、チャンネルに押し付け、これらのウレタンシールの角張っている後エッジをタンク用ウレタンシールに接続する 図 62。

注 タンク用ウレタンシールと横用ウレタンシールの角部のエッジとの間にわずかなすきまができる場合があります。

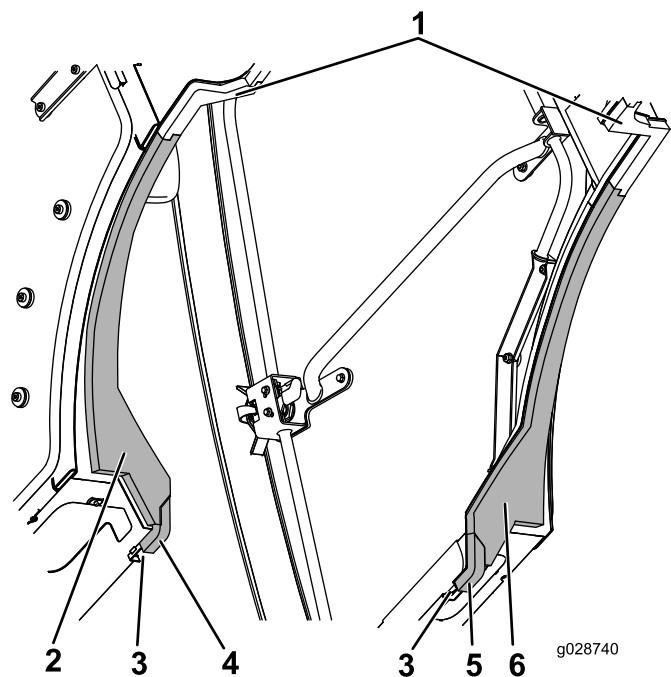


図 62

1. 中用ウレタンシール
2. 左タンク用ウレタンシール
3. チャンネル
4. 左横用ウレタンシール
5. 右横用ウレタンシール
6. 右タンク用ウレタンシール

6. 前用ウレタンシールを、前パネルの中央にセットする 図 63。

注 前用ウレタンシールの後側のエッジが、キャブフレームの前パネルの一番後ろのエッジに合っていれば適正です。

7. 横前用ウレタンシールの前側エッジを、前用ウレタンシールに押し込んで、内側のエッジをキャブフレームのシールパネルの内側のエッジに合わせる 図 63。

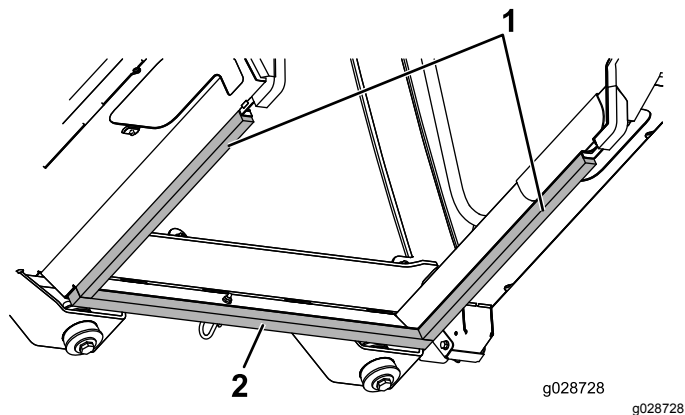


図 63

1. 横前用ウレタンシール 2. 前用ウレタンシール

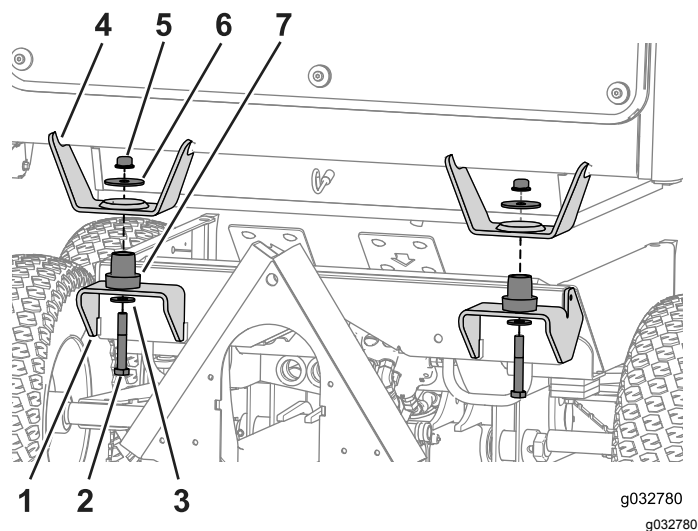


図 65

1. 下側マウント 5. フランジナット 1/2"
2. ボルト 1/2" x 3 1/4"
3. ワッシャ 1/2"
4. 上側マウント 6. ワッシャ大
7. ゴム製アイソレータ

冬用フレームにキャブを取り付ける

1. 吊り上げポイント4ヶ所を使って、キャブを機体の上につるす 図 64。

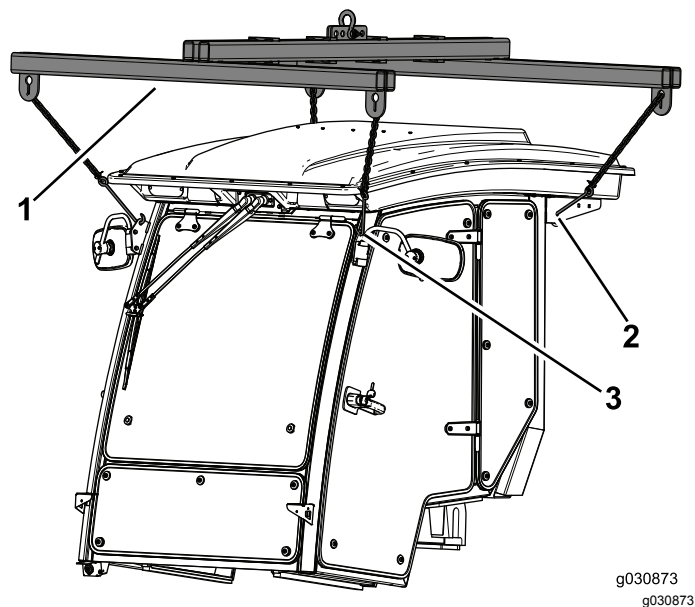


図 64

1. ホイストのバー 3. 後部の釣り上げ位置
2. 前部の釣り上げ位置

注 吊り上げ用のバーなどがキャブの屋根やヘッドライナーに接触しないように注意してください。

2. 前マウントの2つのボルト穴に合わせてキャブを機体に降ろす 図 65。

3. 各取り付け部にゴム製のアイソレータを挿入する 図 65。
4. ボルト 1/2" x 3 1/4"、大きいワッシャ、フランジナットを使って、キャブを機体に固定する 図 65。
5. それぞれのゴム製アイソレータが 22 mm の厚さに圧縮されるまでボルト (1/2" x 3 1/4") を締め付ける。

13

冬用フレームを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	冬用フレーム
2	カップラリンク
2	ボルト 3/4" x 4"
2	ワッシャ 3/4"
1	供給側ホースのカバー
1	戻り側ホースのカバー

キャブを傾ける

1. 機体左右それぞれの側でアクセスカバーを固定しているボルト2本を取り外す 図 66。

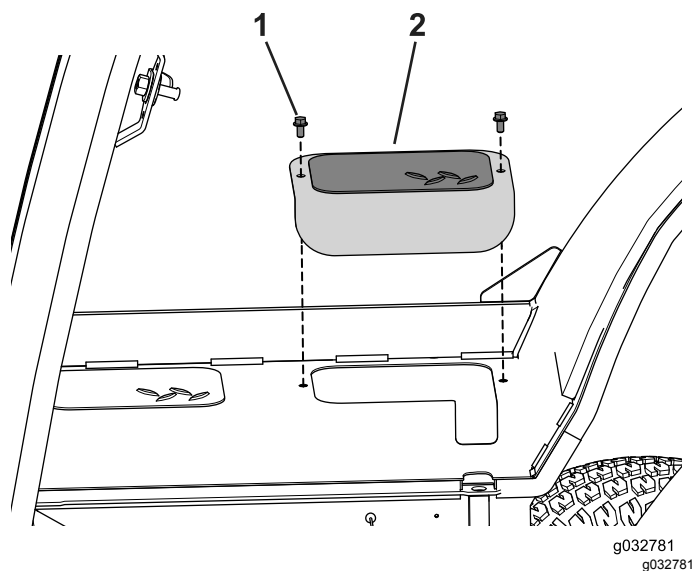


図 66

1. ボルト
2. アクセスカバー

2. キャブフレームに昇降バーアセンブリをセットする 図 67。

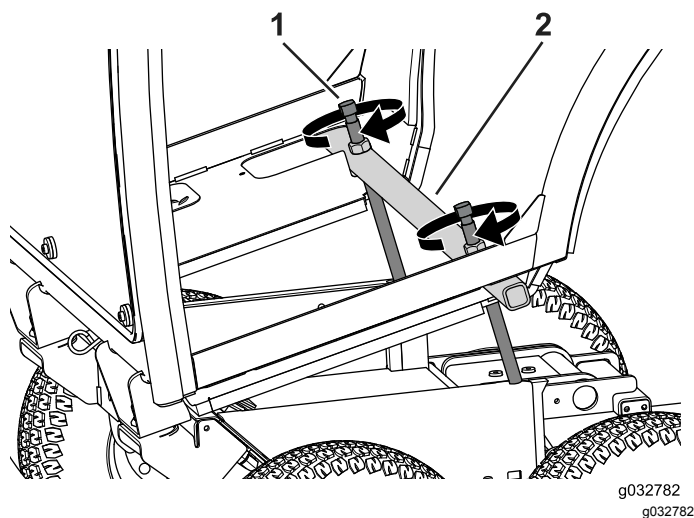


図 67

1. 昇降ねじ
2. 昇降バーアセンブリ

3. 左右の昇降ねじを交互にそれぞれ数回ずつ回転させてキャブを徐々に前傾させる 図 67。
4. 片側の昇降ねじを何回転か回したら反対側に移って同じだけ回転させることを繰り返す。

マシンに冬用フレームを接続する

1. 冬用フレームをマシンに整列させ、バックさせて突き合わせる 図 68。

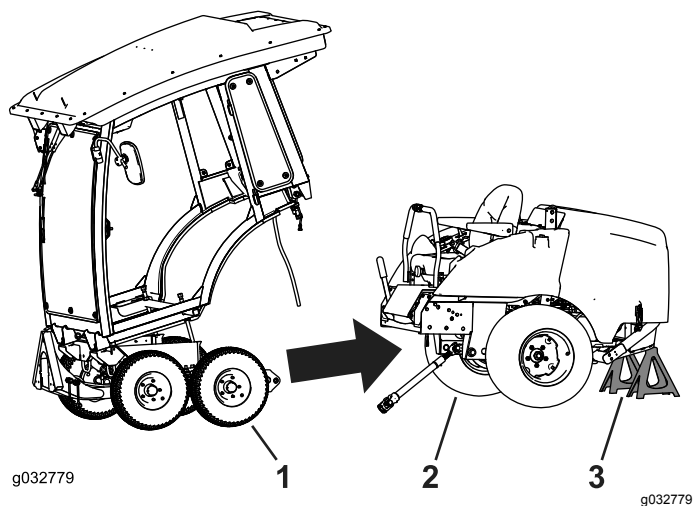


図 68

1. 冬用フレーム
2. 機体フレーム
3. ジャッキスタンド

2. フロアジャッキを使って機体の上下位置を調整し、機体のボルト穴と冬用フレームのボルト穴を整列させる。
3. マシンをジャッキアップしたら、ジャッキスタンドで支える 図 68。
4. カップラリンク、ボルト $\frac{3}{4}$ " x 4"、ワッシャを使って、冬用フレームを機体フレームに固定する 図 69。

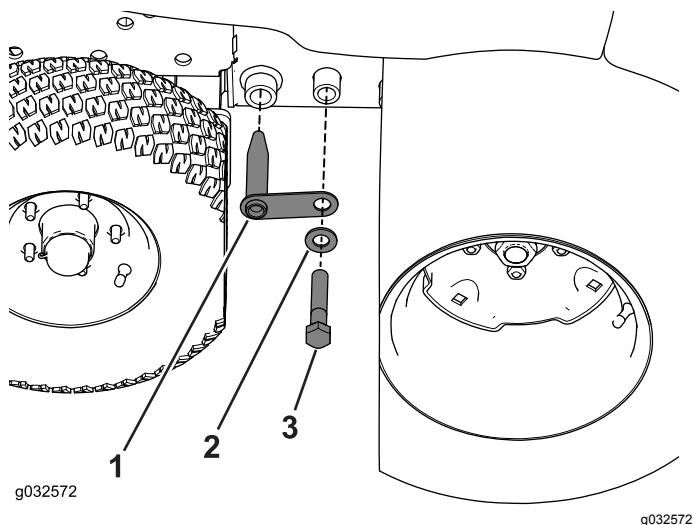


図 69

1. カップラリンク
2. ワッシャ $\frac{3}{4}$ "
3. ボルト $\frac{3}{4}$ " x 4"

5. ボルトを 359N・m (37kg・m = 265ft-lb) にトルク締めする。

キャブを機体に固定する

1. 左右の昇降ねじを交互にそれぞれ数回ずつ回転させてキャブを徐々に機体に降ろす 図 70。

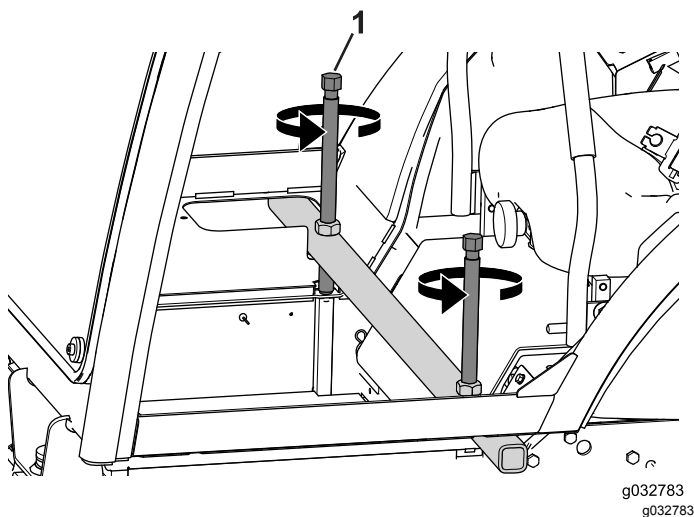


図 70

1. 昇降ねじ

2. ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ " と $\frac{3}{4}$ " x $3\frac{1}{2}$ " を使って、ROPS チューブの左右それぞれにキャブマウントブラケットを仮止めする 図 71。

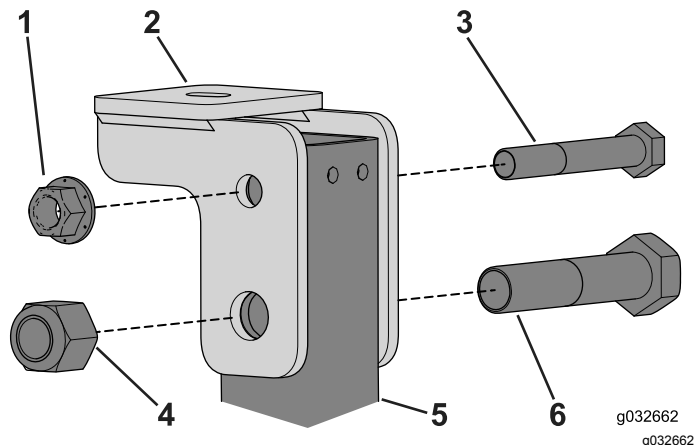


図 71

- | | |
|---|---|
| 1. フランジナット $\frac{1}{2}$ " | 4. ロックナット $\frac{3}{4}$ " |
| 2. キャブブラケットマウント | 5. ROPS チューブ |
| 3. ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ " | 6. ボルト $\frac{3}{4}$ " x $3\frac{1}{2}$ " |

注 キャブブラケットマウントは機体前方へ向けてください。

3. キャブフレームの各取り付け部にゴム製のアイソレータを挿入する 図 72。

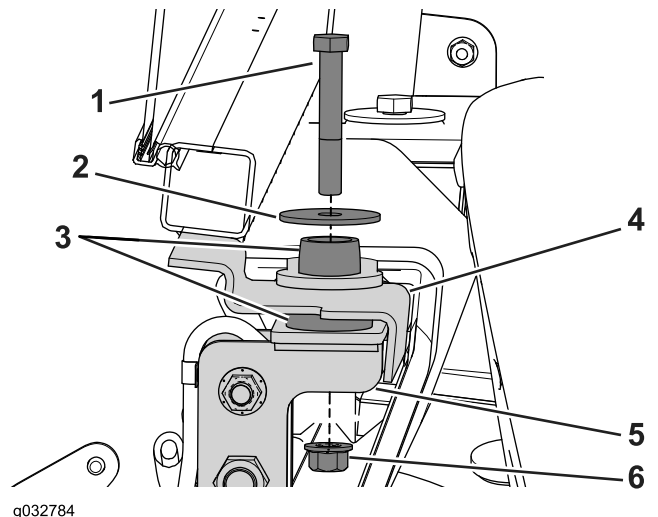
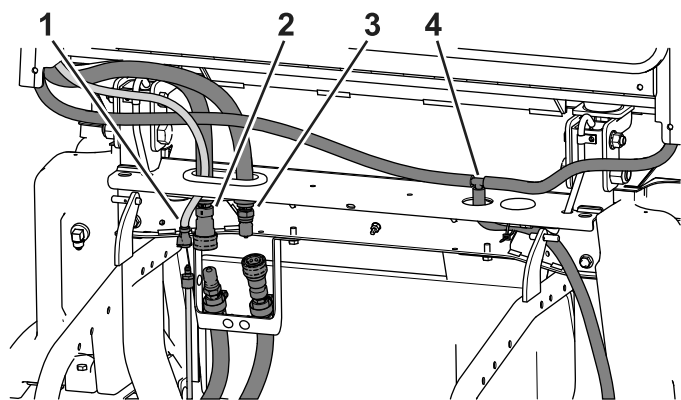


図 72

- | | |
|---|----------------------------|
| 1. ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ " | 4. キャブフレーム |
| 2. ワッシャ大 | 5. キャブマウントブラケット |
| 3. ゴム製アイソレータ | 6. フランジナット $\frac{1}{2}$ " |
4. ボルト $\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ "、大きいワッシャ、フランジナットを使って、キャブを機体に固定する 図 72。
5. それぞれのゴム製アイソレータが 22 mm の厚さに圧縮されるまでボルト ($\frac{1}{2}$ " x $3\frac{1}{4}$ ") を締め付ける。
6. キャブマウントサポートをROPSポストに固定しているボルトとナットを締め付ける 図 71。
- ボルト $\frac{1}{2}$ x $1\frac{1}{4}$ " を 91-113 N·m 33-40 kg·m = 67-83 ft·lb にトルク締めする。
 - ボルト $\frac{3}{4}$ x $3\frac{1}{2}$ " を 322-396 N·m 33-40 kg·m = 238-292 ft·lb にトルク締めする。
7. 昇降バーアセンブリを外し、先ほど外したアクセスカバーを元通りに取り付ける 図 66。

ハーネスの配設と接続を行う

1. ウォッシャ液チューブ、ヒーター用給液ホースと戻りホースを、ハトメに通す 図 73。



g032663
g032663

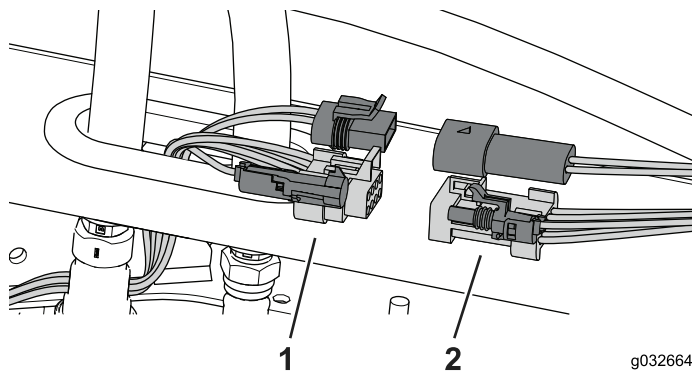
図 73

1. ウォッシャ液チューブ
2. ヒーター用供給側ホース
3. ヒーター用戻り側ホース
4. ドレンチューブ

2. ウォッシャ液チューブ、ヒーター用給液ホースと戻りホースをそれぞれの接続先に接続する。
3. ドレンホースをハトメに通し、ROPSチューブに沿って下方へ配設する 図 73。
4. ケーブルタイを使用して、ドレンホースをROPSチューブに固定する。

ワイヤハーネスを接続する

1. キャブからのワイヤハーネスを、機体からのワイヤハーネスに向けて配設する 図 74。



g032664
g032664

図 74

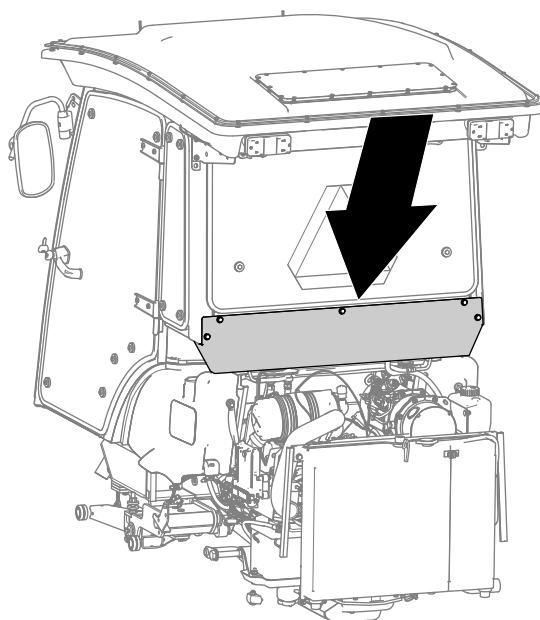
1. 車両のワイヤハーネス
2. キャブのワイヤハーネス

2. キャブのワイヤハーネスのコネクタを機体のワイヤハーネスの対応するコネクタに接続する。
3. ハーネス同士はケーブルタイを使って束ねる。

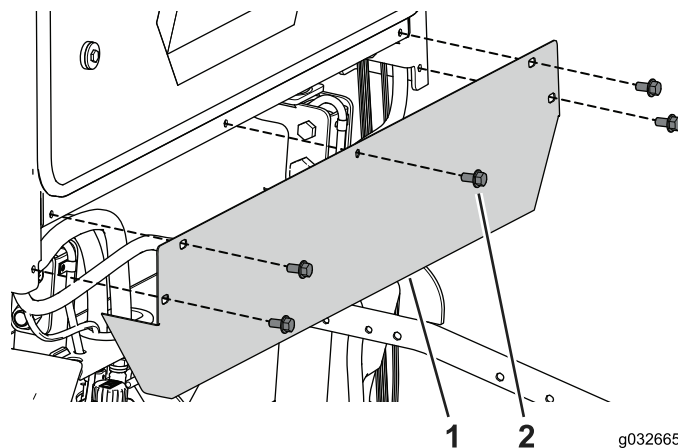
注 可動部や高温部分にはハーネスを固定しないでください。

後カバーを取り付ける

1. ボルト $\frac{3}{8}$ " x $\frac{3}{4}$ " 5本を使って、後カバーを機体に固定する 図 75。



g234180



g032665
g032665

図 75

1. 後カバー
2. ボルト $\frac{3}{8}$ " x $\frac{3}{4}$ "

注 中央のボルトを最初に取り付け、その後に残りのボルトを取り付けてください。

2. ボルトを 37-45 N·m 3.7-4.6 kg·m = 27-33 ft·lb にトルク締めする。

後輪を取り外す

1. 後輪のラグナットをゆるめる。
2. フロアジャッキを使って後輪を床から浮かせ、ジャッキスタンドでフレームを支える 図 76。

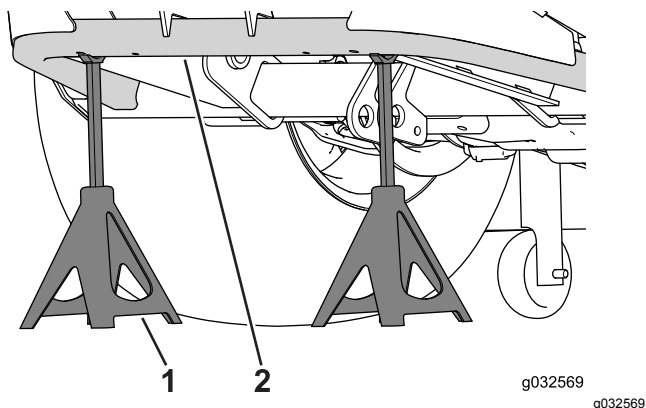


図 76

1. ジャッキスタンド 2. 機体フレーム

3. 機体から後輪を外す。
4. 図 77に示すように、ボルト $\frac{3}{4}$ " x 4"を取り付ける。

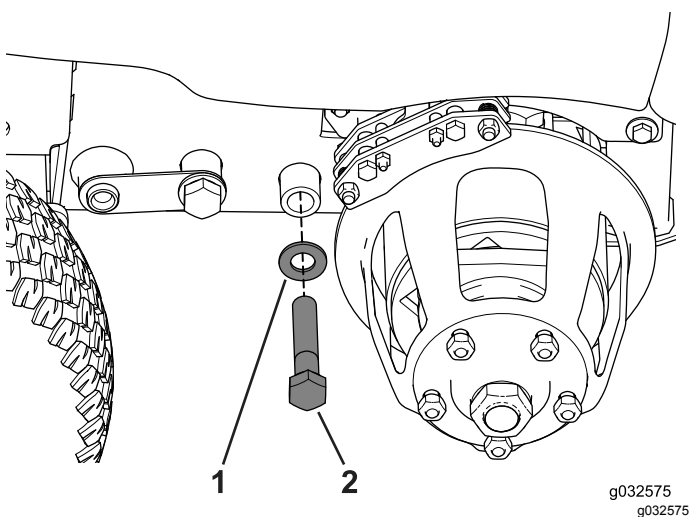


図 77

1. ワッシャ 2. ボルト $\frac{3}{4}$ " x 4"

5. ボルトを 359N・m37kg.m = 265ft-lbにトルク締めする。

PTOドライブを接続する

1. 運転台を機体に固定しているボルト2本を外して PTO接続部へのアクセスを確保する 図 78。

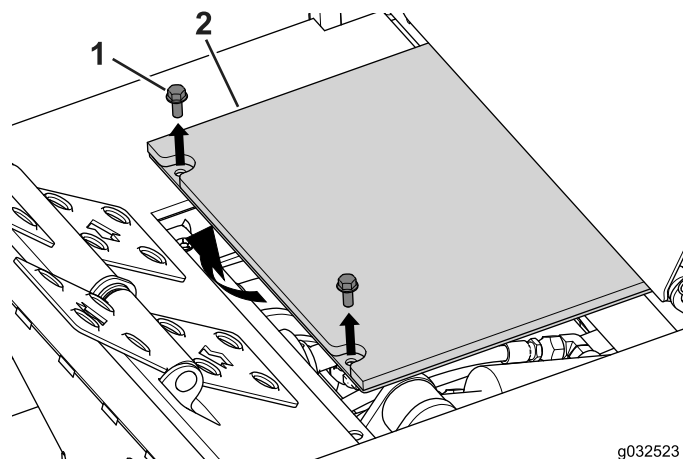


図 78

1. ボルト 2. 運転台

2. 冬用フレームのPTOシャフトにPTOヨークを通し、ロールピンの穴を整列させる 図 79。

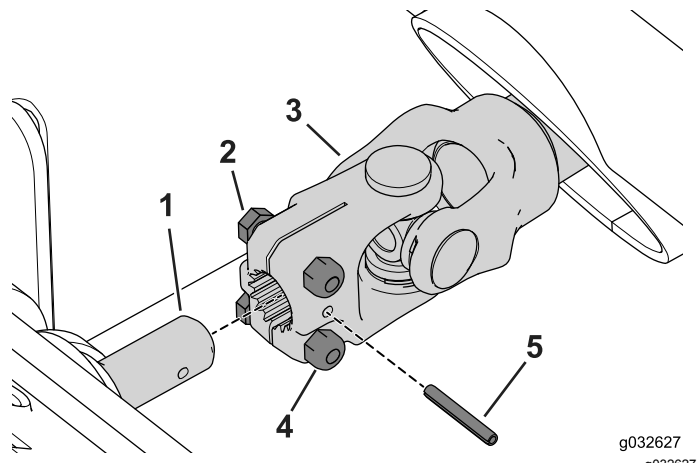


図 79

1. PTO シャフト 4. ロックナット
2. ボルト 5. ロールピン
3. PTOヨーク

3. ロールピンを取り付ける 図 79。
4. ボルトを締め付けてヨークをシャフトに固定する。
5. 先ほど外したボルト $\frac{5}{16}$ " x $\frac{3}{4}$ "2本を使って、運転台を冬用フレームに固定する 図 78。

油圧ホースを接続する

1. ギアポンプについている給液ホース用のフィッティングをゆるめて車体前方に向ける 図 80。

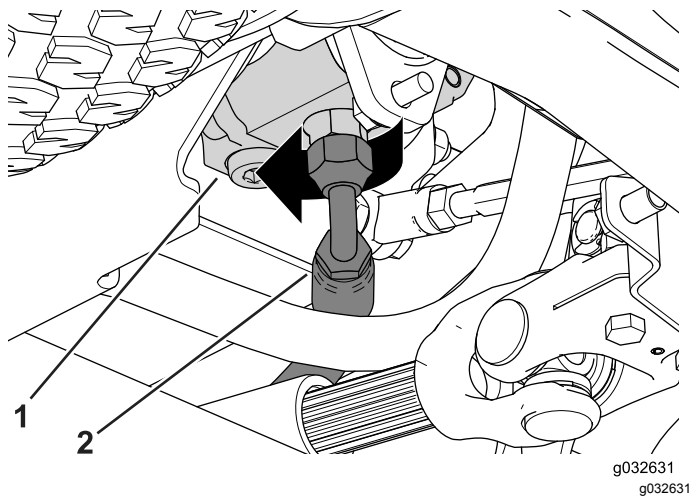


図 80

1. ギアポンプ 2. 給液ホース

2. デッキ昇降シリンダから外したホース 2 本を、それぞれに対応するホースカバーに通す。
3. ケーブルタイを使用して、各ホースカバーの両端を縛る。
4. ホースを機体後方に導く図 81。

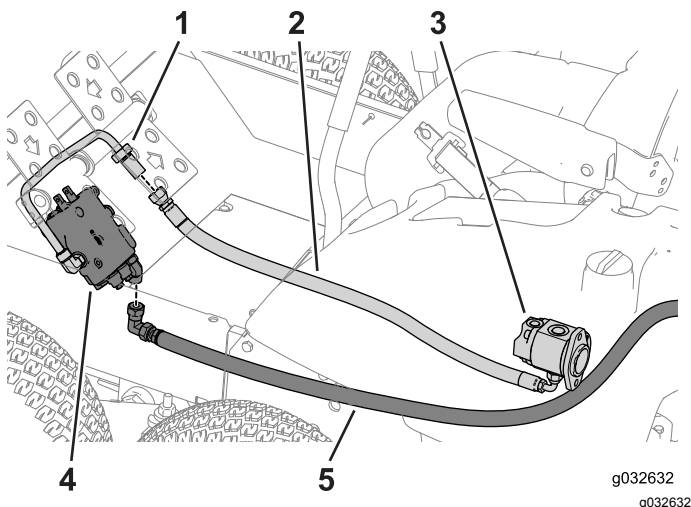


図 81

1. チューブコネクタ 4. 制御バルブ
2. 給液ホース 5. 戻り側ホース
3. ギアポンプ

5. 給液ホースを貫通穴に通し、チューブコネクタに接続する図 82。

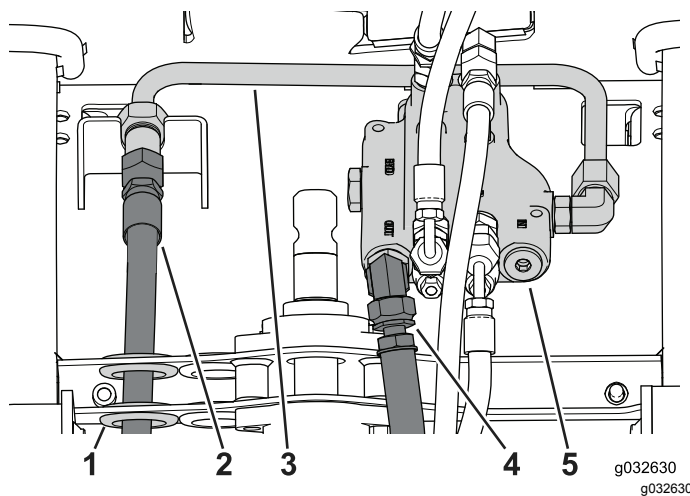


図 82

1. 貫通穴 4. 戻り側ホース
2. 給液ホース 5. 制御バルブ
3. チューブ

6. 戻りホースを制御バルブに接続する図 82。
7. ホースのフィッティングを確実に締め付ける。

注 可動部や高温部分にはホースを固定しないでください。

車輪を取り付ける

1. ハブにホイールを取り付ける図 83。

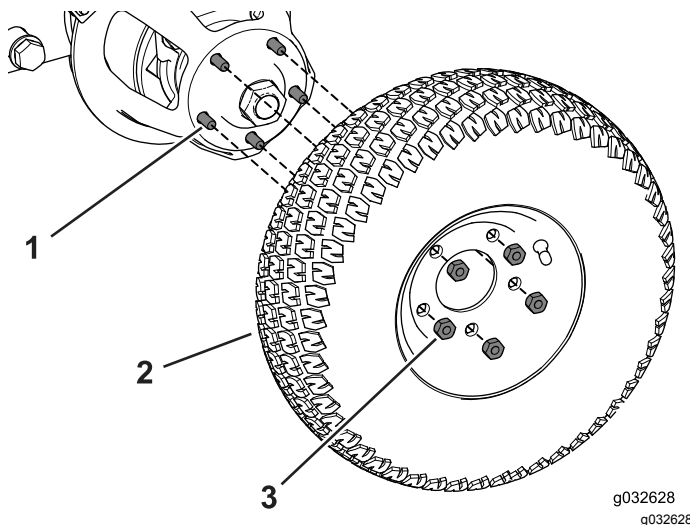


図 83

1. ハブ 3. ラグナット
2. 車輪

2. ラグナットでホイールをフレームに固定する図 83。
3. 以下の順序で、ラグナットを 88-115 N・m
9.0-11.8 kg.m = 65-85 ft-lb にトルク締めする図 84。

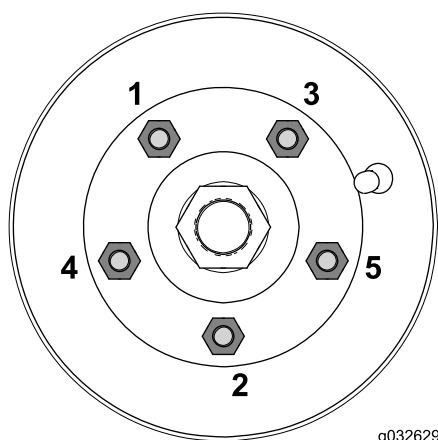


図 84

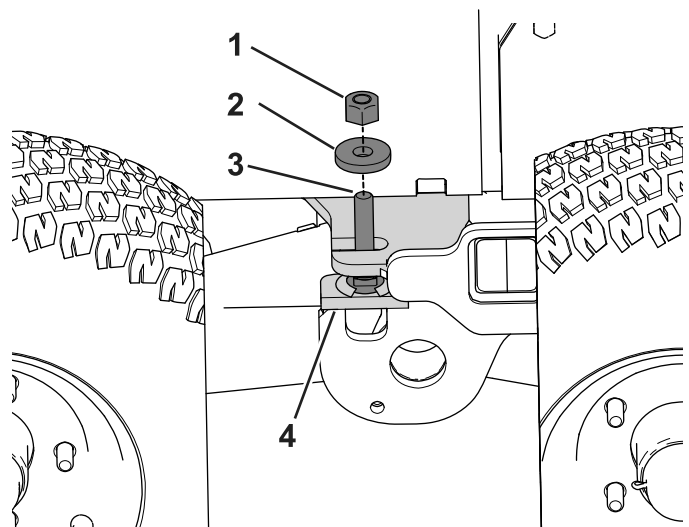


図 86

クローラを取り付ける

▲ 注意

クローラのガイドに指などがはさまれやすい箇所が数多くある。こうした部分に巻き込まれると大けがをする。

クローラを持つ時は、スチール製ガイドの外側にあるゴム製のクローラ部分を持つようにすること。

1. ジャッキスタンド2台でフレーム後部を支えて機体前部を浮かす 図 85。

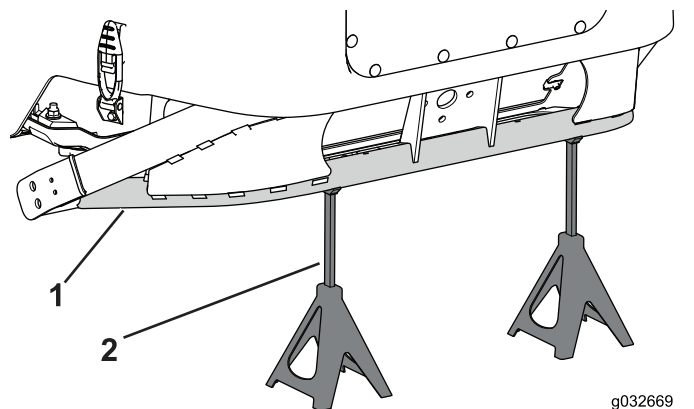


図 85

1. 機体フレーム
2. ジャッキスタンド

2. ボギーストップアセンブリについているねじ山付きスタッドからロックナットとワッシャを取り外して脇に置く 図 86。

1. ロックナット
2. ワッシャ
3. ねじ山付きスタッド
4. ボギーストップアセンブリ

3. 冬用フレームのアタッチメントアーム用のピボットポイントを探し出す 図 87。

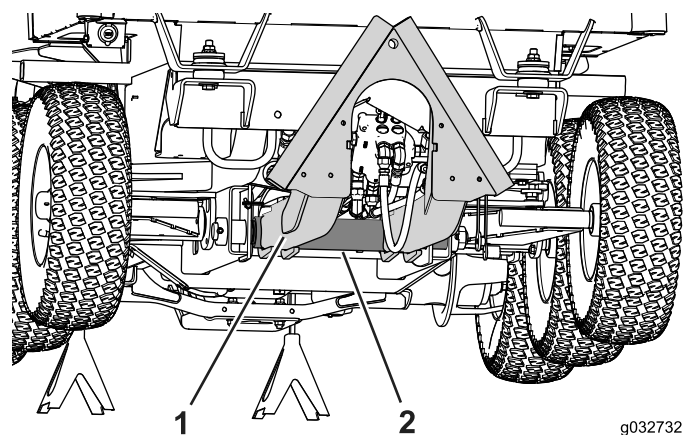


図 87

1. アタッチメント昇降アーム
2. ピボットポイント

4. フロアジャッキを使って冬用フレームを持ち上げる 図 88。

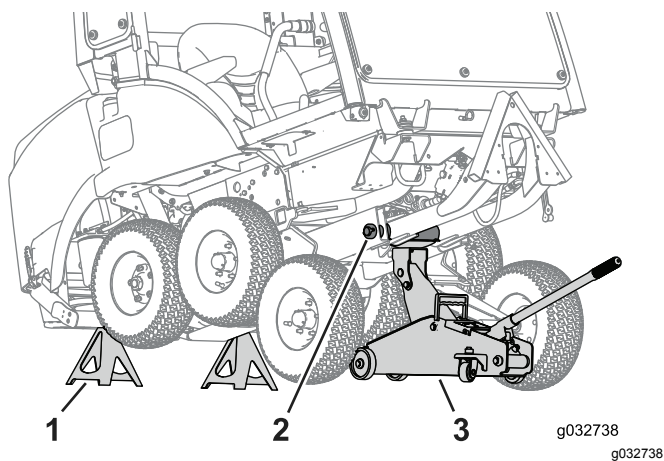


図 88

1. ジャッキスタンド
2. ピボットポイント
3. フロアジャッキ

5. 冬用フレームをジャッキアップしたら、ジャッキスタンドで支える 図 89。

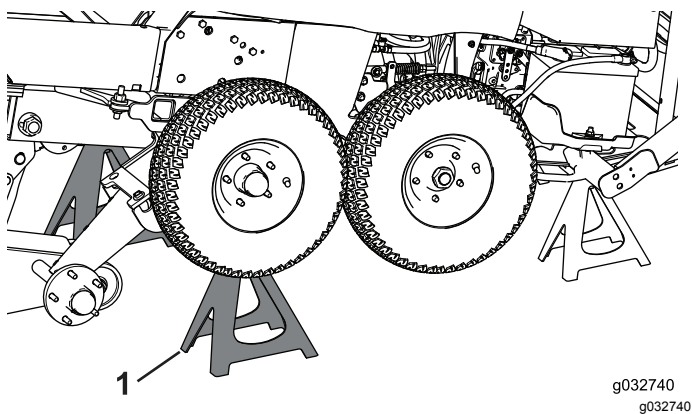


図 89

1. ジャッキスタンド

6. 前輪を取り外す 図 89。
7. センターホイールと後ホイールにクローラを回し掛ける 図 90。

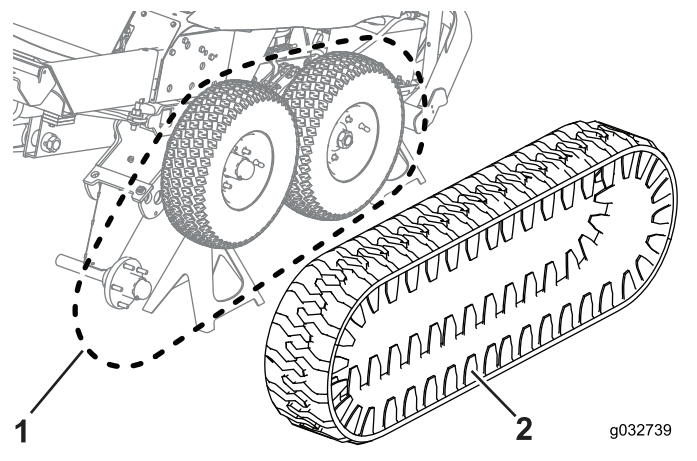


図 90

1. クローラの軌道
2. クローラ

8. 冬用フレームに前ホイールを取り付ける **車輪を取り付ける (ページ 36)**を参照。
9. フロアジャッキでフレームを持ち上げてジャッキスタンドを外し、機体を床に下ろす。
10. ボギーストップアセンブリについているねじ山付きスタッドに、ロックナットとワッシャを取り付ける 図 91。

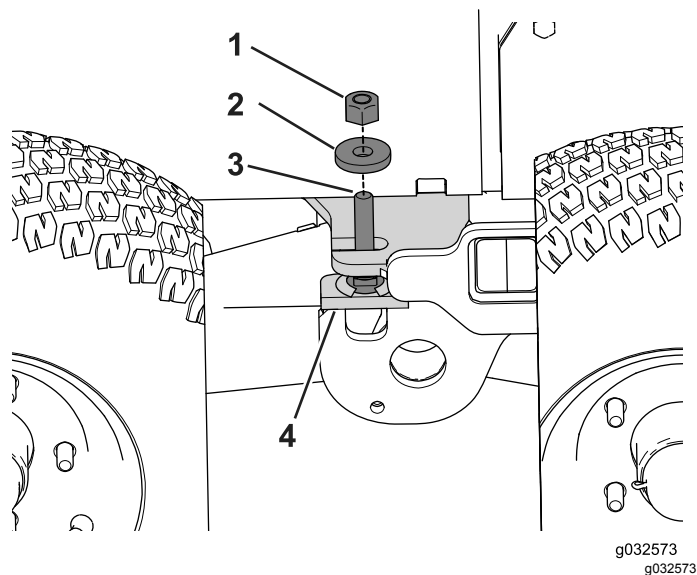


図 91

1. ロックナット
2. ワッシャ
3. ねじ山付きスタッド
4. ボギーストップアセンブリ

11. ナットを91-113 N・m/9.3-11.5 kg・m=67-83 ft-lbにトルク締めする。

組み立てを完了する

必要なパーツはありません。

手順

1. 機体にフードを取り付ける。
2. ウォッシュ液タンクに液を入れる。
3. ラジエター液を補給する。ラジエター液の仕様などについては **オペレーターズマニュアル** を参照。
4. 油圧オイルの量を点検し、必要に応じて補給するオイルの種類についてはマシンの **オペレーターズマニュアル** を参照。
5. バッテリーケーブル-をバッテリーに接続する。
6. エンジンを始動し、昇降アームを数回上下させて、オイル漏れがないか点検する。
7. 油圧オイルと冷却液の量をもう一度点検し、必要に応じて補給する。
8. 夏用フレームやその関連機器、金具類などを、来春に備えて保管する。

製品の概要

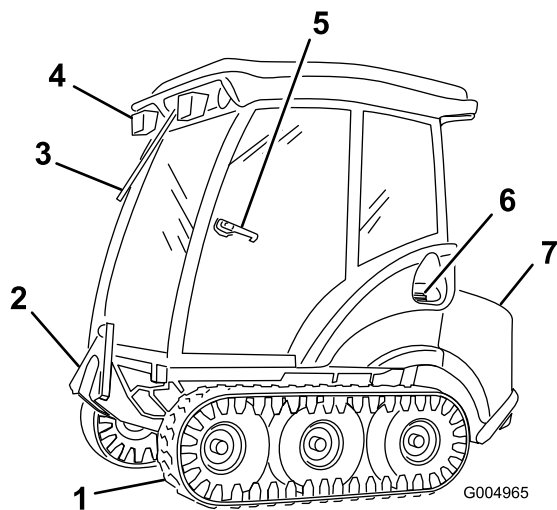


図 92

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. クローラ | 5. ドアラッチ |
| 2. アタッチメント昇降アーム | 6. 燃料タンクのキャップ |
| 3. ワイパー | 7. フード |
| 4. 作業用ライト | |

各部の名称と操作

キャブ関係の制御装置

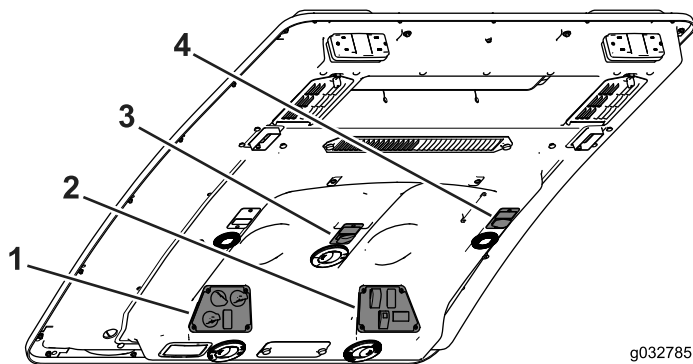


図 93

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 室内温度コントロールパネル | 3. ワイパーコントロールスイッチ |
| 2. 照明コントロールパネル | 4. 電源ソケットセレクト |

室内温度コントロールパネル

室内の温度を調整するパネルです 図 94。

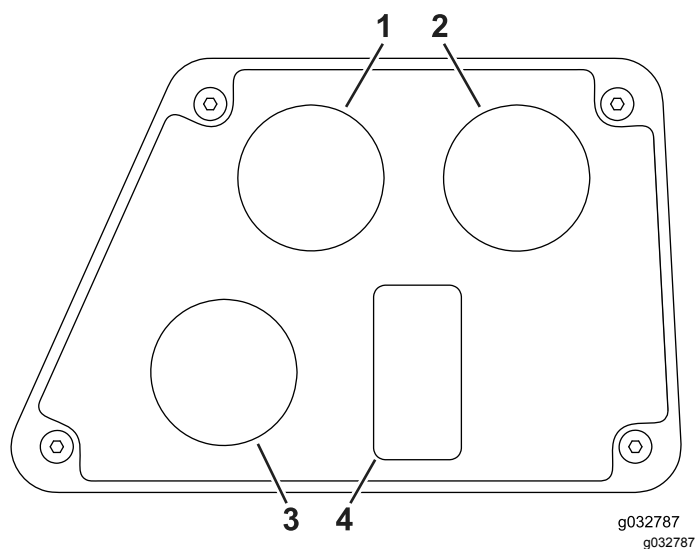


図 94

1. ファンコントロールの位置
2. 温度コントロールの位置
3. 循環コントロールの位置
4. エアコンスイッチの位置

温度コントロール

ノブを回してキャブ内の温度を調整します 図 94。

ファンコントロール

ノブを回してファンの回転速度を調整します 図 94。

空気循環コントロール

室内空気循環モードと外気導入モードの切り替えを行うスイッチです 図 94。

照明コントロールパネル

照明を調整するパネルです 図 95。

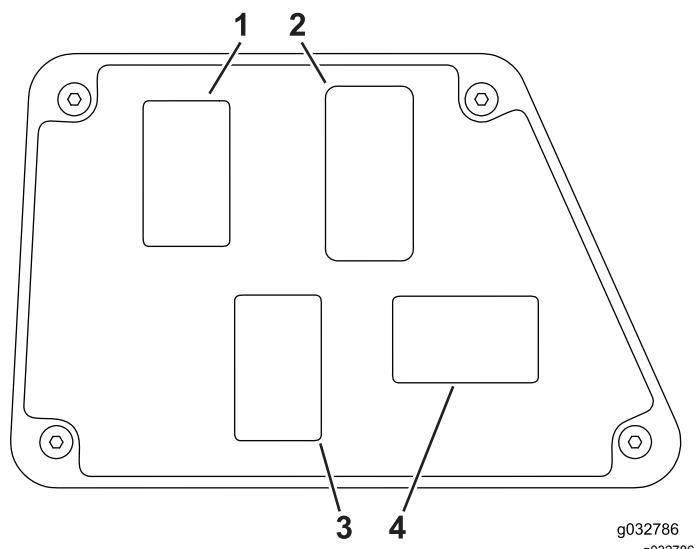


図 95

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. ヘッドライトスイッチ | 3. ハザードランプスイッチ |
| 2. 室内灯のスイッチ | 4. 方向指示器スイッチ |

ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトの点灯と消灯を行います 図 95。

室内灯スイッチ

室内照明のON/OFFを行います 図 95。

ハザードランプスイッチ

ハザードランプのON/OFFを行います 図 95。

方向指示器スイッチ

左右の方向指示器のON/OFFを行います 図 95。

ワイパースイッチ

ワイパーのON/OFFを行います 図 93。

電源ソケットセレクト

使用する電源ソケットの選択を行います 図 93。

後窓用ラッチ

後窓用ラッチ

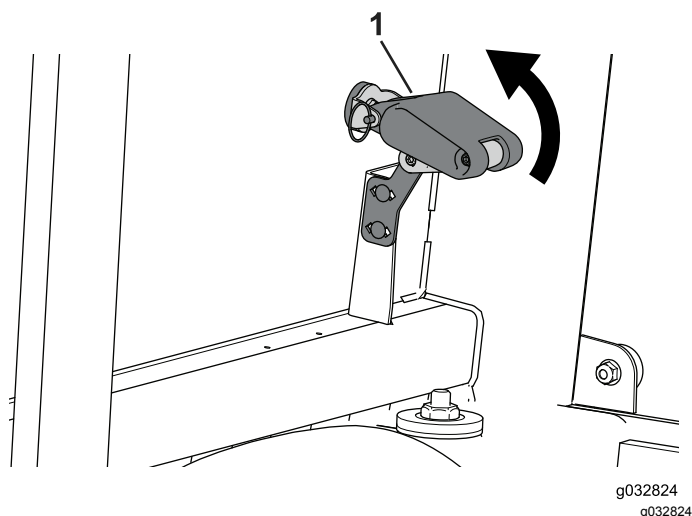


図 96

1. 窓用ラッチ

ラッチを上を開くと窓を開けることができます 図 96。ラッチを押し込むように開くと窓を開いた状態で固定できます。閉じる時にはラッチを引き出して下げてください。

重要 フードを開ける時には、フードが後窓にぶつからないように後窓を閉めてください。

ペダルの操作

アタッチメントアームはペダルで操作します 図 97。

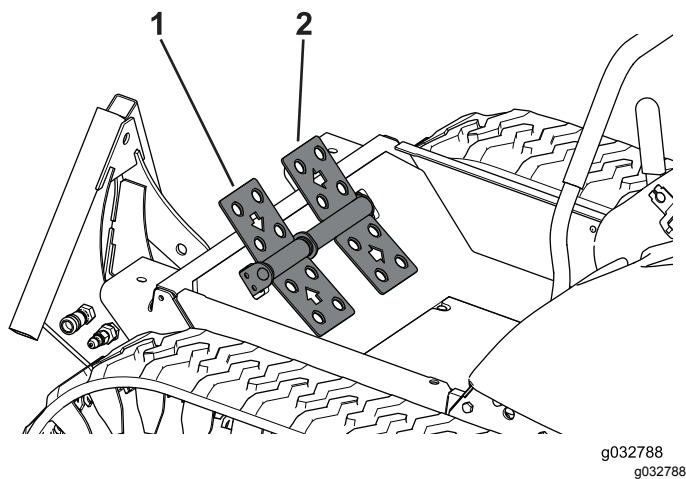


図 97

1. 左ペダル

2. 右ペダル

左ペダル

左ペダルでアタッチメントの上げ下げを行います 図 97。

右ペダル

右ペダルでアタッチメントの操作を行います 図 97。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

安全を第一に

安全についての章に記載されている注意事項をすべてよく読んでください。オペレータや周囲の人を事故から守る重要な情報が掲載されています。

▲ 危険

ぬれ芝、氷の上、滑りやすい斜面などでは転倒して制御できなくなる危険があります。

クローラが溝などに落ちて機体が転倒すると、最悪の場合、死亡事故などの重大な事故となる危険がある。

ROPS に関する説明や警告をよく読んで注意事項を守ること。

危険を避け、転倒事故を防止するために

- 段差や溝、池や川の近くなどでは作業しない。
- 斜面では速度を落とし、より慎重な運転を心がける。
- 急旋回したり不意に速度を変えたりしない。必ずシートベルトを着用する。

▲ 注意

この機械の運転音は、オペレータの耳の位置で 85 dBA となり、長時間使用しつづけると聴覚に障害を起こす可能性がある。

運転に際しては聴覚保護具を使用すること。



図 98

1. 警告 聴覚保護具を着用のこと。

アタッチメントの使い方

- アタッチメントでの作業を始める前にオペレーターズマニュアルを読んでください。
- 油圧クイックカップラの接続を行う時には、コネクタにごみや異物が付着していないことを必ず確認してください。
- 出力シャフトを錆びさせないよう、常にオイルで保護してください。
- 絶対に、アタッチメントを上昇させたまま PTO を操作しないでください。上昇させたまま PTO を操作すると PTO 駆動ラインから異音が出ます。

以下の要領でアタッチメントを取り付ける

1. 機体に既についているアタッチメントを外す。
2. アタッチメントの搭載アダプタの真後ろにマシンを停車させる。マシンの搭載アダプタを上昇させてアタッチメントのアダプタに嵌め合わせる。
3. 搭載アダプタ同士が相互に連結したら、アタッチメントピンとヘアピンで固定する **図 99**。

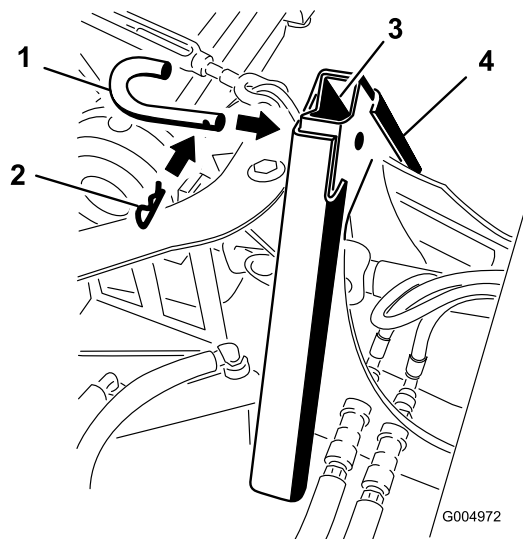


図 99

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. アタッチメントピン | 3. 機体側の搭載アダプタ |
| 2. ヘアピン | 4. アタッチメント側の搭載アダプタ |

除雪機用ワイヤを配設する

除雪機用のワイヤを、キャブからアイレットを通して除雪機まで導きます。

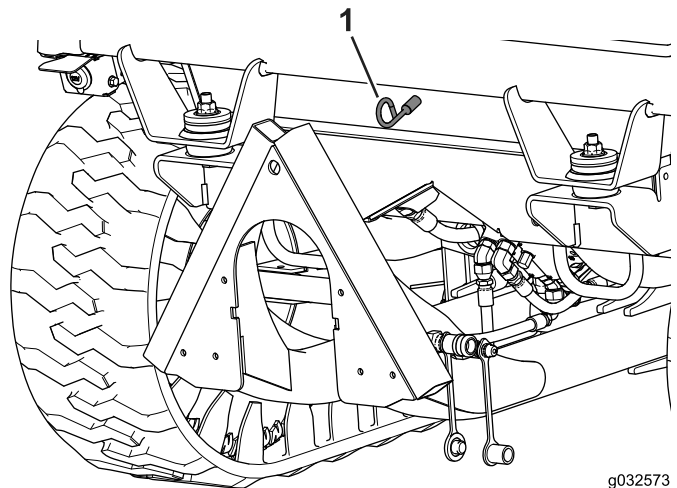


図 100

1. アイレット

冬用フレームを取り外す

注 ROPSを外したときの金具類は、来春の再取り付けに便利のように、すべてROPSに取り付けて保管してください。

コンバージョン前の機体の準備

1. エンジンを始動し、アタッチメントをすべて外す。

注 冬用フレームを引き出して夏用フレームに交換でき、機体後部をフロアジャッキで持ち上げて作業できるような場所に駐車する。各アタッチメントのオペレーターズマニュアルに従ってアタッチメントの格納保管を行う。

2. 昇降アームの A フレームを下降させる。
3. バッテリーのマイナス (-) 端子に接続されているケーブルを外す。

PTOの接続を外す

1. フロアプレートのカバーを止めているボルト2本を取ってカバーを外す 図 101。

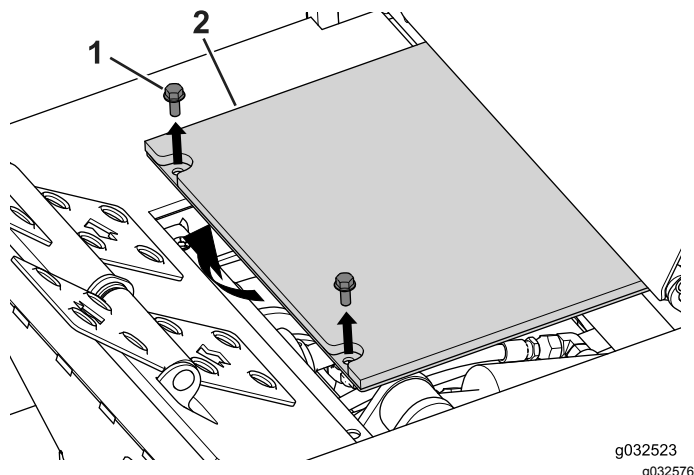


図 101

1. ボルト
2. 運転台

2. 駆動シャフトをギアボックスのシャフトに固定しているボルト2本についているロールピンを取り、キャップスクリューをゆるめる 図 102。

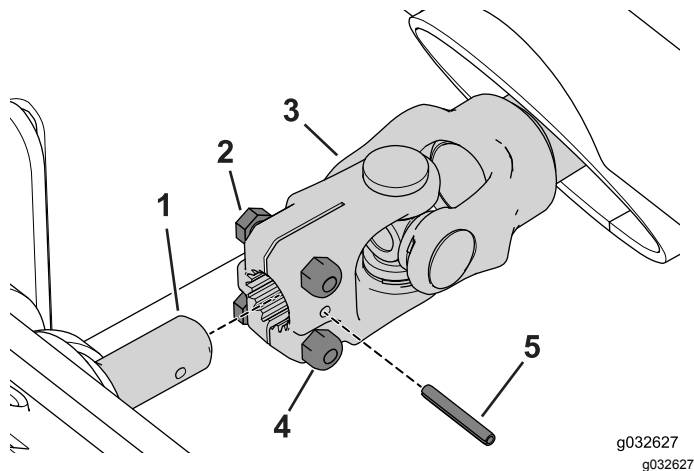


図 102

1. PTO シャフト
2. ボルト
3. PTOヨーク
4. ロックナット
5. ロールピン

3. ロールピンを外して脇に置く。

クローラを取り外す

1. 機体フレーム後部の下にジャッキスタンド2台をセットする 図 103。

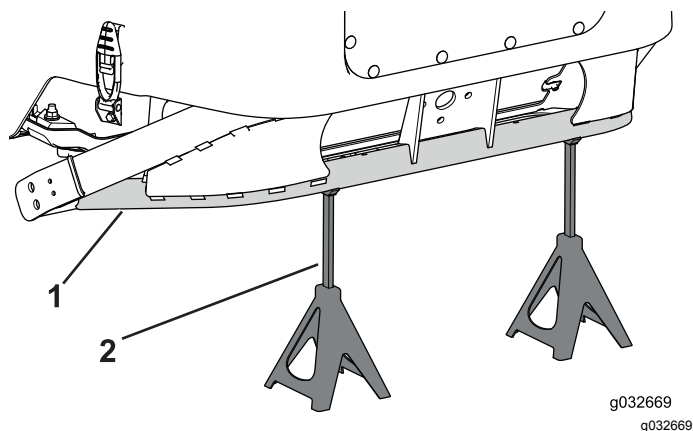


図 103

1. 機体フレーム
2. ジャッキスタンド

2. ボギーストップアセンブリについているねじ山付きスタッドから、ロックナットとワッシャを取り外す 図 104。

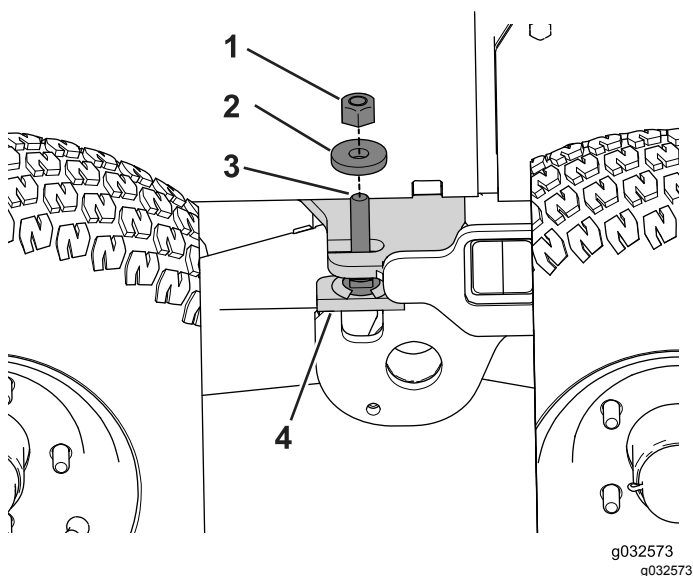


図 104

1. ロックナット
2. ワッシャ
3. ねじ山付きスタッド
4. ボギーストップアセンブリ

3. アタッチメントアセンブリ用のピボットポイントの下にフロアジャッキをセットし、フレーム前部を持ち上げて、中央タイヤが後ろへ転がって後タイヤにほとんど接触する状態にする 図 105。

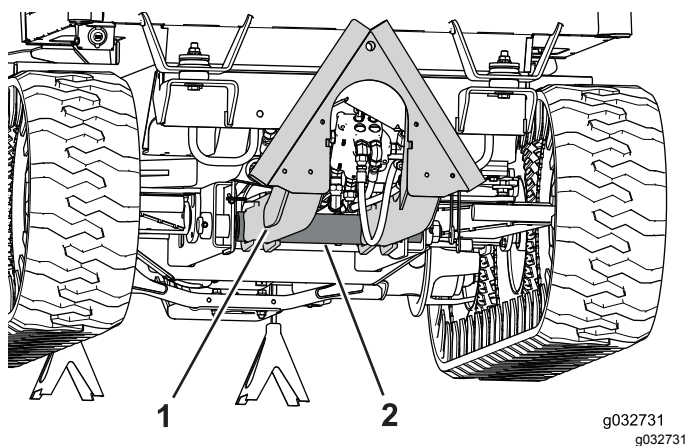


図 105

1. アタッチメントアセンブリ
2. アタッチメントアセンブリのピボット

4. ジャッキスタンドで冬用フレームを支える。
5. 冬用フレームから前ホイールを取り外す。
6. 冬用フレームからクローラを取り外す。
7. 冬用フレームに前ホイールを取り付ける **車輪を取り付ける (ページ 36)**を参照。
8. フロアジャッキを使って冬用フレームを床まで降ろす。
9. ボギーピボットのスタッドに平ワッシャ $\frac{1}{2}$ "とロックナットを取り付けて締め付ける **図 104**。

油圧ホースを取り外す

1. コントロールバルブの下に適切な受け容器を置く **図 106**。
2. チューブコネクタからの給液ホースを外して貫通穴から抜き出す **図 106**。

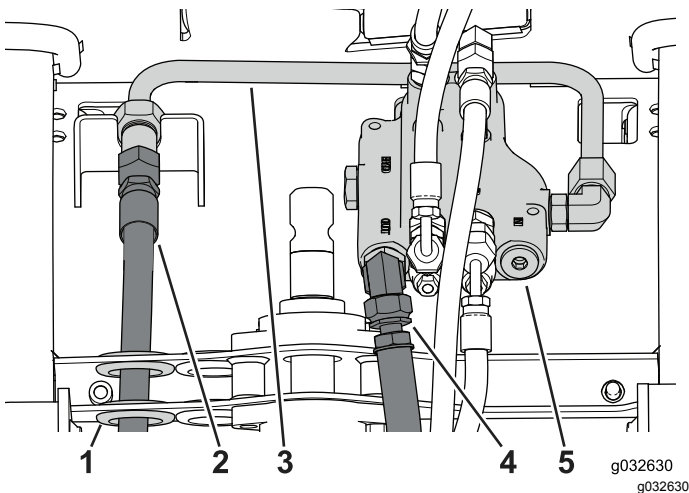


図 106

1. 貫通穴
2. 給液ホース
3. チューブ
4. 戻り側ホース
5. 制御バルブ

3. 制御バルブから戻りホースを外す **図 106**。

4. 各フィッティングにキャップを嵌める。

注 液がこぼれた場合はふき取ってください。

ワイヤハーネスを外す

1. 後カバーをキャブに固定しているボルト5本を外す **図 107**。

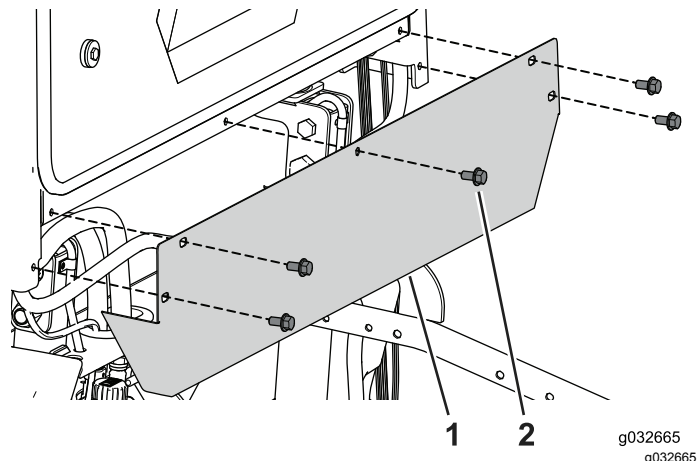


図 107

1. 後カバー
2. ボルト $\frac{3}{8}$ " x $\frac{3}{4}$ "

2. 補助ワイヤをキャブに固定しているケーブルタイをすべて切断する。
3. 機体のワイヤハーネスからキャブ用のイヤハーネスを外す **図 108**。

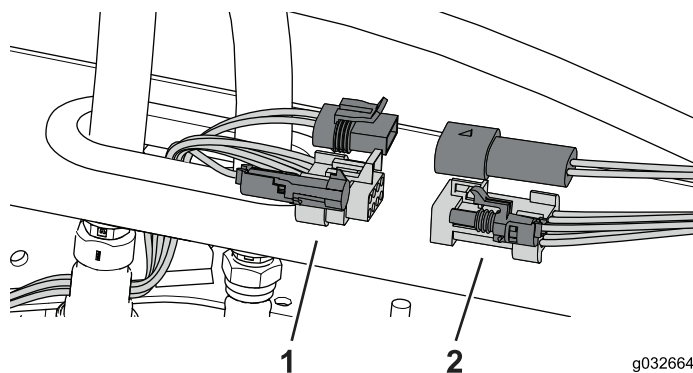


図 108

1. 車両のワイヤハーネス
2. キャブのワイヤハーネス

4. それぞれのハーネスを安全に固定する。

キャブのホースの接続を外す

1. ウォッシャ液チューブ、ヒーター用給液ホースと戻りホースの接続を外す **図 109**。

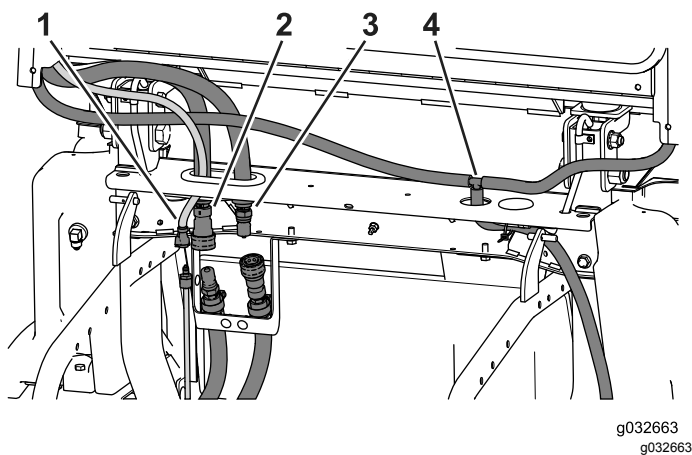


図 109

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. ウォッシャー液チューブ | 3. ヒーター用戻り側ホース |
| 2. ヒーター用供給側ホース | 4. ドレンチューブ |

2. ドレンチューブを機体に固定しているケーブルタイをすべて切断する [図 109](#)。
3. ホースやチューブ類をすべてハトメから抜き、次の冬に備えて固定保管する。
4. 外したホースにはプラグを嵌める。
5. 冬用のハトメを夏用のハトメに交換する [図 110](#)。

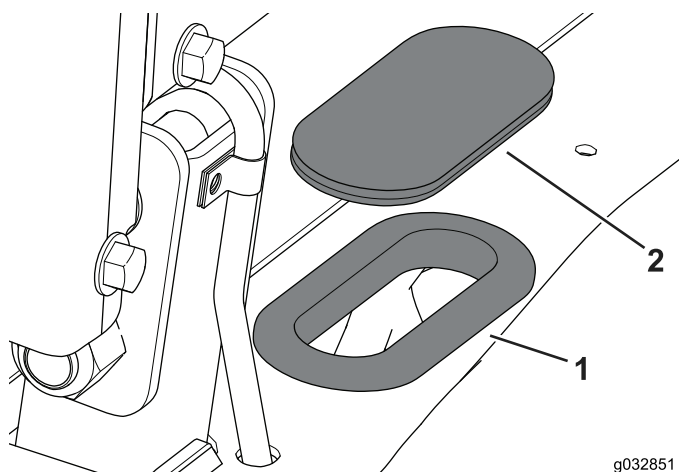


図 110

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 冬用のハトメ | 2. 夏用のハトメ |
|-----------|-----------|

6. 後カバーを取り付ける [後カバーを取り付ける \(ページ 34\)](#)を参照。

注 液がこぼれた場合はふき取ってください。

キャブを外す

1. キャブフレーム後部で、キャブマウントブラケットをROPSチューブに固定しているボルトを取り外す [図 111](#)。

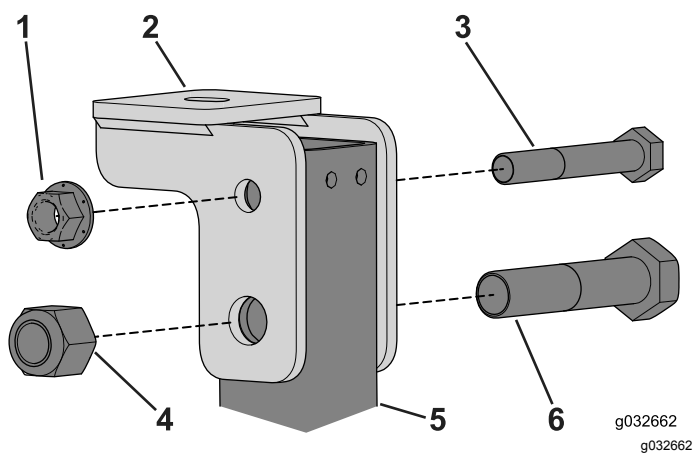


図 111

- | | |
|--|---|
| 1. フランジナット $\frac{1}{2}$ " | 4. ロックナット $\frac{3}{4}$ " |
| 2. キャブマウントブラケット | 5. ROPSチューブ |
| 3. ボルト $\frac{1}{2}$ " x $\frac{3}{4}$ " | 6. ボルト $\frac{3}{4}$ " x $3\frac{1}{2}$ " |

2. 機体左右それぞれの側でアクセスカバーを固定しているボルト2本を取り外す [図 112](#)。

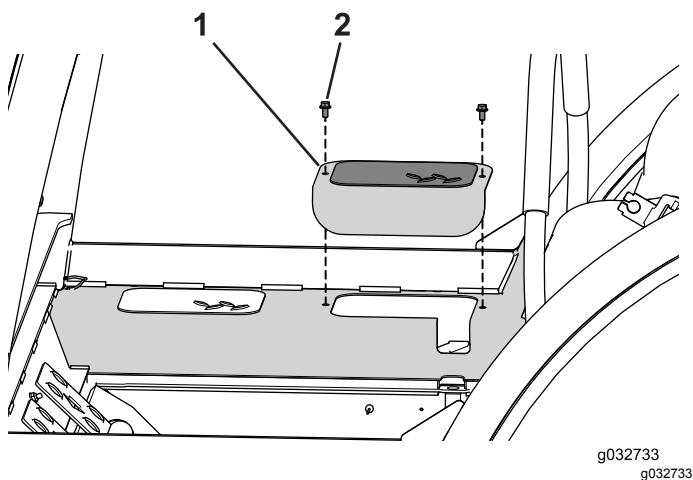


図 112

- | | |
|------------|--------|
| 1. アクセスカバー | 2. ボルト |
|------------|--------|

3. キャブフレームに昇降バーをセットする [図 113](#)。

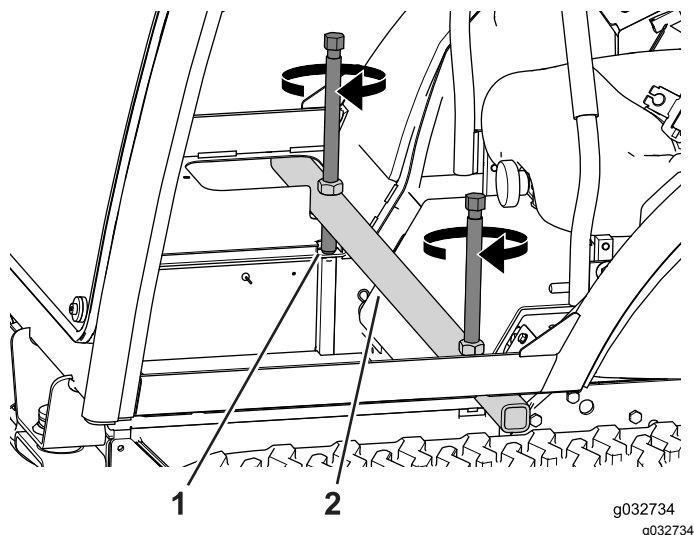


図 113

1. 昇降バー
2. 昇降ねじ

4. 左右の昇降ねじを交互にそれぞれ数回ずつ回転させてキャブを徐々に前傾させる図 113。

機体から冬用フレームを外す

1. カバープレートを外して脇に置く図 114。

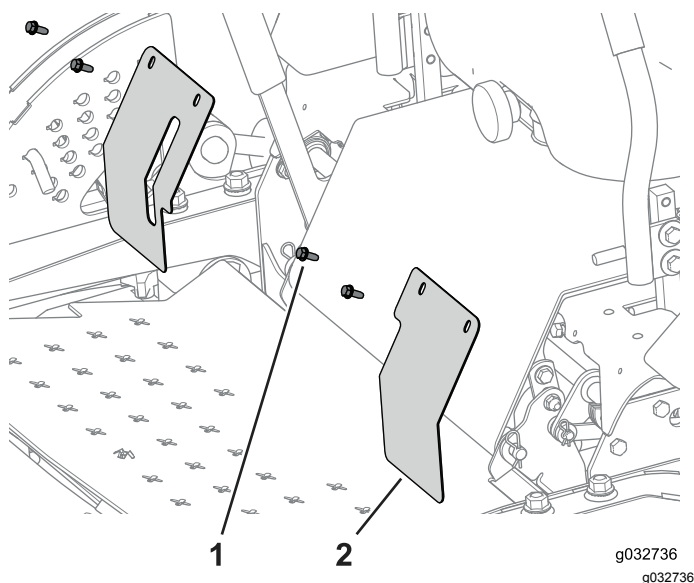


図 114

1. ボルト
2. カバープレート

2. フロアジャッキを使って後輪を床から浮かせ、夏用ホイールを取り付けられる程度の高さにしてジャッキスタンドでフレームを支える図 115。

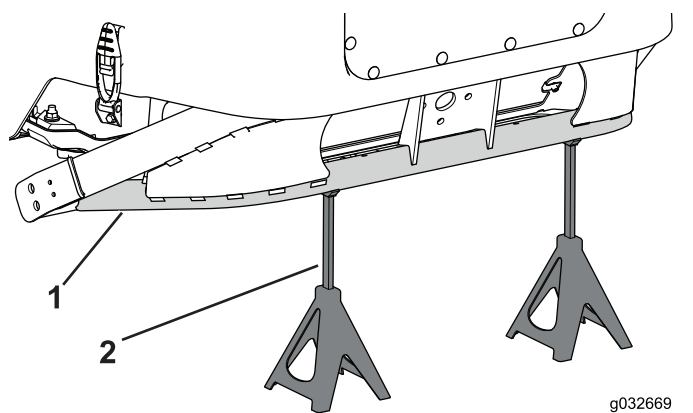


図 115

1. 機体フレーム
2. ジャッキスタンド

3. 後輪を取り外す。
4. 後ハブに一番近いボルトとワッシャを外す図 116。

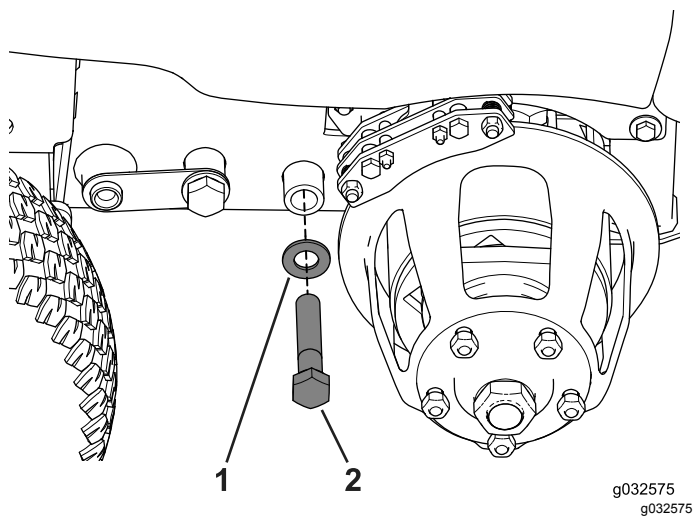


図 116

1. ボルト
2. ワッシャ

5. 夏用ホイールを取り付ける 車輪を取り付ける (ページ 36)を参照。
6. フロアジャッキを使って夏用ホイールを床に降ろし、ジャッキスタンドでフレーム後部を支える図 115。
7. 機体フレームから、ボルト、ワッシャ、カップラリンクを外す図 117。

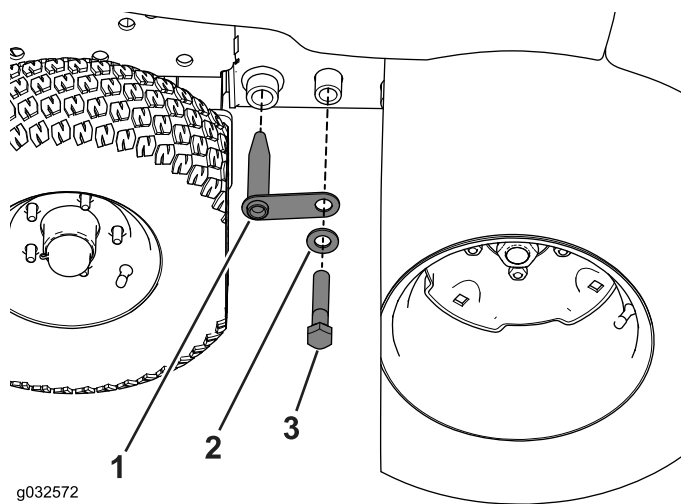


図 117

1. カップラリンク
2. ワッシャ
3. ボルト

8. 冬用フレームを機体から引き出す 図 118。

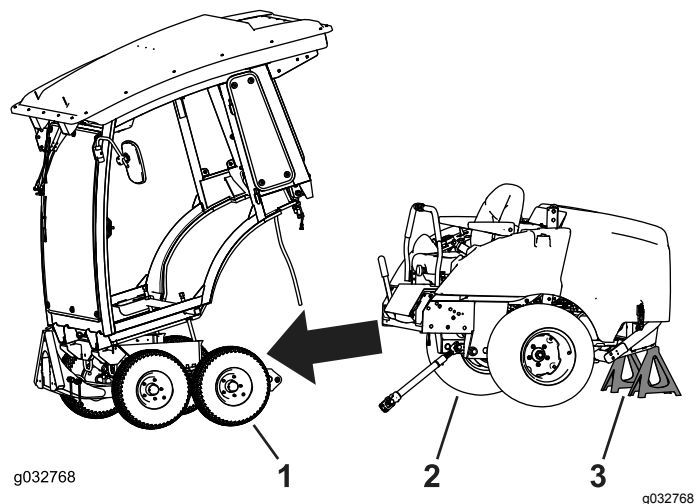


図 118

1. 冬用フレーム
2. 機体
3. ジャッキスタンド

9. キャブに後カバーを取り付ける 後カバーを取り付ける (ページ 34)を参照。

夏用フレームを取り付ける

マシンに夏用フレームを接続する

1. 夏用フレームをマシンに整列させ、バックさせて突き合わせる 図 119。

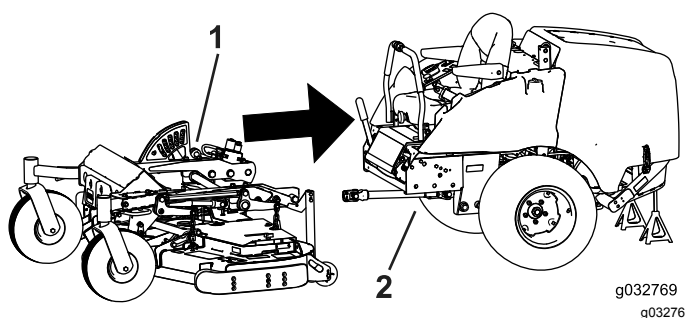


図 119

1. 夏用フレーム
2. 機体フレーム

2. 機体の左側で、ボルト穴同士を整列させてボルトを入れて仮止め状態にする 図 121。

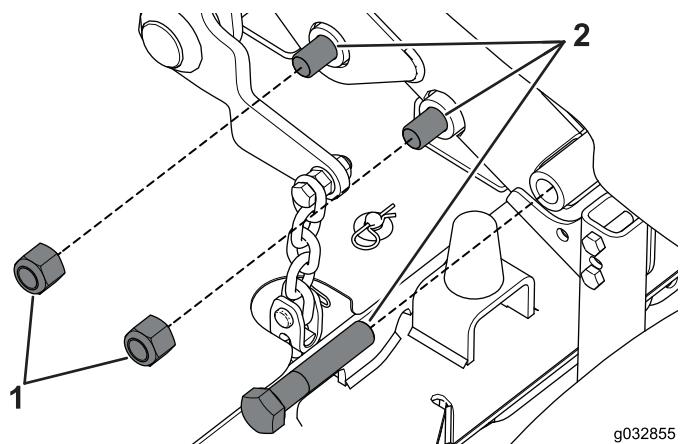


図 120

1. ロックナット
2. ボルト 3/4" x 4"

3. 機体の右側で、ボルト穴同士を整列させてボルトを入れて仮止め状態にする 図 122。

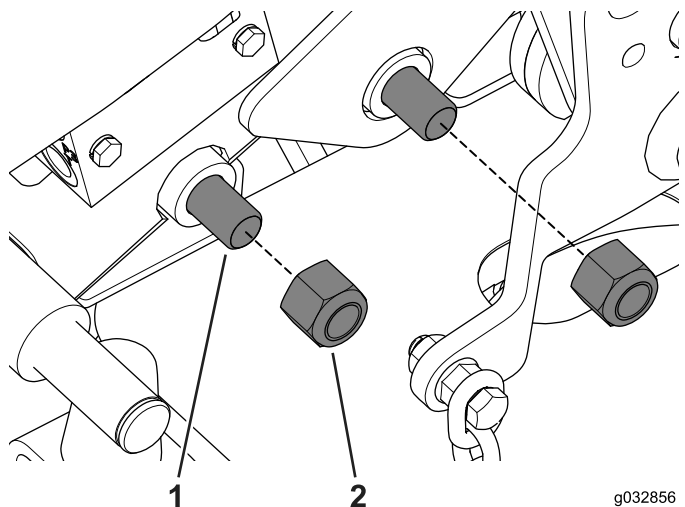


図 121

1. ボルト 3/4" x 4"
2. ロックナット

4. ボルトを 359N・m (37kg・m = 265ft・lb) にトルク締めして夏用フレームを機体に固定する。

夏用フレームに油圧ホースを接続する

1. バルブ下に適当な液体回収容器を置き、制御バルブから油圧ホースを外す。
2. ギアポンプについている給液ホース用のフィッティングをゆるめてホースを車体右方向に向ける [図 122](#)。

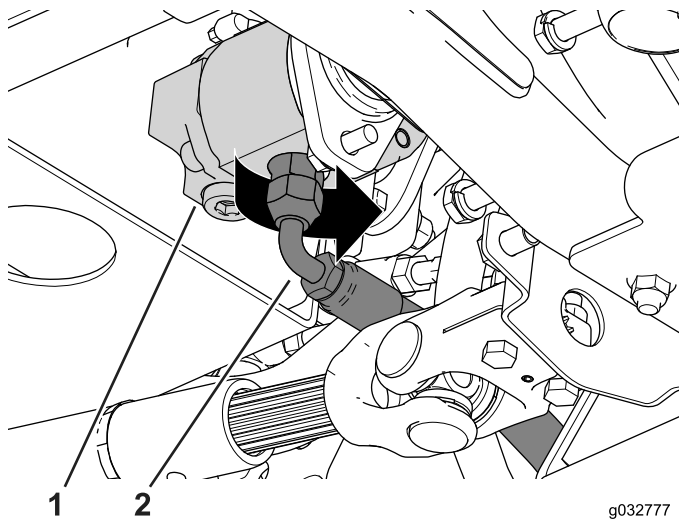


図 122

1. ギアポンプ
2. 供給側ホースのフィッティング

3. リテーナリング、ピボットピン、ボルトで、デッキ昇降シリンダをピボットポストに固定する [図 123](#)。

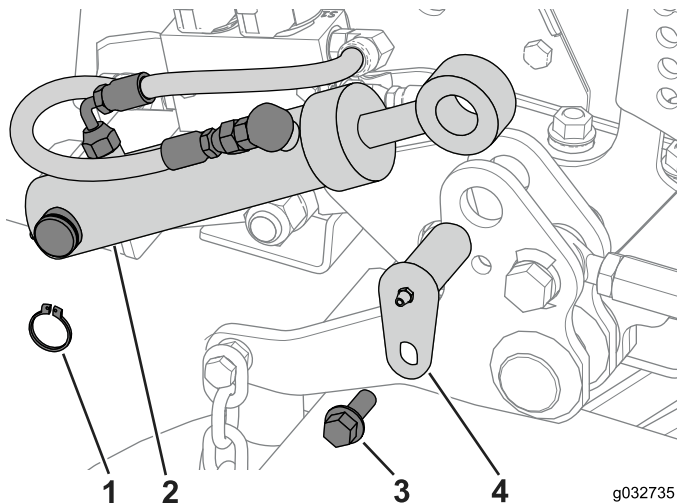


図 123

1. リテーナリング
2. 昇降シリンダ
3. ボルト
4. ピボットピン

4. 戻り側の油圧ホースを、制御バルブのTというマークのついたポートに接続する [図 124](#)。

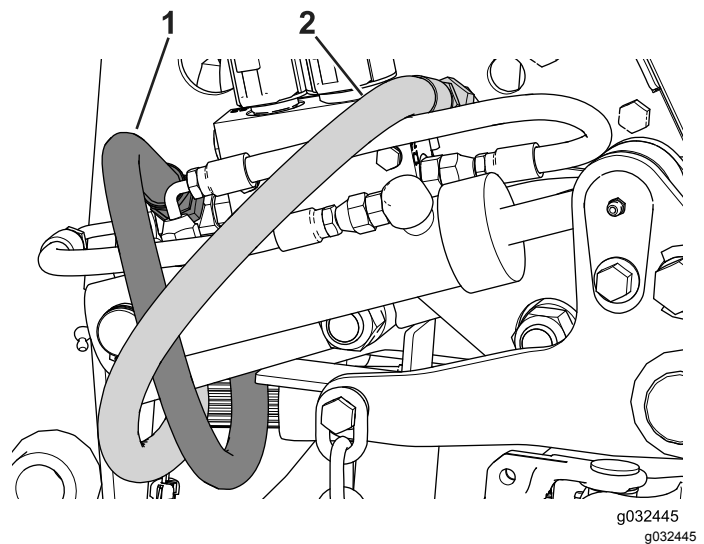


図 124

1. 戻り側油圧ホース
2. 供給側油圧ホース

5. 高圧側の油圧ホースを、制御バルブのP2というマークのついたポートに接続する [図 124](#)。
6. 全部のホースフィッティングを確実に締め付ける。

PTOを接続する

1. ロールピンで、駆動シャフトをギアボックスのシャフトに固定する [図 125](#)。

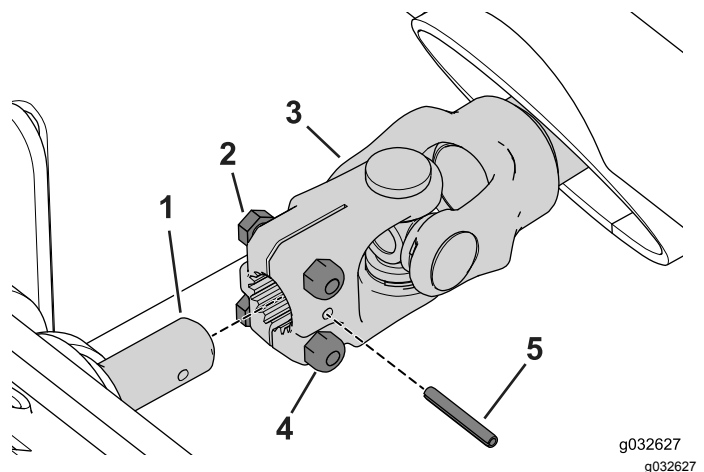


図 125

1. ギアボックスのシャフト
2. ボルト
3. PTOヨーク
4. ロックナット
5. ロールピン

2. PTOのボルトを20-25 N·m 2.1-2.5 kg·m = 15-18 ft·lbにトルク締めする。

デッキとカバープレートを取り付ける

1. ピボットピンとヘアピンを使って運転台を [図 126](#) のように固定する。

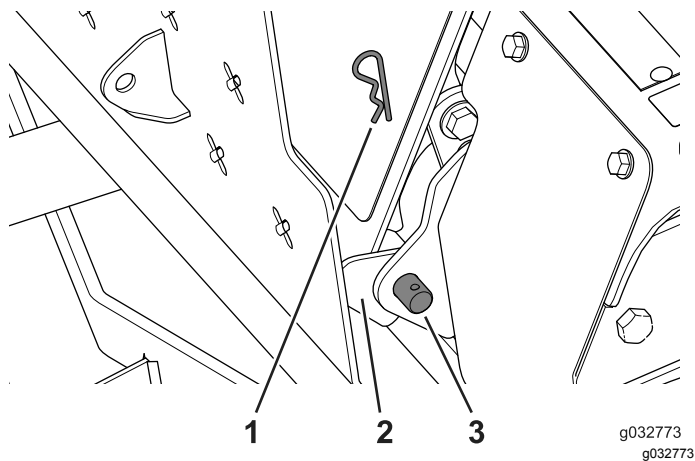


図 126

1. ヘアピン
2. 運転台
3. ピボットピン

2. ワッシャとヘアピンを使って昇降アームを運転台に固定する図 127。

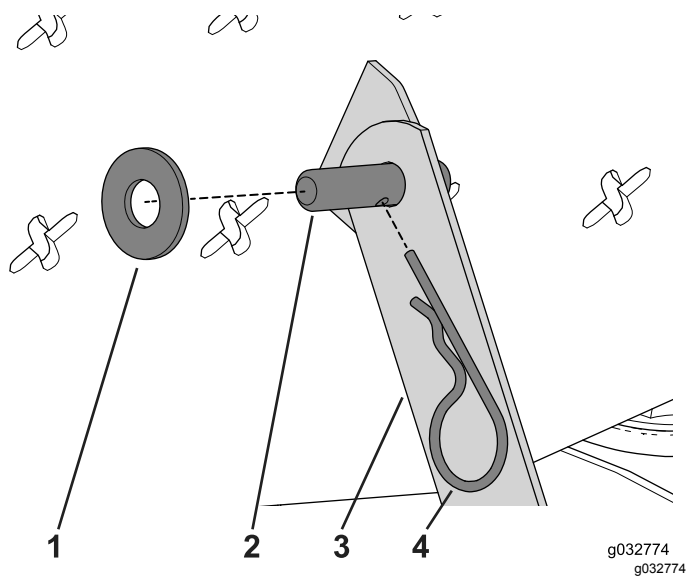


図 127

1. ワッシャ
2. ピボットピン
3. 昇降アーム
4. ヘアピン

3. ボルト $\frac{1}{4}$ " x $\frac{5}{8}$ "を使って、カバープレートを機体に固定する図 128。

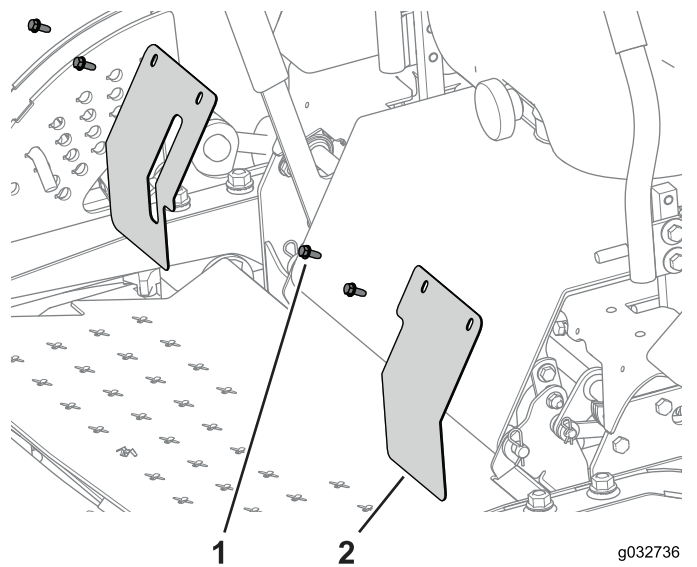


図 128

1. ボルト $\frac{1}{4}$ " x $\frac{5}{8}$ "
2. カバープレート

コンバージョン用ローラを取り外す

1. 夏用フレームの左右それぞれの側にあるコンバージョン用ローラを取り外す図 129。

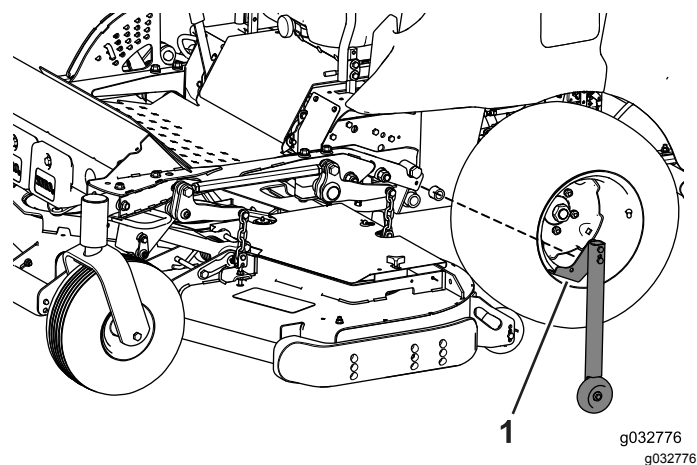


図 129

1. コンバージョン用ローラ
2. 外したローラは来冬まで格納保管する。

ROPSを取り付ける

注 ROPS 取り付け作業は二人で行う。

1. 下部 ROPS チューブの穴に、ROPS の穴を合わせる図 130。

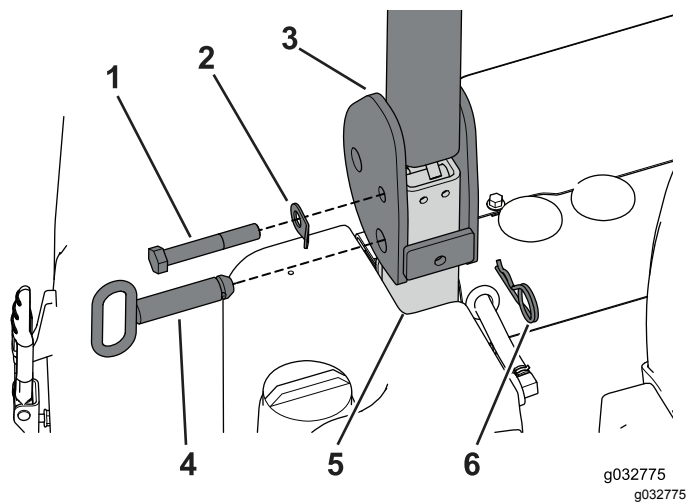


図 130

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. ピボットボルト | 4. ピボットロックピン |
| 2. ランヤードのワッシャ | 5. 下部 ROPS チューブ |
| 3. ROPS バー | 6. ヘアピン |

2. ピボットボルトとランヤードワッシャを、ROPS の上側の穴と下部 ROPS チューブの穴に合わせてボルトを手締めする [図 130](#)。
3. 機体の反対側でも、ステップ [2](#) を行う。
4. ROPS の上側の穴と下部 ROPS チューブの穴に、ピボットロックピンを通してヘアピンで固定する [図 130](#)。

夏用フレームの取り付けを完了する

バッテリーを接続する [バッテリーを接続する \(ページ 24\)](#)を参照。

保守

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 10 時間	<ul style="list-style-type: none">・ フレーム取り付けボルトのトルク締めを行う。・ ホイールナットのトルク締めを行う。
使用開始後最初の 250 時間	<ul style="list-style-type: none">・ キャブのエアフィルタを清掃する（破損していたり汚れがひどい場合は廃棄する）。
50 運転時間ごと	<ul style="list-style-type: none">・ 各グリス注入部のグリスアップを行う。（ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときにはより頻繁なグリスアップが必要となります。）・ タイヤ空気圧を点検する。
200 運転時間ごと	<ul style="list-style-type: none">・ ホイールナットのトルク締めを行う。

▲ 警告

始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備・調整作業の前には必ず始動キーを抜いておくこと。

潤滑

グリスアップと注油

整備間隔: 50 運転時間ごと ちりやほこりの非常に多い環境で使用しているときにはより頻繁なグリスアップが必要となります。

1. 平らな場所に駐車し、PTOを解除し、駐車ブレーキを掛ける。
2. エンジンを停止させ、キーを抜き取り、各部が完全に停止したのを確認してから運転位置を離れる。
3. グリスニップルをウェスできれいに拭く。
注 フィッティング前部にペイントなどが付着している場合は完全に除去する。
4. グリスガンをつittingsにセットし、グリスがベアリングからはみ出てくるまで注入する。
5. はみ出したグリスはきれいにふき取る。

電気系統の整備

重要電気系統の整備を行うときは必ずバッテリーケーブルを取り外してください。その際、ショートを防止するため、必ずマイナスケーブルを先に取り外してください。

ヒューズの点検

ヒューズについてはキャブに付属するオペレーターズマニュアルを参照してください。

マシンの電気系統に問題があると思われる場合には、まずヒューズを点検してください。ヒューズを1個ずつ外して溶断していないかどうか点検する。ヒューズの交換が必要な場合には、必ず**現在使用中のものと同じタイプ、同じ電流規格のもの**を使用してください。**ヒューズの規格が合わない**と**マシンの電気系統全体を破損させる恐れがあります。**

注 ヒューズが何度も飛ぶ場合には、その電気回路のどこかにショートが発生していることが考えられますので専門の整備士に整備を依頼してください。

走行系統の整備

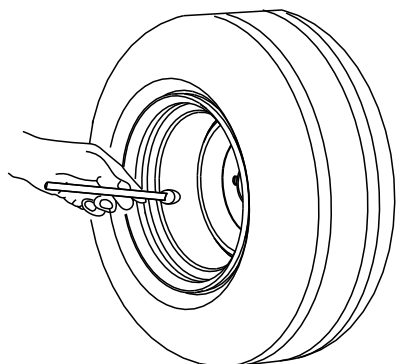
タイヤ空気圧を点検する

整備間隔: 50運転時間ごと

重要 エンジン運転する前に、前後のタイヤの空気圧を点検してください。

タイヤ空気圧が 2.4 bar 2.45 kg/cm² = 35 psiであることを確認してください 図 131を参照。

注 タイヤ空気圧がそろっていないと十分な走行力が得られません。うまく走れない場合には、タイヤの空気圧を 3.45 bar 3.5 kg/cm² = 50 psiまで上げてみてください。



G001055

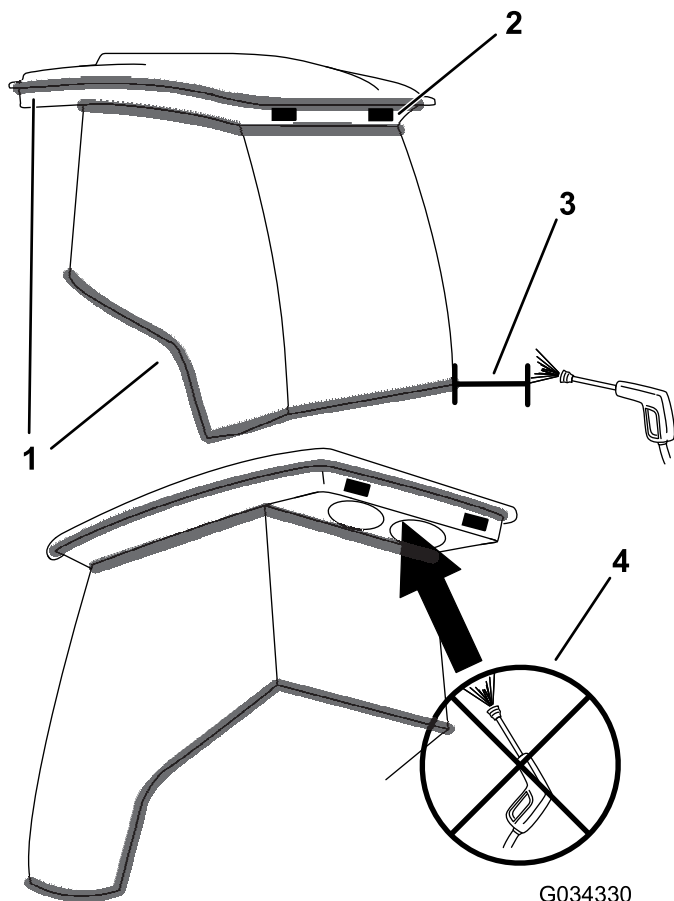
図 131

g001055

キャブの保守

Cabキャブの清掃

重要 キャブのシール部分とライト部分に注意してください 図 132。圧力洗浄機を使用する場合は、洗浄機のノズルをキャブから少なくとも 60cm 離して洗浄してください。キャブのシール部分、ライト、後部のオーバーハングに高圧洗浄機の水を直接吹き付けしないでください。



G034330

g034330

図 132

1. シール
2. ライト
3. 洗浄機のノズルを 60cm 以上離してください。
4. 後部のオーバーハング部には高圧洗浄器を使用しないでください。

エアフィルタの清掃

整備間隔: 使用開始後最初の 250 時間 破損していたり汚れがひどい場合は廃棄する。

1. キャブ内とキャブ後部のエアフィルタについているつまみねじを外して、格子を取り外す 図 134 と 図 133。

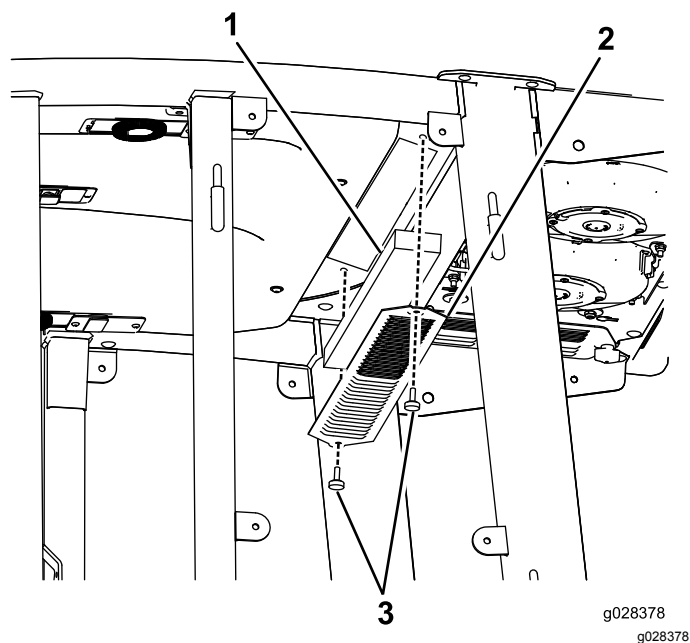


図 133

1. フィルタ
2. 格子
3. つまみねじ

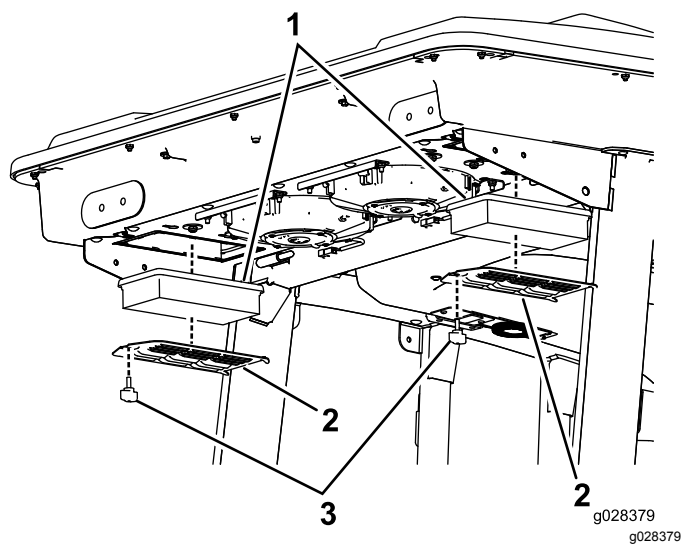


図 134

1. フィルタ
2. 格子
3. つまみねじ

2. フィルタをエアで吹いて清掃するエアにオイルが含まれていないことを確認。

重要 破れている場合や汚れがひどい場合はフィルタを交換する。

3. フィルタと格子を取り付け、つまみねじで元通りに固定する。

保管

マシンの保管

1. マシン本体とキャブをきれいに洗淨、特に以下の部分を入念に清掃してください
 - PTO シャフトアセンブリ
 - グリス注入部やピボット部
 - PTO 出力シャフトのスプラインにさび止めのオイルを塗る。
2. タイヤ空気圧を点検調整する [タイヤ空気圧を点検する \(ページ 52\)](#)を参照。
3. ボルトナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。特に、冬用フレームをトラクションユニットに固定しているボルト5本については、確実にトルク締めする $359\text{N}\cdot\text{m} = 36.7\text{kg}/\text{cm}^2 = 265\text{ft}\cdot\text{lb}$ 。
4. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップし、余分なグリスをふき取る。
5. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。

組込宣言書

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
30474	316000001-316999999 以上	グランドマスター 7200 シ リーズ芝刈り機用ポーラー トラックキャブ	CAB-POLAR TRAC	ポーラートラックキャブ	2006/42/EC, 2014/30/EU
30675	316000001-316999999 以上	グランドマスター 7200 シ リーズ芝刈り機用ポーラー トラック・キット	GM7200 POLAR TRAC KIT FOR TORO CAB	ポーラートラック・キット	2006/42/EC, 2014/30/EU

2006/42/EC別紙VIIパートBの規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み



John Heckel
上級エンジニアリングマネージャ
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
October 17, 2017

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

Tel. +32 16 386 659

欧州におけるプライバシー保護に関するお知らせ

トロが収集する情報について

トロ・ワランティアー・カンパニー・トロは、あなたのプライバシーを尊重します。この製品について保証要求が出された場合や、製品のリコールが行われた場合にあなたに連絡することができるように、トロと直接、またはトロの代理店を通じて、あなたの個人情報の一部をトロに提供していただくようお願いいたします。

トロの製品保証システムは、米国内に設置されたサーバーに情報を保存するため、個人情報の保護についてあなたの国とまったく同じ内容の法律が適用されるとは限りません。

あなたがご自分の個人情報を提供なさることにより、あなたは、その情報がこの「お知らせ」に記載された内容に従って処理されることに同意したことになります。

トロによる情報の利用

トロでは、製品保証のための処理ならびに製品にリコールが発生した場合など、あなたに連絡をすることが必要になった場合のために、あなたの個人情報を利用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の提携会社、代理店などのビジネスパートナーに情報を開示する場合があります。弊社があなたの個人情報を他社に販売することはありません。ただし、法の定めによって政府や規制当局からこれらの情報の開示を求められた場合には、かかる法規制に従い、また弊社ならびに他のユーザー様を保護する目的のために情報開示を行う権利を留保します。

あなたの個人情報の保管について

トロでは、情報収集の当初の目的を遂行するのに必要な期間にわたって、また法に照らして必要な期間法律によって保存期間が決められている場合などにわたって情報の保管を行います。

トロはあなたの個人情報を保護します

トロは、あなたの個人情報の保護のために妥当な措置を講ずることをお約束します。また、情報が常に最新の状態に維持されるよう必要な手段を講じます。

あなたの個人情報を訂正したい場合などのアクセス方法

ご自身の個人情報を確認・訂正されたい場合には、legal@toro.com へ電子メールをお送りください。

オーストラリアにおける消費者保護法について

オーストラリアのお客様には、梱包内部に資料を同梱しているほか、弊社代理店にても法律に関する資料をご用意しております。